

## 大項目 3

# 社会との連携，国際交流等 に関する目標



### 3 社会との連携，国際交流等に関する目標(大項目)

#### (1) 中項目1「社会との連携，国際交流等に関する目標」の達成状況分析

##### 小項目の分析

小項目1「高度な知的拠点として，大学（附属学校園を含む）の有する教育・研究機能をもって地域社会の教育，文化，経済，産業等の発展に貢献する」の分析

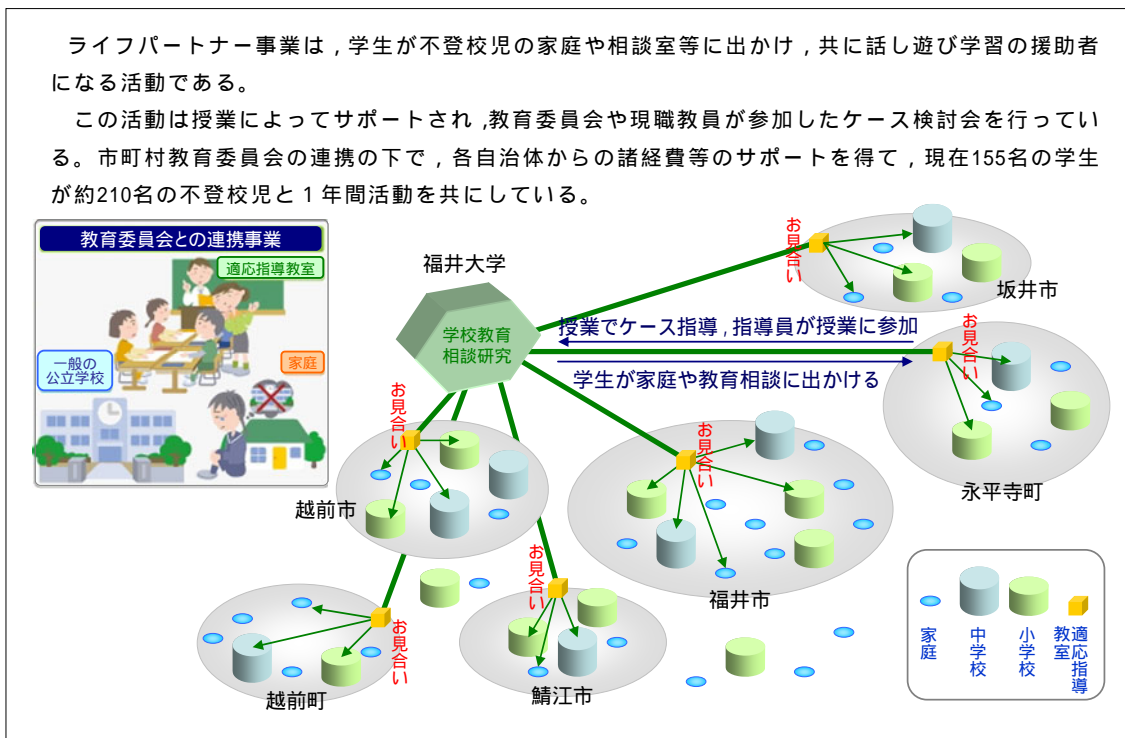
##### a) 関連する中期計画の分析

計画 1-1「**ウエイト**」特色ある大学教育支援プログラムに基づき，地域と協働して，教師の専門的な力量を形成するための『ライフパートナー事業』や『探求ネットワーク事業』などのプロジェクトを充実させる。」に係る状況

##### ライフパートナー事業・探求ネットワーク事業の推進

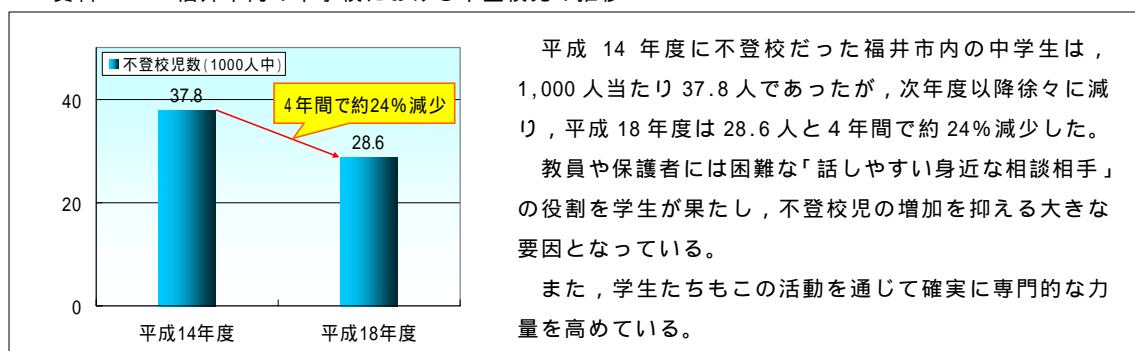
地域のひきこもり児童等への支援活動である「ライフパートナー事業」【資料 1-1-1】を推進し，不登校児の減少など高い成果をあげている【資料 1-1-2~4】。また，学生が子ども主体の学習活動を援助する「探求ネットワーク事業」【資料 1-1-5】についても，参加者は年々増加しており【資料 1-1-6】，各関係者から高い評価を得ている【資料 1-1-7】。

資料 1-1-1 ライフパートナー事業の概要



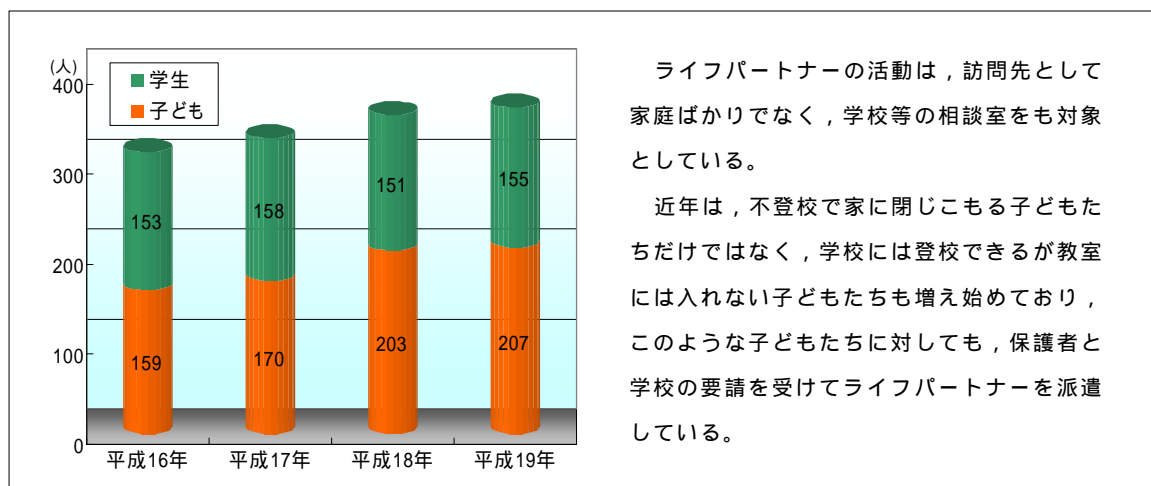
( 本学HP「特色ある教育活動等」及び基礎資料より )

資料 1-1-2 福井市内の中学校における不登校児の推移



( 事務局資料 )

資料 1-1-3 ライフパートナー活動を利用した児童・生徒数及び本学学生数の推移



ライフパートナーの活動は、訪問先として家庭ばかりでなく、学校等の相談室をも対象としている。

近年は、不登校で家に閉じこもる子どもたちだけではなく、学校には登校できるが教室には入れない子どもたちも増え始めており、このような子どもたちに対しても、保護者と学校の要請を受けてライフパートナーを派遣している。

(「特色 G P 実績報告書 2003-2006」より)

資料 1-1-4 ライフパートナー事業についての関係者の声

子どもに「こないだのお兄ちゃん今日も来るよ」と言うと、出迎えて待っているほど楽しみにしていたようです。おかげさまで夏休み明けから学校に行くようになりました。お世話になりました。(保護者)

ライフパートナーの活動をもっと多くの大学が行うべきだと思います。きっと求めている子どもたちがたくさんいるはず。このような発展した活動に取り組んでいる福井大学は素晴らしいと思います。(保護者)

本人の話し相手になってくれたことが、大変良かったように思う。担任に言えないことでも気軽に話せる場所があった。(小学校教諭)

不登校生をお願いしたところ、上手に対応していただき、週1回登校できるようになりました。学生ならではの対応で生徒の笑顔がたくさん見られました。ありがとうございました。(中学校教諭)

不登校児童にとって年も近く、何でも話すことができ、教師側から児童に課題を与えるより、ライフパートナーの学生の方がすんなりと課題を仕上げることもあった。(養護学校教諭)

始めの方はずっと私が話をしていましたが、徐々に私が話すことに興味を持ってきて、楽しそうに笑うようになりました。途中からは「学校に行きたい!」という強い意思が伝わってきました。(学生)

教師になれば、大勢の生徒を対象に授業をすることになりますが、その前に子どもたちと一対一で向き合えたのは貴重な体験でした。(学生)

ライフパートナー活動は、私に様々なことについて考える多くの機会を与えてくれました。毎回の活動の中で、「あのときはこうすれば良かった」「もっと別の注意の仕方があったのではないか」などと反省するばかりでしたが、とても貴重な経験になりました。(学生)



活動をグループで振り返る学生

(平成18年度ライフパートナー活動報告書より)

資料 1-1-5 探求ネットワーク事業の概要

探求ネットワークは、子どもの主体的な学習活動を学生が援助する活動で、隔週土曜日に 300 名の子どもが大学に集まり、120 名の学生と 1 年間にわたって活動を続ける。学生は、授業の中で活動を企画し準備を行い、その成果として学生と教員による発表の場を設け、他大学を招いた公開討論会を毎年行っている。

この探求ネットワークでは、「1つのテーマを通して、自分で考え、実行する力を養う」という目標を掲げ、継続した活動を実施している。その継続した活動を行う中で、「反省や経験を次に生かしていく力をつける」というねらいを持っている。

共に試行錯誤しながら活動を展開していく探求ネットワークの活動は、子どもにもスタッフにも大きな学びの場であり、子ども達との関わりの中で、学生自身も日々探求し、成長している。

# 探求ネットワーク 始まりました!

教育地域科学部 3年 吉田千晶・一花彰浩

私たち福井大学探求ネットワークでは、大学生スタッフと福井市内の子どもたちが文部科学省フレンドシップ事業の一環として毎月第 2・4 土曜日に活動しています。今年で 12 年目に突入し、9 つのテーマごとのブロックで活動しています。ここでは、各ブロックがどのような活動を行っているか紹介します。

### それいけ!! 探険隊ブロック

探求を中心としたキャンプ活動やネイチャーゲームをします。

### 気球ぶらっく

自分たちで気球を作って飛ばします。夏キャンプでは気球に乗ったりもします。

### ナチュラルクッキング パラダイスブロック

キャンプに出かけて、火をおこしたり、飯盒炊飯をしたりします。

### ふれあい フレンドクラブ

特殊学級や養護学校に通っている生徒さんを中心に活動しています。昨年度はみんなの前でよさこいを発表しました。

### もぐもぐブロック

みんなで協力しながら料理を作っていて、みんなに食べてもらいます。

### 福井まちかど 調査隊ブロック

福井の街を探検して、子どもたちが見つけた面白いものを発表します。

### かみおきブロック

自分たちで紙をすいて、うちわや灯るなどの作品を作ります。

### わくわく キャンプ工房

ネイチャークラフトを中心として、キャンプなどの活動を行います。

### 人形おきブロック

子どもたちが自分でお話を考え、人形を作ってみんなの前で公演します。

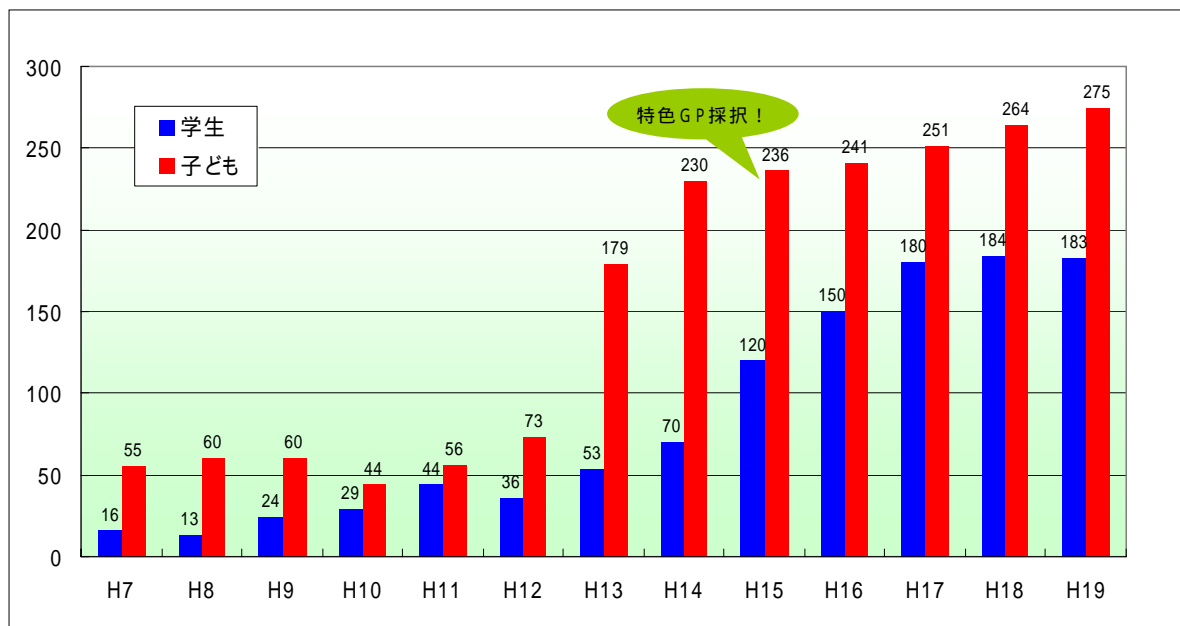
## 活動を始めていくにあたって...

私たちは5月からの本格的な活動の指導にあたり、毎日のように会議を重ねています。一人一人のスタッフが子どもに対して熱い想いを持っているので、話し合いはいつも白熱したものになります。ああでもない、こうでもないといった話し合いを何度も繰り返して私たちは毎回の活動を作り上げているのです。

また、ブロックのことだけでなく、全体の運営もスタッフで行っています。なかまつりなどの企画立案、お金の管理、新聞社やテレビ局などマスコミに活動を伝える仕事、子ども向けの雑誌の編集・発行など、様々な仕事をしています。

(基礎資料及び広報紙「CAMPUS EXPRESS Vol.13」より)

資料 1-1-6 探求ネットワーク事業への参加者数



(「特色 G P 実績報告書 2003-2006」より)

資料 1-1-7 探求ネットワーク事業に関する関係者の声

わたしは気球ブロック(探求ネットワーク)に初めて入ったとき、友達と一緒にいただけですがすごく心細かったです。でも、スタッフの人が気軽に話しかけてきてくれるので、すごくこれから、「わくわく」でした。ミニなまつりやキャンプは自分なりに今まででちょー楽しかったです。(参加者)  
 気球ブロックに入ったのは、かる～い気持ちでしたが、気球ぶろっくから感じたことはたくさ～んあると思います!!学校以外の友達もできてとっても楽しかったです。そして、なにより気球がとんだしゅん間は、達成感がものすごくあってうれしかったです(参加者)

いろんな学年の子が集まり、いろんな意見の持ち主が意見を出し合い、キャンプから帰って来るたび、「あー疲れた」しか言いませんが、次の活動に取り組む姿を見ると、「あーいいな」としみじみ感じます。(保護者)

友達が増え、いろいろな人の意見を聞くことで、息子の考え方が少しずつ変わってきたように感じます。そんな成長を見るのが楽しみになってきました。(保護者)

子どもたちの自然な姿を見て、生の声を聞けるのは、この探求ネットワークならではの貴重な経験であると思っています。探求ネットワークの活動では、子どもたち同士だけでなく、私たちスタッフも様々な子どもたちと関わることができて、人として、教師を目指す者として内面的に成長していくことができると思います。(学生)

今年みんなと活動して、前よりもっと先生になりたいくなりました。みんなと一緒に計画を立てたり、御飯をつくったり、遊んだりするのがこれ程までに楽しいと気づいたからです。探求ネットワークの活動のおかげで、自分の夢に自信がつきました。(学生)

運営に携わり、会議や活動で司会をする機会がたくさん得られた。会議の進め方・子ども達の言葉を拾い上げながらの活動の司会は、正直きつかった。しかし、これらを経験したことが、少なからず自分の力になっていると確信する。(学生)



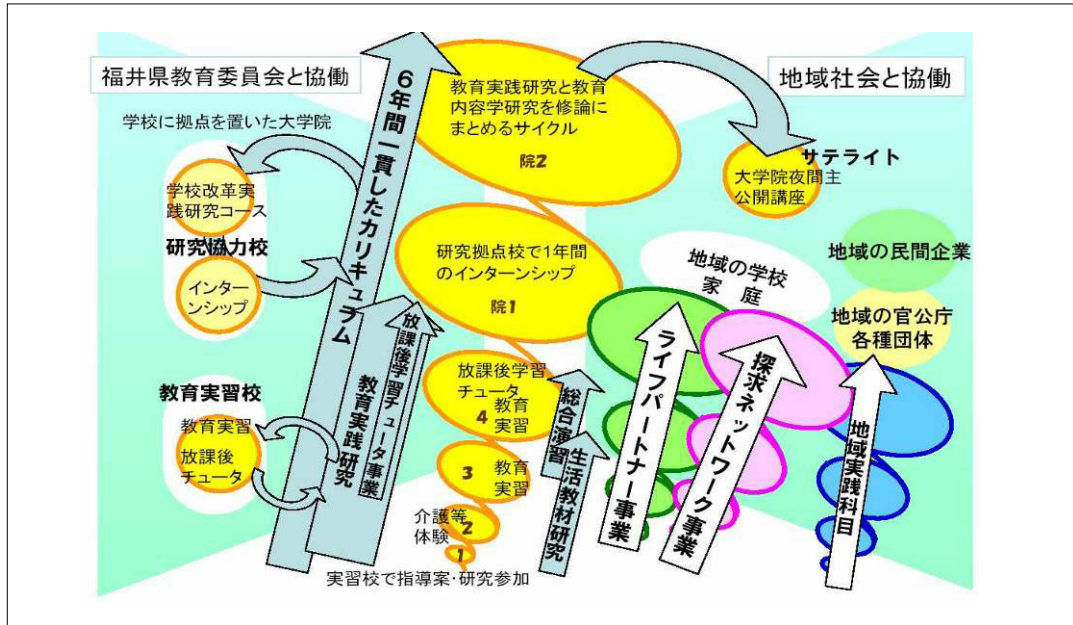
実施報告会の様子

(「特色 G P 実績報告書 2003-2006」より)

特色G Pの獲得

ライフパートナー活動，探求ネットワーク事業の両プロジェクト【資料 1-1-8】については，10年以上に渡り組織的に取り組んでいる全国的にも珍しい活動であり，教育委員会や小・中学校の教師からも高く評価されている【資料 1-1-9】。

資料 1-1-8 特色G P「地域と協働する実践的教員養成プロジェクト」の概念図



(福井大学ホームページ「本学のG P採択状況」より)

資料 1-1-9 特色G Pへの申請・採択に関する記事

「採択は当然」と周囲の反応に活動の浸透を実感

今回の申請に際して、福井大学は教育支援推進検討特別委員会を設置し、02年11月から8回の会議を開いた。各学部や留学生センターから提出されたプロジェクトをどのテーマに申請するかも検討しながら協議。その結果、10年間にわたり組織的に取り組んできた実績や地域への貢献度が高く評価され、この二つのプロジェクトを中心とする新しい教員養成の取り組みの申請が決定した。

「教育実習」も教員養成の核として申請候補となった。同校の教育実習は事前事後学習も重視しており、1年次から4年次にわたって行われる必修科目で、全国的にも珍しい形態だ。

「ただし、教育実習自体は他の大学にもあります。ライフパートナー事業や探求ネットワークは教

育実習を補完する取り組みですが、他校にはないという点で申請が決定しました」(松木助教授)

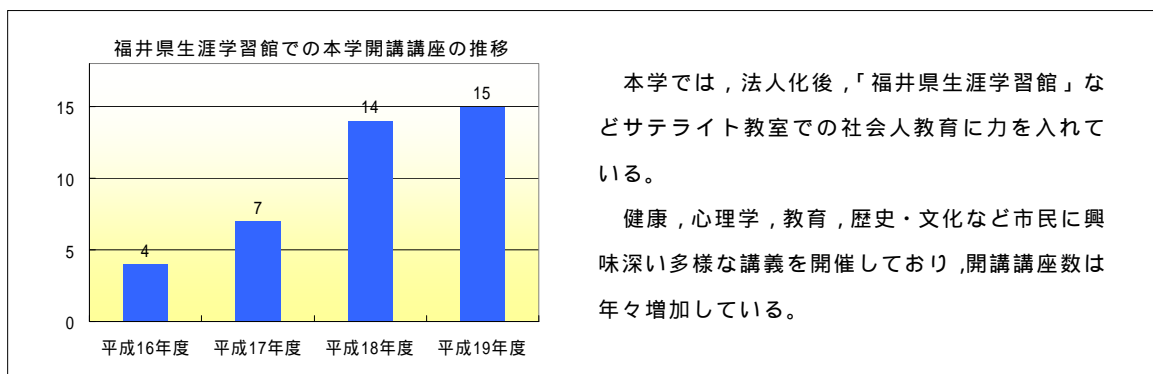
ヒアリング審査では、委員からプロジェクトを評価する発言があったため、採択に期待が持てたと教育地域科学部の内田高峰学部長は言う。ただし、難関を突破して選ばれたことに対しての周囲の反応は冷静だ。「両プロジェクトとも地域にかなり浸透しているためか、参加している教育委員会や小・中学校の先生は当然のことと受け止めているようです」と内田学部長は言う。

(「Between」 200 - 改革期の高等教育を考える - P34 より)

計画 1-2 「社会人の教育に関して、サテライト教室など学外の教育拠点を設置し、生涯学習の拡充を図る。」に係る状況

サテライト教室での公開講座の開講  
 福井県生涯学習館等をサテライト教室とする連携事業への講師派遣や、県との連携による公開講座の実施等により、社会人に対する生涯学習への機会拡充に寄与した【資料 1-2-1～2】。

資料 1-2-1 サテライト教室での開放講座の開催について



(事務局資料)

資料 1-2-2 福井県生涯学習 大学開放講座 (平成 19 年度)

講義内容	所属	役職	氏名
親と子のコミュニケーション・子どもの心との対話	福井大学教育地域科学部	教授	松木 健一
平泉寺の興り・繁栄・そして滅亡	福井大学教育地域科学部	教授	松浦 義則
人づくりからまちづくりについて	福井大学工学研究科	講師	薬袋奈美子
体のことを考えよう ～糖尿病の予防～	福井大学医学部	教授	宮森 勇
魅力あるまちづくりに大切な考え方・取組について	福井大学工学研究科	教授	野嶋 慎二
インフルエンザのはなし	福井大学医学部	教授	木村 吉延
生活習慣病について	福井大学医学部	教授	栗山 勝
馬借街道と人々の交流	福井大学教育地域科学部	教授	松浦 義則
自立と共生のまちづくり	福井大学工学研究科	教授	櫻井 康宏
「人づくり、まちづくりの基本は家庭・地域から」子どもの心との対話	福井大学教育地域科学部	教授	松木 健一
「感性をみがこう」コンサートと講演 音楽を通じて出会った人々とのふれあい	福井大学教育地域科学部	教授	越野 正信
糖尿病の予防	福井大学医学部	教授	宮森 勇
面白くて身体にいい古典文学	福井大学教育地域科学部	教授	三好修一郎
現代人のライフスタイルと健康	福井大学教育地域科学部	教授	戎 利光
ライフスタイルと健康の科学	福井大学教育地域科学部	教授	戎 利光

(福井県生涯学習館要覧より)



生涯学習市民開放プログラムの拡充

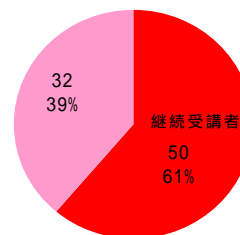
本学の講義を低料金で一般市民に開放する「生涯学習市民開放プログラム」を平成 14 年度から全国に先駆けて開設しており、参加者からも高く評価されている【資料 1-2-3~5】。また、受講生交歓会を年 2 回開催し、受講生間の交流を深めるための活動を推進している【資料 1-2-6】。

資料 1-2-3 「生涯学習市民開放プログラム」について

「生涯学習市民開放プログラム」は、国立大学で初めて国の認可を受け、平成 14 年度に始まった。教養教育に加え専門教育についても開放の対象科目としており、平成 19 年度は前期 108 科目、後期 125 科目を開放した。

受講資格として年齢や学歴を問わず、受講料も一科目当たり 9,400 円と低額に設定している。受講生は、40~70 代の主婦・定年退職後の男性が多く、継続受講率も高い。

継続受講者の数 (H17 後期 H18 前期)



リピート率は、毎期約 6 割に達する。

国立大で初めて国の認可を受け、平成 14 年度に始まった。教養教育に加え専門教育についても開放の対象科目としており、平成 19 年度は前期 108 科目、後期 125 科目を開放した。

福井大学が好評。豊富なニューと低料金、年齢を重ねても学ぶ意欲を後押し、多くのリピーターを獲得している。学生の刺激にもなっており年齢を超えた交流も生まれている。

世代を超えて

学生に交じり、建築設計の講義を受ける井口幸恵さん。熱心な学習態度が学生に刺激を与えている—福井大



福井大 市民開放講義 が好評

学習意欲刺激

千福町。昨年度後期から受講しており、発達心理学から建築設計、環境エネルギーまで幅広い科目は幅広い。初めは素人同然だが、疑問点をその都度質問して解決するよう心掛けていた。講義が面白くなってきた。難解な内容を理解できたときの喜

学生と交流も

講義後、若い学生と食堂で談笑する生涯学習市民開放プログラムの受講生(右端)。これも本学で学ぶ魅力の一つ—福井大

豊富な科目、低料金

英語の科を中心に、初年度から欠かす受講している船木純一さん(左)「福井市手寄一丁目」は、商社勤務時代に海外取引に携わって語学に関心を持ったのがきっかけ。「学生と並んで講義を受けると気分が上がる。予習復習が欠かせず、宿題も出る。カルチャー塾と違い、たしなみ程度の感覚では続かないから気が引き締まる」と話す。「大学ならではの専門的な学習に触れたかった」とは井口幸恵さん(右)「武生市東」。

(福井新聞 H16.12.6)

資料 1-2-4 生涯学習市民開放プログラム開講科目数及び受講者数

平成 14 年の開講以来、ホームページ・広報紙などによる周知に努め、口コミによる評判などもあって、毎年、常に 100 人以上の受講者を集めている。

年度	平成 16 年度	平成 17 年度	平成 18 年度	平成 19 年度
開講科目数	267	270	258	233
受講者数	131	131	111	109

(事務局資料)

資料 1-2-5 生涯学習市民開放プログラム受講生の感想

今回初めて受講させて頂きましたが、毎回の講義はとても興味深く、有意義なものでした。学ぶことの楽しさを、改めて感じさせて頂きました。

孫のような学生さん達と、息子のような教授に講義を受ける機会に恵まれ、毎回楽しく出席させて頂きました。この年になっても、新しいことを知ることは何とも嬉しいことです。心理学、教育学、文学論などまだまだ学びたいことがあります。体の続く限り、講義を受けたいと思いますのでよろしくお願ひいたします。

先生方は色々とお席や授業内容の希望など、意欲的に取り組んでおられる様に思います。学生の一層の向学心を期待します。

学生と共に授業を受けられることに感謝いたしております。連続で同じ科目を受講いたしておりますが、学期別に「テーマ」が異なり、興味深く過ごさせて頂いております。

今期より新たに専門科目の一部を開放していただき、本当に有り難うございました。難解な部分もありますが、先生方がご親切に快く質問に答えて下さるのでとても楽しく、学生時代に戻ったようです。

(「平成 17 年度前期受講生からの感想」より)

資料 1-2-6 生涯学習市民開放プログラム受講生交歓会の設立

「生涯学習市民開放プログラム」の修了生や受講者による同窓会を平成 16 年度に設立し、前・後期ごとに本学教員を講師とした講演会・会員相互の研究発表会・学生との交流活動を開催するなど、受講生間の交流を深めるための取組を推進している。

生涯学習市民開放プログラム受講生交歓会を開催しました。

7月31日(月)、アカデミーホールにおいて、第9回生涯学習市民開放プログラム受講生交歓会を開催しました。

これは、平成18年度前期に生涯学習市民開放プログラムを受講された方の修了証書授与式をかねて行われ、27名の受講生の方が出席されました。

内田副学長の挨拶に始まり、「歩いて暮らせるまちづくりとは？」と題した工学研究科建築建設工学専攻 川上教授による講演、意見交換、そして修了証書授与と進められ、受講科目によっては初顔合わせになる受講生の方々は、修了した喜びを分かち合い、和やかなひとときを過ごされました。



修了証書授与 おめでとうございます

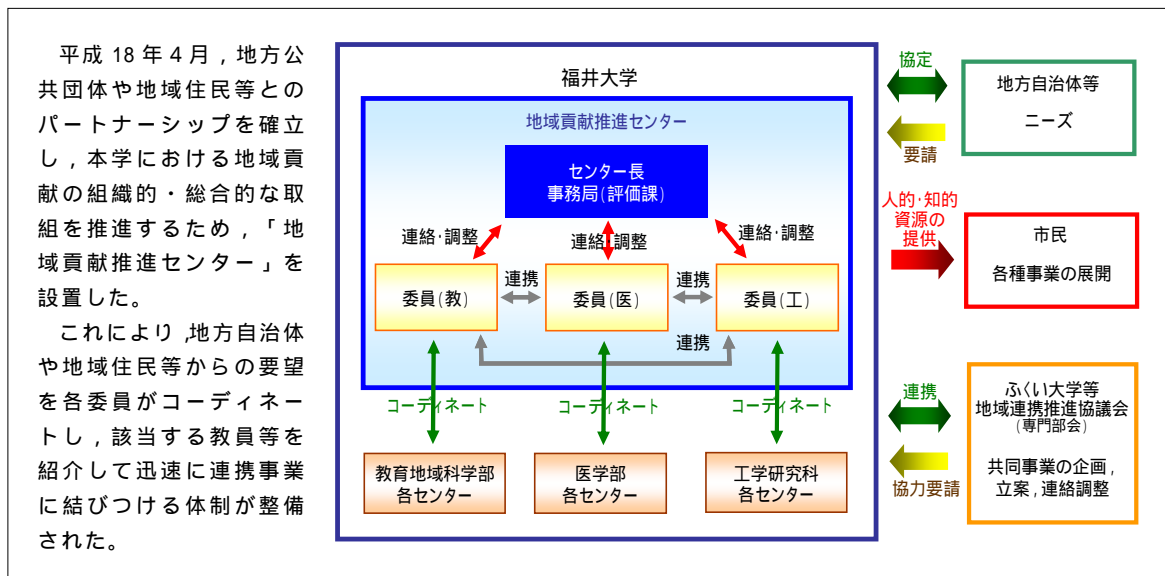
(本学HP「ニュース&トピックス」より)

計画 1-3 「地域や関係機関等に対して，知的資産の活用と人的協力等を行うための支援体制を整備する。」に係る状況

地域貢献推進センターの設置

平成 18 年度の「地域貢献推進センター」の設置により，大学が持つ知的資産を地域と結びつける体制を整備し【資料 1-3-1】，地域の諸機関との連携事業を推進した【資料 1-3-2】。

資料 1-3-1 地域連携活動を推進するための体制の整備



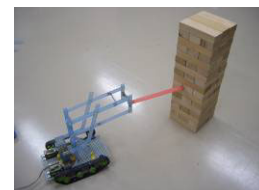
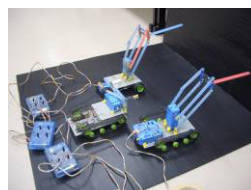
資料 1-3-2 地域貢献推進センターの活動例：近隣店舗との連携企画の開催

平成 19 年度に，文京キャンパス近隣に位置する㈱ホームセンターみつわ西福井店との連携を締結し，各教員の協力により店内の空きスペースを有効利用した各種企画を立案した。本学の教育研究の成果を地域住民に PR することができ，店舗側にとっても自慢できる店づくりプランの構築及び集客の増加に繋がった。



「㈱ホームセンターみつわ」との連携企画一覧

企画名	内容	対象
1 電子工作教室	電子サイコロや電子占い器などのオリジナルのキットを製作し，モノづくりのおもしろさを体験してもらう。	小学 4 年生 ～ 中学生
2 ロボットスプリント競技会	約 8 m 程度の直線コース(競技場に貼られたテープ)上を走行し，タイムレースを行う。	小学 4 年生～大人
3 ブロックタワー競技会	ジェンガーのロボット版。直方体の木材が積み上げられたタワーからロボットを操縦してより多くの木材を抜き取る競技。	小学 4 年生～大人



(事務局資料)

大学連携リーグの形成

平成 19 年度に「大学連携リーグ」を形成し【資料 1-3-3】，各大学との連携による共同研究や小中学校での課外授業，市民開放講座の開催等を通じて，地域社会への教育研究促進に貢献した【P42 資料 1-8-3～4】。

資料 1-3-3 「大学連携リーグ」の発足による福井県内の高等教育機関との連携

本学をはじめとする県内 8 大学等が連携協力する「大学連携リーグ」を平成 19 年度に形成し，小・中・高等学校などの地域社会への教育研究推進に貢献している。

各大学が連携することにより，従来カバーできなかった分野の課外授業や各大学のシーズを集めた公開講座を開催することが可能となった。

大学連携リーグに参加する高等教育機関

「大学連携リーグ」が発足

8 大学・高専 小中高に課外授業

県立大学と県内の 8 大学・高等専門学校が連携して全体的な研究レベルを向上しようと「大学連携リーグ」を発足し、25日、県庁で初回の懇談会があった。県内の小中学校と大学が連携して課外授業に取り組むことなどを申し合わせた。リーグに参加したのは県立大学のほか福井大学、福井工業大、仁愛大、仁愛女子短大、敦賀短大、福井医療短大、小中学校の連携では、福井工業高専。懇談会では西川一誠知事が「県内の大学が連携して成長の可能性がある」と語り、県民生活の向上を目指したい。今後、新しいアイデアを事業化したことと、引き続き連携研究として、介護予防など地域のニーズに直結したテーマを取り上げ、250万円を限度に研究費の半額を補助する。小中学校の連携では、冬休み期間中に小中高 2 校に大学教員が巡回し「地域の起こる仕組み」など 10 前後のテーマで 1 校当たり 1 講座を実施。高校については 10 月、来月号に「海洋生物研究」など 6 前後のテーマから高校側が選択し、放課後や休日に大学教員が講義する。懇談会では「教員の研究内容の分かる人材データベースをつくる」とも。福井駅前定期的に公開講座を開いては「教員同士の人事交流をしたい」との意見があり、今後専らレベルで調整することになった。

(朝日新聞 H19.7.26)

(総務企画課資料)

地域医療支援の拡充

附属病院では、分娩医療を休止した勝山市の福井社会保険病院の分娩引受【資料 1-3-4，P43 資料 1-8-5】や，僻地の医療機関との連携による医療人育成【P80 資料 1-15-4】などの支援体制を確立している。

資料 1-3-4 奥越地区における分娩患者の受入について

全国的に産婦人科の医師不足が大きな話題となっており，奥越地区でも唯一の産婦人科を持つ福井社会保険病院において，平成 19 年 4 月から分娩が休止された。この対策のため，本学附属病院において分娩の受入体制を整え，奥越地区の患者の不便・不安を解消することに努めた。

医学部附属病院と福井社会保険病院との産婦人科診療連携

大野市・勝山市・福井県

奥越住民の不便を解消し、高度産婦人科医療を提供

(事務局資料)


### 災害ボランティア活動支援センターの設置

平成 17 年度に、大規模災害が発生した際、学生や教職員の自発的な意志に基づくボランティア活動を支援することを目的に「災害ボランティア活動支援センター」を設置し、各種取組を実施した【資料 1-3-5~7】。

資料 1-3-5 災害ボランティア活動支援センターについて

平成 16 年 7 月に発生した福井豪雨において、本学からも学生・教職員を合わせて延べ 700 人以上のボランティア参加があり、被災者支援や災害復興に大きな成果を上げた。

これらの取組を組織化し、実際の災害時の活躍につながる仕組みづくりを行うと共に、活動に必要な様々な研修のための場を提供するため、「災害ボランティア活動支援センター」を設立した。



ボランティア活動を行う学生

**福井大学**

**災害ボランティア活動支援センター**

県や学外の災害ボランティアセンター等との連絡、連携活動	学生及び教職員等への支援活動	学生及び教職員等に対する災害ボランティアに関する啓発活動
・災害時の連携 ・平常時の連携 ・ボランティア保険等の対応の検討 ・募金活動 等	・災害時におけるボランティア情報の学内への提供 ・授業の補講等の支援 ・器材の貸出 等	・講習会実施 ・教育・訓練の企画 ・災害ボランティアに関する授業科目の設定についての提案

学生

↓ 支援・連絡

教職員

⇔ 連携

県・学外のボランティア活動グループ等

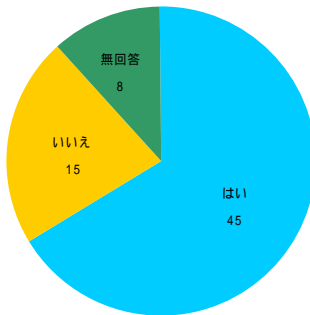
(事務局資料)

資料 1-3-6 福井豪雨被災者からの感想等

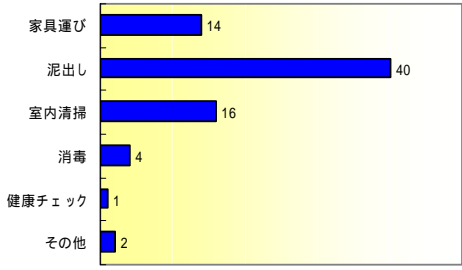
**被災者からの声**

被災した住宅を見たときには、住宅復旧を諦めようかと思っただけでも、ボランティアに泥出しなどをしてもらい、再建する気持ちになった。ボランティアが来てくれたことで、励まされ、支えになってくれた。身体的にも精神的にも大いに貢献してくれた。


**ボランティアを頼みましたか**



**ボランティアの活動内容**



**ボランティアに対する感想**



(災害ボランティアセンター資料より)

資料 1-3-7 ボランティア研修会・開放講義の実施

災害ボランティアについての関心を高めてもらうことを目的に、地域住民にも参加を広く呼びかけ、ボランティア研修会・開放講義等を積極的に開催した。



災害ボランティア研修会の様子 (H19.2.3)



学生らが受講した災害ボランティア論(福井大)

**災害ボランティア論  
福井大が講義開放**

福井大学は18日、今年度(2004年)の福井豪雨を例に開催した災害ボランティアに、ボランティアセンターを市民に開放し、講師の役割と機能について講義を非営利組織(NPO)「ふ」した。学生ら約60人が受講。トの松森和人理事長は、豪雨被害に連携した共設協会の「福井方式」と命はれるセシタ1運営システムを構築した経緯を説明。また、同大医学部看護学科のボランティアが孤立した山間部に入って健康チェックをしたと、1948年の福井地震の際には関東の大学生たちがボランティアとして活躍したエピソードを話し、「被災者を思う心、絶対にあきらめない強い意志を持って活動してほしい」と呼びかけた。

( 読賣新聞 H19.1.19 )

昨年末、一通のメールが届きました。内容は、救急救命講習会に参加したことにより、自宅玄関脇で倒れていたお父さんの命を救うことができた、というものでした。「すぐに手当てできるかどうか、この差は大きいですね！実感しました！！」  
同じような事が起きたら、あなたは対処できますか？

いただいたメールの内容

先日、救命救急処置の講習を受けさせていただきましたが、今朝、早速その実習体験が役に立ったので、メールさせていただきました。

結果から先に申しますが、『心停止状態だった87歳の親父を蘇生させ、救急車で病院へ搬送し、すぐに通常の状態へと回復』しましたので、後は妻に任せて職場に出てきました。

経過：

朝7時30分頃、自宅を出ると、玄関脇の花壇に仰向けで寝ている親父を発見。口を大きく開けて痙攣し、まともな呼吸はなし。大声で呼びかけるも応答なし。舌が奥に入り込んでいて、呼吸はできていない様子。人工呼吸の必要性を意識。そのまま、衣服の上から心臓マッサージ開始。1分程度したら弱いが自発呼吸が戻る。脈を診ると定期的な脈を確認。すぐに自宅に入り、妻に報告。救急車を呼んでもらう。自分は親父の元に戻り、呼びかけるが応答はない。(意識レベルは相変わらず低い)。呼吸は弱いながら戻ってきているので、(親父の背中に花壇のブランターが当たっていたので)片手で背中を持ち上げ片手で心マッサージを継続。5分後に救急車到着。「脈有り、自発呼吸もどり、意識レベル低い！」と報告。すぐに救急隊員に引き継ぎ。救急車に搬入後は次第に意識も戻りはじめ、僕の声にも反応を示す。そのまま近くの病院へ搬送。当直医に診せるころ、意識も回復。言葉はたどたどしいが医師の言葉にも反応。指示通りの腕の上げ下げができる。心電図検査、CT検査後、自分でぼつりぼつり話し始める。倒れる前後の記憶も戻りはじめた。

病室に搬入するころには、普通の状態に戻りました。今は心臓のモニターを付けられてうつらうつら病室で眠っているようです。付き添いの必要はなさそうだから仕事に出かけて良いとのことでしたので、後は妻に任せて、職場に出てきました。(10時00分)。

いやー、まさに実践でした！あの実習のままでしたね。除細装置は使わなかったですけど、心臓マッサージの効果に驚きです！

実は今年の4月に、大事な友人が同じように倒れて、半年以上入院しているのです。意識は戻ったものの、記憶は徐々にしか戻らず、今は歩行訓練やりハビリの途中。付き添いの家族が大変なんです。家族の前で倒れて、20分くらい救急車が来るまで何もすることができなかったとか。すぐに手当てできるかどうか、この差はやはり大きいですね！実感しました！！

ほんとうにありがとうございました。長くなりましたが、今朝の報告とお礼です。

( 災害ボランティアセンター資料より )



子どもの悩み 110 番による支援

電話でいじめや不登校などの教育相談を受付ける「子どもの悩み 110 番」を平成 6 年度から開設しており、保護者や子どもの悩みを受け止める窓口として、関係者からの高い評価を得ている【資料 1-3-10～11】。

資料 1-3-10 「子どもの悩み 110 番」のご案内


子どもの悩み 110 番  
- 日頃の思いを語ってませんか -

小学生・中学生・高校生の皆さん。お父さんお母さん・おじいさん・おばあさん。  
そして、教師の皆さん。日頃の思いや悩みを語ってませんか？

学校、家庭、地域で、悩んだり、困ったりしていませんか？  
いじめ・体罰・校則、そして部活動・勉強・障害の悩み……学校へ行けなくて悩んでいませんか？

日本も批准した国連の「子どもの権利条約」では、子ども達こそが主人公です。  
日頃だれにも相談できないことを、電話でもファックス(FAX)でも気楽に寄せて下さい。  
面接相談も受け付けます。弁護士や医師・大学のスタッフが一緒になって考えていきます。

もちろん、「秘密」は堅く守ります。(相談はすべて無料)



子どもの悩み110番  
一日頃の思いを語ってませんかー

(本学ホームページより)

資料 1-3-11 「子どもの悩み 110 番」による悩み相談の開設

「子どもの悩み 110 番」では、本学教員の他にも弁護士や医師もスタッフとして加わり、電話での相談だけでなく、相談者の了解を得た上で、学校や教育委員会を訪れるなど、きめ細かな対応を行っている。

累計の相談件数は、900 件を超え、保護者や子どもの悩みを受け止め、解決への手助けとなる貴重な窓口となっている。

## 「子どもの悩み110番」50回に



相談の3割不登校

福井大教員ら 14年間で累計915件

LDやADHDなど増加傾向



26日に開かれる50回目の「子どもの悩み110番」のピラを手にする福井大の森透教授＝福井市文京3丁目の福井大で

福井の教員が電話で教育相談を受け付ける「子どもの悩み110番」が、26日で50回を迎える。98年9月に14回の緊急で開設、弁護士・医師・カウンセラーらにより、必要な場合学校の授業を休む解決策に努めてきた。累計の相談件数は900件を超え、保護者や子どもの悩みを受け止める窓口となっている。(白田福徳)

当時福井大に勤務していた武庫川女子大学の小林剛教授や、福井大教員地域センターの細田康一准教授。このほか、福井市立社会福祉センターの森透教授が98年度の3日間、学内に臨時電話を設け、センターの夜間値勤教師の計5人が、保護者や子どもの悩みを受け止めていた。現在は男子生徒は「丸刈」5件、このうち最多は不登校14件、相談件数は915件。現在は男子生徒は「丸刈」5件、このうち最多は不登校14件、相談件数は915件。

松本健一教授、岡大保健管理センターの細田康一准教授。このほか、福井市立社会福祉センターの森透教授が98年度の3日間、学内に臨時電話を設け、センターの夜間値勤教師の計5人が、保護者や子どもの悩みを受け止めていた。現在は男子生徒は「丸刈」5件、このうち最多は不登校14件、相談件数は915件。

LDやADHDなど増加傾向

福井での相談でなく、相談者の大半は若くは、初回は校則や体罰についての相談が多かった。LD(学習障害)やADHD(注意欠陥・多動性障害)など軽度発達障害に関する相談が増加傾向にある。

電話での相談だけでなく、相談者の理解を得た上で、学校や教育委員会を訪れるなどの対応を行っている。LDやADHDなど軽度発達障害に関する相談が増加傾向にある。

福井での相談でなく、相談者の大半は若くは、初回は校則や体罰についての相談が多かった。LD(学習障害)やADHD(注意欠陥・多動性障害)など軽度発達障害に関する相談が増加傾向にある。

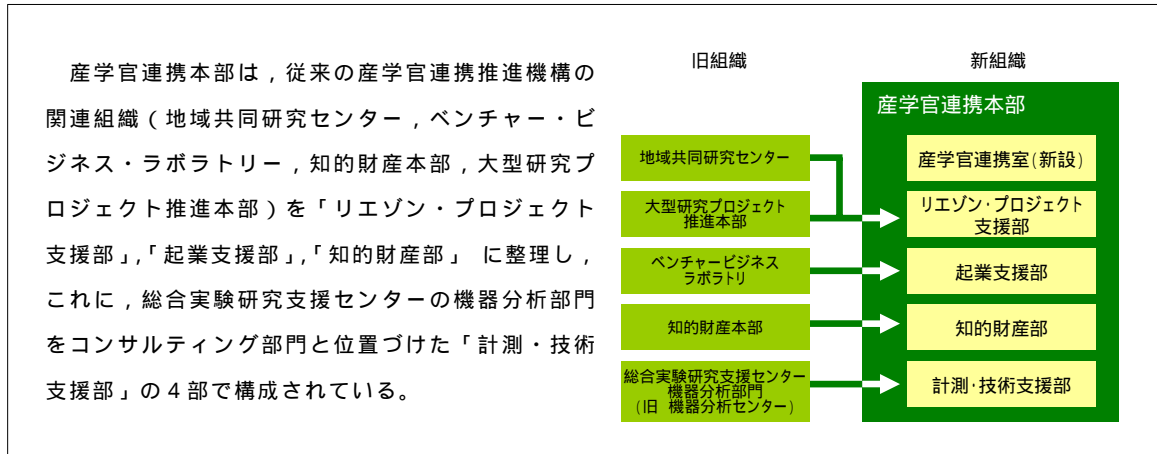
(朝日新聞 H19.5.26)



### 産学官連携体制の構築

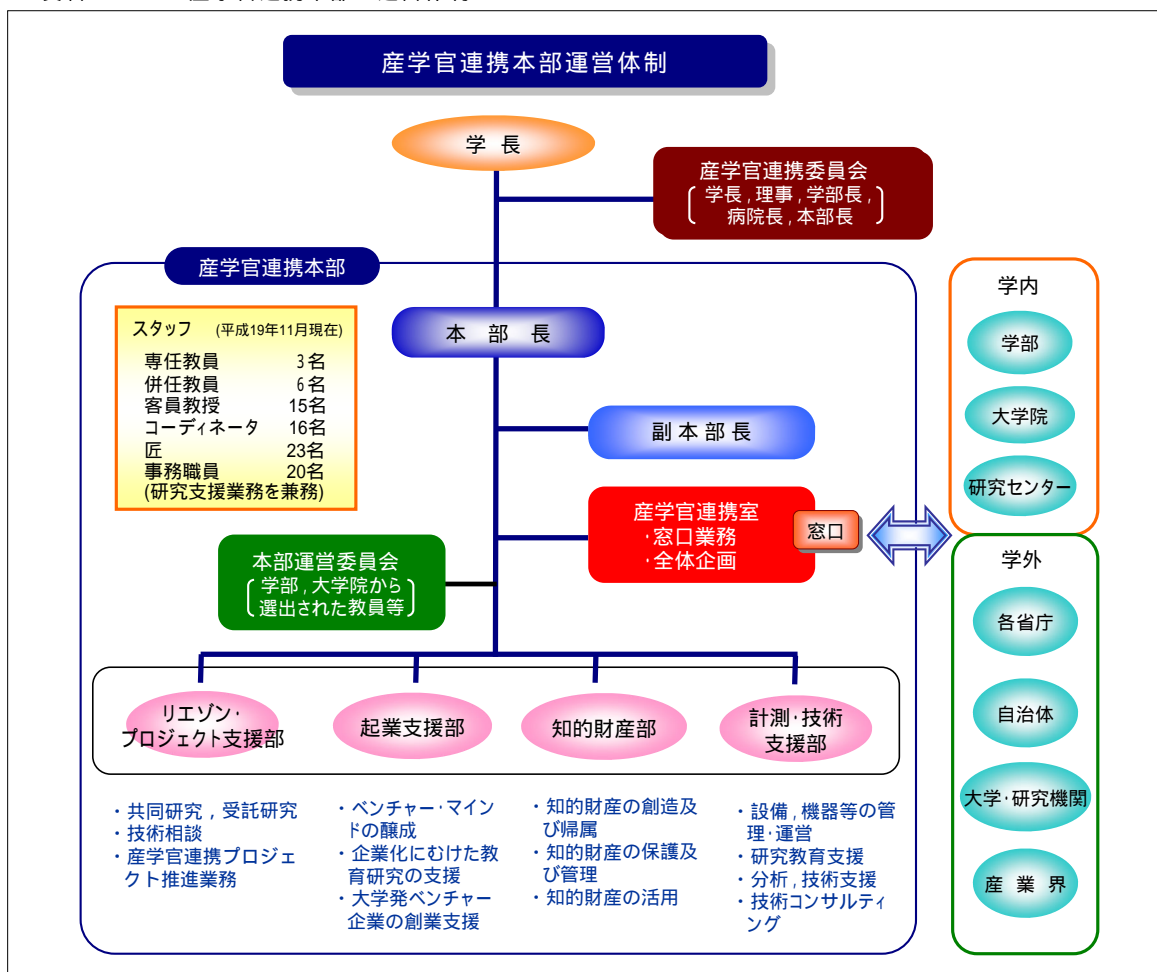
平成 19 年度に産学官連携本部を設置し，委員会・人員・予算・外部との窓口等の一本化を図り，必要な情報を共有・分析して学内外の多様な要請に即応できる体制を整備し【資料 1-3-12～13】，知的資産の活用等を促進した【P54～55 資料 1-10-7～10，P56～61 資料 1-11-1～3，1-11-6～8】。

資料 1-3-12 産学官連携本部の設置について



（「産学官連携本部パンフレット」より）

資料 1-3-13 産学官連携本部の運営体制



（「産学官連携本部組織図」より）

環境保全活動の支援

地域環境研究教育センターにおいて、地方自治体と連携等に基づく地域の環境保全活動のための取組を推進している【資料 1-3-14】。

資料 1-3-14 地域環境研究教育センターにおける地域の環境保全活動のための取組

地域環境研究教育センターでは、地域の環境保全活動のために福井市や福井市が主導する NPO との連携を深め、平成 17 年度に福井市環境パートナーシップ会議と「環境活動の交流」に関する覚書を締結し、地域の環境教育活動で協力体制を図っている。

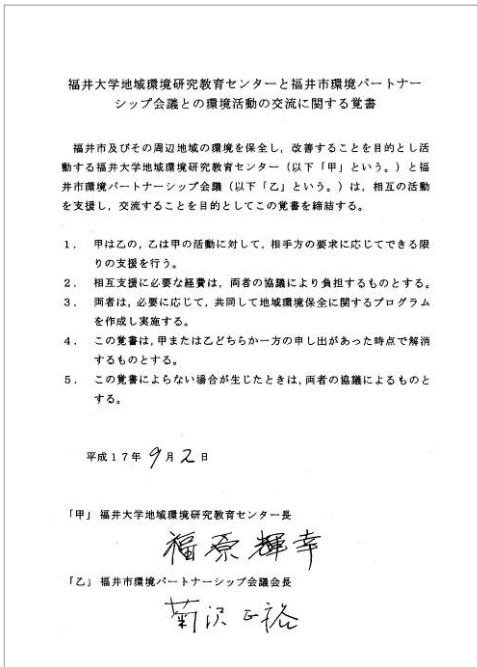
センタースタッフの多くは、福井県や市町村の環境や防災関係の委員として参加し、委員会を通じて地域防災力を高めるための提案を行っている。



環境保全の取組



地域環境ニュースの発行



環境活動の交流に関する覚書

センター構成員が参画する地域の環境保全活動等に関する主な会議

所属	氏名	委員
教育地域科学部	服部 勇	福井県環境審議会委員，福井県庁環境マネジメントシステム評価委員
教育地域科学部	中田 隆二	敦賀市環境審議会委員，勝山市環境審議会委員，福井県衛生環境研究センター評価委員
教育地域科学部	山本 博文	一般 8 号大谷地区地滑り対策検討委員会，福井市地下水質検討専門委員会
医学部	日下 幸則	環境省中央環境審議会専門委員，福井県環境審議会委員
教育地域科学部	月原 敏博	総合地球環境学研究所「高所プロジェクト」メンバー
工学研究科	福原 輝幸	足羽川建設事業環境影響評価技術検討会委員，道路防災ドクター
工学研究科	永長 幸雄	福井県環境審議会委員，福井県廃棄物処理施設設置適正管理検討会委員
工学研究科	永井 二郎	生涯学習大学開放講座協議会委員
工学研究科	磯 雅人	福井県耐震診断等評定委員会，コンクリートのひび割れ調査，補修・補強指針改定委員会委員
工学研究科	川本 義海	南条 S A スマート I C 社会実験協議会協議員，地域公共交通会議委員（美浜町・小浜市・若狭町・南越前市）

(「地域環境研究教育センター自己点検評価報告書」より)

計画 1-4 **ウエイト**「地域ニーズの把握に努め、大学の特色を生かした教育・研究・医療の成果等を市民に開放する。」に係る状況

各種イベントの開催による成果の開放

公開講座・医学講座をはじめ、福井大学一日遊学・元気プロジェクトまつり・北陸4大学連携まちなかセミナー・ウィークエンドコンサート等の各種イベントを多数開催し、地域に根ざしたイベントとして多くの市民からの好評を得ている【資料 1-4-1～12】。

資料 1-4-1 公開講座の実績

<p>毎年、多彩な公開講座を実施し、多くの市民に生涯学習の場を提供している。</p> <p>講座終了後には、参加者へのアンケートを実施するなど、地域ニーズの把握に努め、次回開催に向けての改善・新規公開講座の開設に繋げている。</p>	実施年度	実施件数	延べ参加数
	2001(平成 13)	31 講座	603 人
	2002(平成 14)	35 講座	1,489 人
	2003(平成 15)	29 講座	1,959 人
	2004(平成 16)	31 講座	1,813 人
	2005(平成 17)	32 講座	2,613 人
	2006(平成 18)	33 講座	2,169 人
	2007(平成 19)	38 講座	2,146 人

(「年度別公開講座開講実績」より)

資料 1-4-2 平成 19 年度公開講座受講者の声

人工知能システムの考え方  
 専門用語は難しかったが、新しい分野を学習できて興味深かったです。今後とも地域の開かれた大学として発展されることを期待いたします。私どもも出来る限りの支援をいたします。ありがとうございました。

ハンディキャップを持つ人のご家族のための描きやすい絵画・つくりやすい造形教室  
 気づくとすぐ時が過ぎており、気持ちよく疲れました。老後の自分が期待できるかも…。先生の歯切れ良さに包まれての講義。満足して帰ることができます。ありがとうございました。

ダイエットの恐怖～少子高齢化社会における問題点・中高年者に良くある目の病気～  
 X線写真や肺癌の病巣などを見本で見せていただきましたが、そのような講義は実感できて、質問もしやすく大変盛り上がり良かったです。大変分かりやすい話で、身につまされるばかりで、とても感激しました。

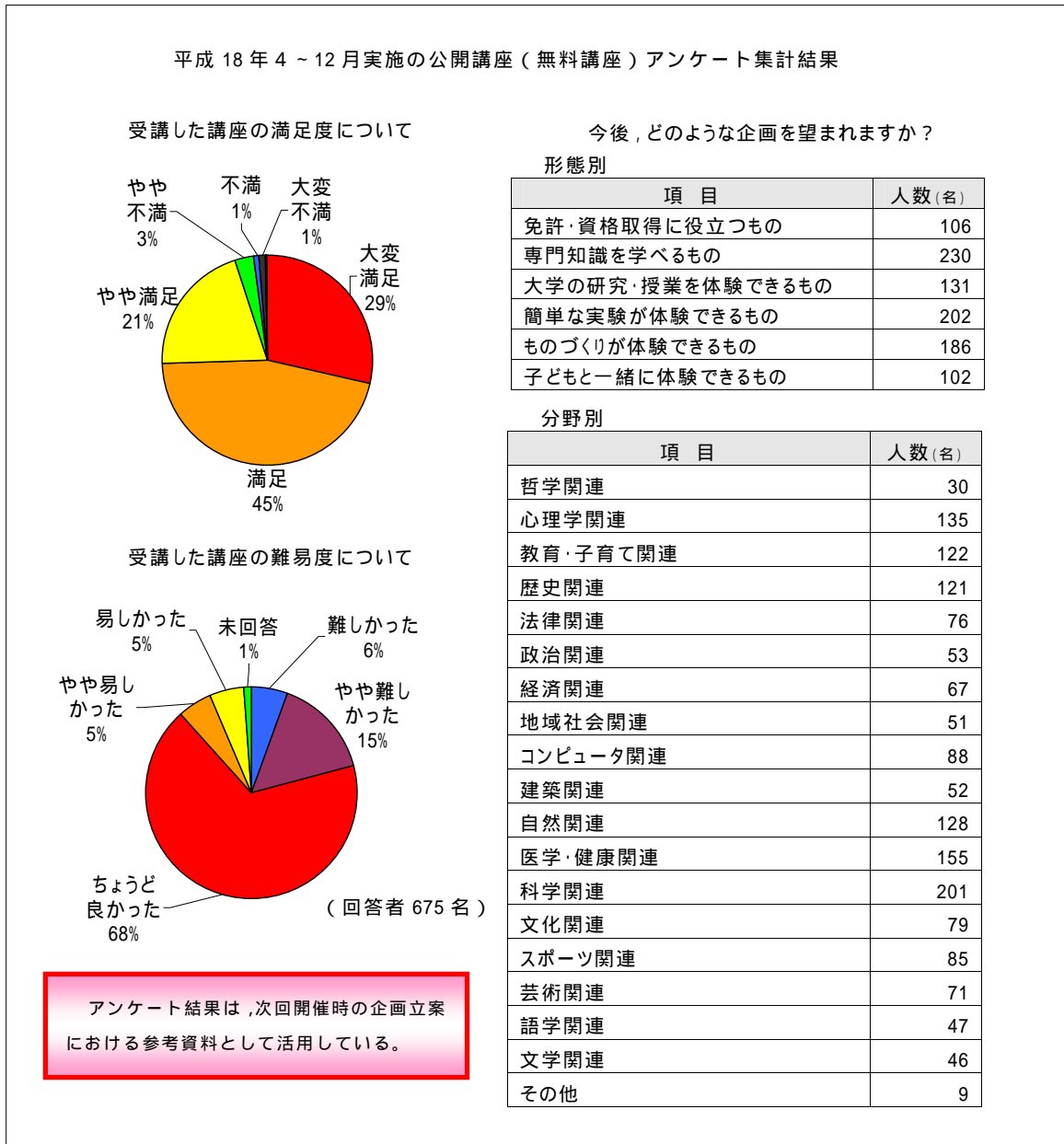
みらいを創る e-家族～家事から学ぶエネルギー  
 生活と密着した事例で学ぶことができたことで、生活を見直すことを発見でき、とても良かったです。映像を使ってのお話、実験等がわかりやすく楽しく学べて良かったです。  
 日本の電気事業が原発なしでは成り立たないことがよく分かりました。安全・安心な原発の研究や代替エネルギーの開発に、是非力を入れてください。

わくわく物理実験  
 付き添った親まで、楽しい実験の数々でした。私が子供の頃にもこういう講座があったならば、理科嫌いにならなかったのに・・・と思いながら、子供と一緒に参加していました。今度リニアモーターカーに乗れるのですが、訪れる時には今日の話思い出して、興味をもって乗れそうです。  
 子ども達は、どの実験もとても興味深く楽しめたようです。(特にスライムが面白かったようです。)ありがとうございました。来週も来ます。

超のびのびスライム

(「公開講座アンケート調査結果」より)

資料 1-4-3 福井大学公開講座に関するアンケート結果について



(「平成 18 年度福井大学公開講座アンケート集計結果」より)

資料 1-4-4 インターネットからの公開講座の申込受付について

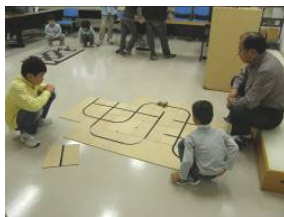
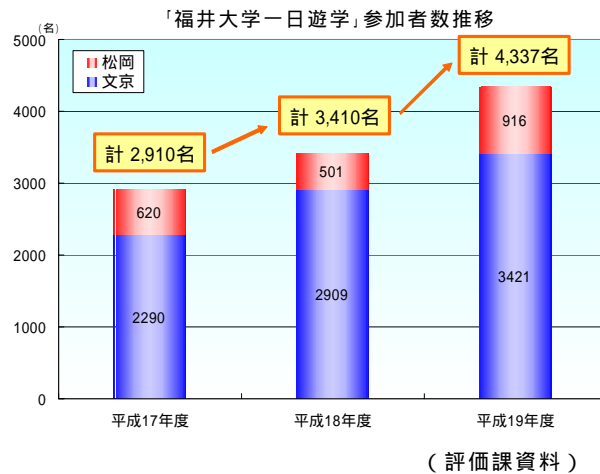
公開講座申込フォーム

アンケート結果等に基づく受講者からの要望に応え、平成 17 年 4 月から、国立大学法人では初となるインターネットによる公開講座の申込受付を開始し、更なる利便性の向上を図った。また、平成 19 年度からは、公開講座の情報をリアルタイムに広く提供するため「地域貢献推進センターからのご案内」として、希望者にメールでの配信を行っている。

(地域貢献推進センターHPより)

資料 1-4-5 「福井大学一日遊学」について

大学と地域社会との連携事業の一環として福井大学を開放し、教職員や学生が積極的に市民と交流して本学の教育・研究活動を幅広くアピールすることを目的に、平成 17 年度から毎年開催している。大学祭と同時開催で文京キャンパスは 5 月、松岡キャンパスでは 10 月に実施し、地域に根ざした大学開放イベントとして定着している。



(事務局資料)

資料 1-4-6 平成 19 年度「福井大学一日遊学 in 文京」アンケート集計結果

参加者の声

大変活気があり元気をもらった一日でした。今日だけ大学生の気分です学内を探索いたしました。また来年も来たいです。

小学 5 年の娘に大学のキャンパスってこんなものっていう楽しみを味わわせてやりたくて、はるばる連れてきました。どれもおもしろくて良かったです。子供も大喜びでした。

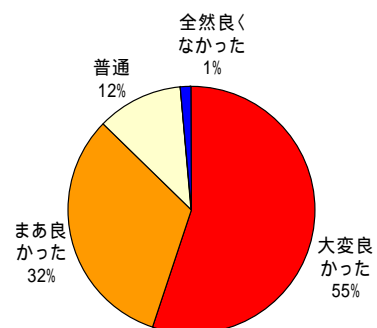
教えてくれた先生がとてもやさしかったので、僕も将来学校の先生になろうかなと思いました。

とても親切で中学生でもすぐにわかりやすく楽しかったです。初めて来たけれど楽しくて、また来年来ます。

年々企画の内容がバージョンアップしていて毎年来ていても楽しめるので、とても良いと思います。

中学生の子供が、ぜひ福井大学に入学したいと言っていました。学生さん方のとても楽しそうところがすごく良かったらしいです。


今回の「福井大学一日遊学 in 文京」についてどのようにお感じになりましたか？




開催日 H19/5/26(土)  
参加者延べ人数 3421 名  
アンケート回答者数 226 名

(「平成 19 年度福井大学一日遊学アンケート集計結果」より)

資料 1-4-7 「元気プロジェクトまつり」について



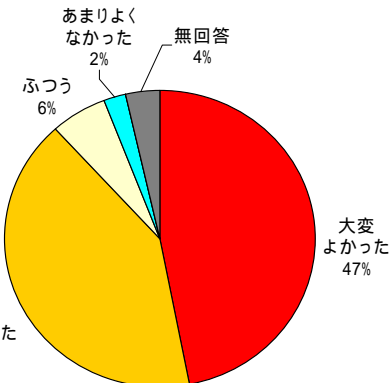
学生の自発的な研究・実験の成果を発表し「福井大学の元気の輪」を地域社会にも広めていくことを目的とした公開イベント「元気プロジェクトまつり」を平成 16 年度から毎年開催している。知能ロボットの体験・フォーミュラカーの展示・ビデオ制作等のユニークな授業の成果を発表すると共に、地元商店街と一緒に取り組んできた活動の成果発表など、地域に根ざした活動を紹介しており、多くの参加者から好評を得ている。



(事務局資料)

資料 1-4-8 第4回福井大学元気プロジェクトまつりアンケート集計

**今回の「福井大学元気プロジェクトまつり」について、どのように感じになりましたか？**



**【参加者の声】**

きっと子供の心にも科学への興味の目が育ったと思います。はじめての参加でしたが、今後も参加したいです。時を忘れていました。

なかなか触れることのできないロボットで遊べて、とても楽しそうでした。科学の入り口になってくれたらいいなあと思います。



いろいろな場所を見学して、子供に夢を持たせることができました。

とても楽しかったです。学生さんが親切なのも良かったです。

自然の中での体験がいい。ツリーハウスは、ずっとやってほしいです。

**今後、どのような企画を望まれますか？**

項目	人数(名)
キャンパス見学	20
研究成果の発表	16
産学連携の成果発表	10
地域貢献活動の成果発表	3
各種講演	7
コンサート	5
模擬実験・模擬授業	21
子ども向けミニ実験・遊び場	37
大学教員との懇談会	4
福大生との交歓会	10
学生のサークル活動の成果発表	11

開催日 H19/10/20(土)  
アンケート回答数 85 名

(「福井大学元気プロジェクトアンケート集計結果」より)

資料 1-4-9 北陸4大学連携まちなかセミナー

地域社会の多様な生涯学習ニーズに応えるべく、福井・富山・金沢・北陸先端科学技術大学院の4大学共催で「北陸4大学連携まちなかセミナー」を開催し、「知」との出会いの場を提供している。		H16～19年度まちなかセミナー開講科目（本学実施分）	
実施日	実施会場	実施テーマ・講演題目	本学講師
H16.11.14	金沢大学サテライトプラザ	「ユビキタス社会を支援する次世代リチウム電池技術への取り組み」	工）荻原 隆
H16.10.30	とやま市民交流館	「安心して暮らせるコミュニティづくり」	工）葉袋奈美子
H17.11.3	金沢大学大学教育開放センター	「生活習慣病の予防」	医）高橋 貞
H17.12.10	ウイング・ウイング高岡	「あなたの食生活は大丈夫？」	病）北山富士子
H18.11.3	金沢大学大学教育開放センター	「加賀一向一揆と越前の大名」	教）松浦 義則
H18.11.18	とやま市民交流館3F学習室	「子どもが子どもらしくあるために大人ができること」	教）氏家 靖浩
H19.11.3	金沢大学大学教育開放センター	「活断層と福井地震、能登半島地震」	教）山本 博文
H19.11.17	とやま市民交流館3F学習室	「歴史的建造物を群として次代に伝える」	工）福井 宇洋



(事務局資料)

資料 1-4-10 ウィークエンドコンサート

大学が文化発信の拠点となって、地域に質の高い芸術文化を提供し、学生・教職員・卒業生・一般市民の交流の場となるよう、定期的に親しみやすいコンサートを開催している。(法人化後、4年間で計38回開催)		平成19年度 ウィークエンドコンサート一覧	
開催日時	タイトル	解説	
H19.04.27	『春・きらめき』	シーズンオープニング・プロ企画は、馬場信子(琴)&高木裕美(ピアノ)によるコンサート。今シーズンの幕開けにふさわしくきらめく春、心ときめく美しい音色をあなたにお届けします。	
H19.05.18	『ベートーヴェン・ピアノソナタの醍醐味』	学部学生、しかも男性3人によるコンサート。ベートーヴェン・ピアノソナタの名作『ワルシュタイン』『熱情』『告別』を熱演します！	
H19.06.23	『音楽とダンスと融合2007』	浜中康子(パロックダンス)&伊藤誠(ヴァイオリン)両氏をお招きして、今年も優雅で高貴な世界にあなたをお誘いします。	
H19.07.20	『夏・再会』	大学院生、卒業生によるコンサート。音楽をさらに深く学び続ける大学院生、また、自分の大好きな楽器に取り組み続ける卒業生。素敵なお話や演奏をご期待下さい。	
H19.10.26	『秋・再会～チェロ&ピアノ…デュオの世界～』	下半期オープニングは、人気チェリスト・宇野哲之氏と高木裕美の共演。今年もチェロ&ピアノの豊かな表現をご堪能下さい。	
H19.11.23	『ショパンはいかが？2007』	大好評の『ショパンはいかが？』。今年もショパン大好き学生4名がそれぞれのお気に入りの作品を選んで、心を込めてお届けします。	
H19.12.21	『あたたか冬のハーモニー2007』	毎年の人気学生企画。今年はどうなる楽しいステージを繰り広げてくれるのでしょうか？私も今からワクワク。歌に踊りにトークに...ご期待下さい。	
H20.01.11	『冬・再会～連弾の魅力2008～』	ピアニスト・小島伊津子&高木裕美が奏でる4手連弾。1台のピアノから繰り広げられる絶妙な表現をお楽しみ下さい。	
H20.02.29	『ボン・ボワージュ(よい航海を)2008』	大学院生によるソロコンサート。日頃の研究成果をこの機会にたっぷりご披露致します。	



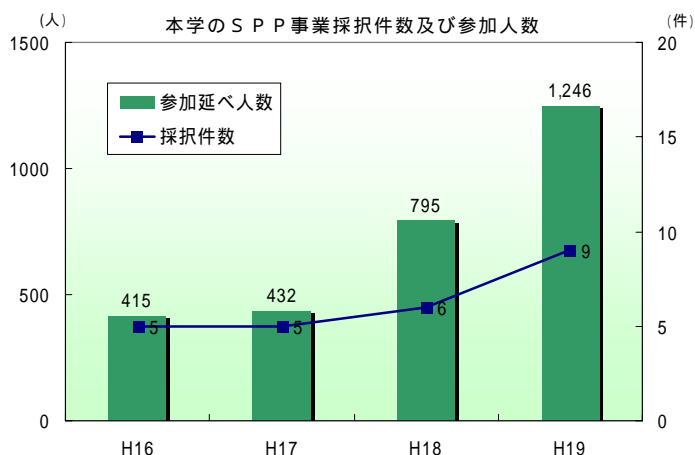
(事務局資料)

資料 1-4-11 サイエンス・パートナーシップ・プロジェクト事業



S P P 事業に参加する高校生の様子

「サイエンス・パートナーシップ・プロジェクト事業（S P P 事業）」は、中学校・高等学校・教育委員会等と大学等との連携により、児童生徒の科学技術、理科・数学に関する興味・関心と知的探究心等を育成する活動に対して、科学技術振興機構が支援するものであり、本学での採択件数・参加人数は、共に毎年増加している。



(事務局資料)

資料 1-4-12 ひらめき ときめきサイエンス

「ひらめき ときめきサイエンス」は、我が国の将来を担う小学校 5・6 年生・中学生・高校生が大学の最先端の研究成果の一端を「見る・聞く・触れる」ことで、学術と日常生活との関わりや科学が持つ意味を理解してもらうプログラムである。

本学では、平成 18,19 年度に日本学術振興会から各 2 件の採択を受け、2 年間で計 200 名の参加を得ている。



マウスの解剖実験の風景

参加者の声

自分で分子模型を作ってみて、すごく楽しいと思いました。またこの企画があったら参加したいです。

今回は本物の人間の脳に触れるという貴重な体験ができたのでよかったです。脳はただの神経の塊ではなく、役割を持った神経の集まりで構成されているということがとてもよく分かりました。

学校では体験できない本格的な実験ができ、なかなか体験できない人間、ウサギ、マウスの消化管に触ることができてよかったです。TVでしか見たことがなかったけれど、実際に見た消化管はTVとはちがっていてとても貴重な経験ができました。将来医学に携わりたいので、是非また機会があったら参加したいです。本日は本当にありがとうございました。

今日はなかなか体験することができない、マウスの解剖ができて本当によかったです。普段は図でしか見ることのない耳の中を、自分の目で見れて感動したし、耳の構造を理解することができました。また、ぜひ参加したいです。

(事務局資料)



### 地元商店街との連携による取組

大学に隣接する商店街を中心に町全体を地域教育活動の場と位置づけ、持続的に地域の活性化を図る活動を実施し、平成 17 年度現代 G P に採択されている【資料 1-4-13～14】。

資料 1-4-13 地域教育活動の場の持続的形成プログラムによる活動について

「地域教育活動の場の持続的形成プログラム」では、大学に隣接する田原町商店街を中心とした町全体を地域教育活動の場と位置づけ、大学生と地域住民とが一体となってまちづくりを考えていく。教員と学生が多彩な研究成果やノウハウを活かす「学際実験・実習」をベースに、多角的に環境まちづくり教育を行っており、平成 17 年度現代 G P にも採択されるなど、関係者からも高い評価を受けている。

商店街全体を巻き込む「打ち水大作戦」の実施

地域住民と学生との交流組織「雑木林を楽しむ会」の結成

底喰川の拡幅をきっかけとした環境学習・デザインの考察

学生常駐の地域との交流拠点としての「たわら屋」の開設

音楽科学生と子どもたちによるミニコンサートの実施

美術部・美術科学生による銭湯「桃の湯」での壁画作成

( 本学 H P 「特色ある教育活動等」より )

資料 1-4-14 「地域教育活動の場の持続的形成プログラム」に対する関係者の声

大学生には感謝、感謝の一言に尽きる。田原町デザイン会議の活動のイベントや新聞など活動の全般を担い、なくてはならない存在である。地域貢献度は非常に高い。( 30 代女性 )

若さがあり、瞬発力があり、住民が疲れた時でもしっかり後押ししてくれるから進んでいける。若者の文化も知ることができ、本当にありがたいと思っている。( 50 代女性 )

福井大学生はとても優秀だと思う。イベントや活動が企画立ててできるし、地域貢献している。ツリーハウスや平成 19 年度の L E D のイルミネーションイベントなど、新しい学生が入り集客力の高い空間を創出できた。( 50 代男性 )

とても素晴らしい学生たちに出会い、色々な活動を共にし、自分自身の向上心を引き出してくれたことに心から感謝している。学生たちが企画から運営まで担ってくれるので地域貢献度は非常に高い。( 50 代女性 )

田原町商店街のたわら屋や地域との窓口になってくれ、小学校の紹介を受けたりと地域とのつながりが一気に広がった。( 学生 )

田原町のイルミネーションのイベントで雑木林での L E D の装飾を合同で行い、住民の方をはじめ色々な方がほめてくれ、好反応を得られたことがうれしかった。( 学生 )

田原町の子どもやお店の人も顔見知りになり、買い物に行くと「お姉ちゃん」と慕ってくれるなど、住んでなくても受け入れてもらえる人間関係がある。自分が住んでいる所では近所の人も知らないが、田原町で受け入れてもらえることが嬉しい。( 学生 )

地域へ出て他学科や市民との交流、田原町デザイン会議との企画会議を通じて、知らなかった範囲が見えてきたのが新鮮だった。これからもたわら屋と連携して自発的に地域に出て行く場をつくりたい。( 学生 )

( 平成 19 年度 「地域教育活動の場の持続的形成プログラム」活動報告書より )

授業「南極教室」の実施

第 47 次南極観測隊員として派遣した本学職員が、昭和基地と鯖江市内の小学校を衛星回線で結び、テレビ会議システムにより授業「南極教室」を実施した【資料 1-4-15～16】。

資料1-4-15 授業「南極教室」の実施について



テレビ会議システムを利用した「南極教室」(鯖江市中河小学校)

南極昭和基地と鯖江市中河小学校を衛星回線やインターネットで結び、テレビ会議システムを利用した授業を平成 18 年 1 月 19 日に実施した。

授業には 5・6 年生 90 人が参加し、隊員が外部カメラを遠隔操作して氷で白くなった海や冰山など基地周辺の景色や基地の設備を紹介した。また、南極の生態や氷山の不思議などのクイズを出しながら説明し、子どもたちも南極での生活について隊員に次々と質問した。

子どもたちは基地に滞在している観測隊員から南極での暮らしや気候などを教わり、はるか遠くの南極に思いを馳せていた。

(事務局資料)

資料1-4-16 「南極教室」を受講した児童たちの感想

南極のことがいろいろ分かりました。例えば南極には魚が約 200 種類もいることや、昭和基地にはアデリーペンギンとコウテイペンギンの 2 種類がやってくることです。でも、1 番びっくりしたことは、冰山はしょっぱくないということです。南極で食べるごはんも毎日同じものばかりかと思ったら、毎日メニューがちがってとてもおいしそうでした。南極に行ってみたくなりました。

南極とのテレビ会議は、もう一生できないことかもしれないから、いい思い出になりました。ぼくも南極に行ってみたくなったけど、家族とわかれなければいけないので、行きたいのが半分、行きたくないのが半分です。

テレビ会議がはじまったとき、わたしはわくわくしていました。今南極にいる人たちに質問ができるからです。南極には白クマはいないと聞いて、すごくびっくりしました。わたしも南極へ行って、ペンギンをさわってみたいと思いました。

昭和基地のみなさんと人工衛星を使って通信ができるなんてすごいなあと思いました。昔は、南極に行くのもすごく大変だったのに、今ではテレビ会議ができるくらいですから、便利な世の中になったなあと思いました。

「LET'S GO いいことあるさ」を歌ったら、隊員の人が「勇気づけられた」と言ってくれたのでうれしかったです。家族や友達とはなれてさみしいと思うけど、これからもがんばってほしいです。

実際に南極とつながったら、南極にいるなんて思いませんでした。南極の人の説明で、南極のことがよく分かりました。例えば日本との時差が 6 時間で南極は今、夏なのに 0 度しかないと聞いて、南極の自然はきびしいんだなあと思いました。他にもゴミはちゃんと分別して、生ゴミは炭にしている、かんきょうに気をつけているんだなあと思いました。

南極の人は一人一人の役割があるから、一人でも抜けるととても大変だということが分かりました。隊員の人はいやなことはないと言っていたけど、ぼくが南極に行ったら、いやなことがいっぱいあると思うし、いやなことを楽しみにかえるなんてすごいと思いました。

(「テレビ会議『南極教室』の感想」より)

計画 1-5「市民のためのブラッシュアップ，キャリアアップを目指した講座の開設に努める。」に係る状況

一般市民を対象とした講座の推進

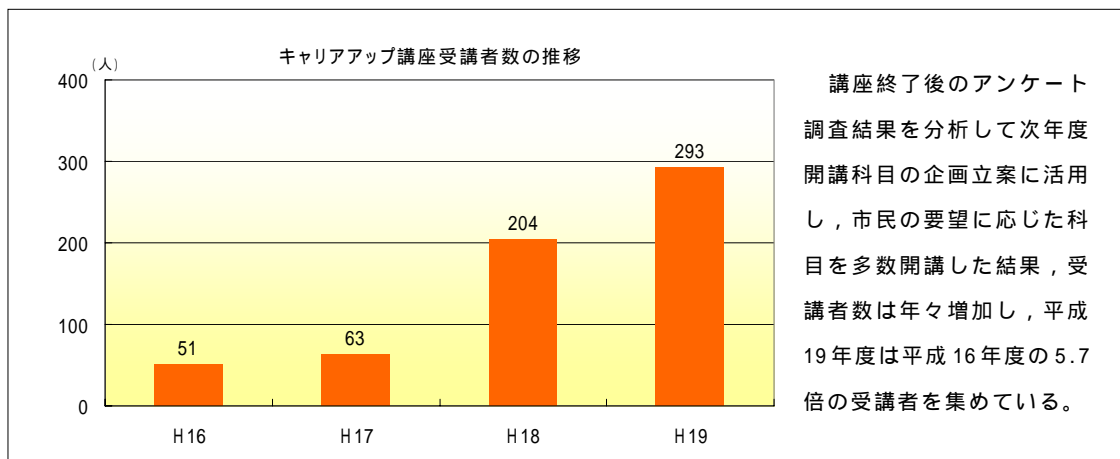
本学の講義を一般市民に開放する「生涯学習市民開放プログラム」を開講したほか【P7～8 資料 1-2-3～6】，公開講座として「子どもを暴力から守るワークショップ」「IT管理者講習会」等のキャリアアップ講座を積極的に推進し【資料 1-5-1～2】，市民のキャリアアップに貢献した。

資料 1-5-1 福井大学キャリアアップ講座の開講例

講座題目	時間	講師	内容，キャッチフレーズ
ハンディキャップを持つ人のご家族・指導する方のための「描きやすい絵画・つくりやすい造形教室」	1日 8時間	陶芸家 山道 千草	ハンディキャップを持つ人の家族，指導している教師，作業療法士・医療関係者を対象
新しい理科授業のかたち～デジタル教材の有効活用～	1回 2時間	伊佐 公男	IST作成のデジタル教材「理科ねっとわーく」の利用方法
仕事を通じて生き方を探る	1回 2時間	大野木裕明，小寺 優	若者の就職支援のための進路指導，キャリア教育の進め方
あなたのEQ(心の知能指数)は？	1回 2時間	大野木裕明，松田 高広	あなたのEQ(心の知能指数)の診断と高め方の解説
教育臨床って，何だろう？	1回 2時間	氏家，斎藤，野崎，大塚，坂後	様々な専門家による「教育臨床」とはなにかの話し合いに参加しませんか
非行・いじめ・不登校を考える	1回 2時間	森，斎藤，野崎，大塚，坂後	「ふくい非行と向き合う親たちの会」の参加を得て，率直に語り合いませんか
子どもを暴力から守るためにおとなにできること	1回 2.5時間	つるがCAP，森，藤野，梅田，藤田	子どもの人権意識に配慮したプログラム
IT管理者講習会 UNIX編 ネットワーク管理	2回 10時間	田中 光也 他	職場でのネットワーク管理者を育てる
今どきのWindows PC とネットワーク	2回 10時間	田中 光也 他	最新のPCの技術や機能を伝授いたします

(事務局資料)

資料 1-5-2 キャリアアップ講座受講者数の推移



(事務局資料)

専門職業人を対象とした各種取組の実施

看護師不足解消のため「潜在・就業看護師のスキルアップ再教育プログラム」【資料 1-5-3~4】、がん専門看護師等を養成するための「北陸がんプロフェッショナル養成プログラム」【資料 1-5-5】、教師を対象とする学校図書館司書教諭講習【資料 1-5-6】・免許法認定講座【資料 1-5-7】、企業の技術者・研究者を対象とする高度技術者研修【資料 1-5-8】など、専門職業人を対象とする地域のニーズに応じた取組の実施に努めた。

資料 1-5-3 離職看護師のスキルアップ再教育プログラムについて

県内医療機関の看護師需要の高まりや、就業者の学習ニーズに対応するため「離職看護師のスキルアップ再教育プログラム」を平成 19 年度から実施し、再就職やキャリアアップを支援している。本プログラムは、優れた取組として「社会人学び直しニーズ対応教育推進プログラム」に採択されている。

文部科学省の平成 19 年度「社会人の学び直しニーズ対応教育推進プログラム」に採択されました！！

このプログラムは、子育て等により就業を中断している看護師(潜在看護師)で職場復帰を検討している方、病院・診療所等に就労中の看護師(就業看護師)で新しい看護の課題の学習やキャリアアップを考えている方の双方を対象としています。

日進月歩の医療現場に必要な最新の看護知識・技術・技能の修得という、看護師共通のニーズに応えるため、基本的な教育内容だけでなく、最先端の医療を展開している大学病院の認定看護師の講義や演習等もプログラムに組み込んでいます。

また、潜在看護師と就業看護師の学び合いによる学習効果も期待されています。

(医学部 H P より)

福井大 10月から講座

離職看護師を再教育

県内医療機関の看護師需要の高まりや、就業者の学習ニーズに対応するため「離職看護師のスキルアップ再教育プログラム」を平成 19 年度から実施し、再就職やキャリアアップを支援している。本プログラムは、優れた取組として「社会人学び直しニーズ対応教育推進プログラム」に採択されている。

報酬改訂、需要高まる

高度医療、電子カルテ対応  
在職者 資質向上も支援

(福井新聞 H19.8.1)

資料 1-5-4 平成 19 年度離職看護師再教育プログラム受講者の声

受講者の声

職場を離れている間になまった体と心に良い刺激になり、復帰の準備ができました。今度はぜひ、総合病院で働いてみたいです。

先生方の学んで欲しいという気持ちと私たちの学びたいという気持ちがお互い良く伝わって、良い授業でした。

機械化やデジタル化など看護の現場の正確性と効率化を実感しました。プランクが大きいと復帰にはとても勇気のいることですが、この機会があってとてもありがたかったです。

育児ストレスの解消と就業中の疑問に思っていたことを考えるいい機会だと考え、家族の協力を得て参加しました。4月に復職しますが、ここで学んだことを職場の方々に伝えていきたいです。

看護とは個人のニーズに応じていかなければいけません、普段生活していく上で、その個々のニーズに周りが応えていくのも看護の一環ではないかと気づかせてくれました。



(福井大学広報紙「CAMPUS EXPRESS Vol.22」より)

資料 1-5-5 北陸 5 大学の連携による「がんプロフェッショナル養成プログラム」の実施

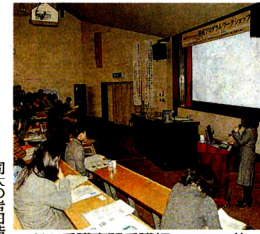
質の高いがん専門医等を養成する優れたプログラムに対し、文部科学省が財政支援を行う「がんプロフェッショナル養成プラン」において、平成 19 年度、北陸地区 5 大学（福井大、金沢大、富山大、金沢医科大、石川県立看護大）が共同申請した「北陸がんプロフェッショナル養成プログラム - ICT による融合型教育システム及び「がんプロネット」の構築 -」が採択された。

本学では「がん看護専門看護師（OCNS）」の教育課程を設定している。

平成 20 年 2 月には、次年度からの本格導入を前に同プランの内容や意義、がん看護専門看護師への理解を深めるためにワークショップを開催し、県内外から約 100 名の看護師の参加を得た。

福井大が北陸の 5 大学の連携して取り組む「北陸がんプロフェッショナル養成プログラム」に、がん看護専門看護師（OCNS）に対する必要経費の理解を深めてもらうワークショップが 16 日、永平寺町の福井大松岡キャンパスで開催された。キャリアアップを目的とする看護師約 100 人が参加し、すでに活躍する OCNS 師や看護師、薬剤師、放射線技師の育成を目指す。同プログラムは、がん治療のプログラムを養成する目的で福井、金沢、富山、石川、金沢医科大、石川県立看護大の 5 大学共同で昨年に文科省に事業申請し、全国十八事業の一つに選ばれた。本年度から本計画で各大学院に共通カリキュラムを設けるなど、高度な技術知識を持った医師や看護師、薬剤師、放射線技師の育成を目指す。

## がん専門看護師 育て 北陸 5 大学連携し講座 永平寺町



がん看護専門看護師について約 100 人が理解を深めたワークショップ＝16 日、永平寺町の福井大松岡キャンパス

同大の岩田浩子看護学科長が、同養成プログラムの概要を説明。大塚大附風病院長の OCNS として活躍する田墨恵子さんが、本学での学習内容や現在の活動を報告した。田墨さんは「高度な知識を持つことで、一般の看護師とは難しい病棟の枠を超えた医療体制の調整や後援の指導ができるようになった」と資格取得の意義を述べた。県内の看護部長らが専門看護師への期待を発表。質疑応答も行われ、より高い看護を目指して意見が交わされた。

OCNS の教育課程（二年間）を考案する福井大が、OCNS を目指すきっかけにもなると同大における同養成プログラムの第一弾として開いた。

（福井新聞 H20.2.17）

北陸がんプロフェッショナル養成プログラム開講講座一覧（本学開催分）

講座名	講座内容	対象者
腫瘍薬物学特論	抗がん剤の基礎的知識および作用機序と有害事象についての理解を深める。効果予測因子としてのバイオマーカーについても最新の知識を学ぶ。	医師、薬剤師、看護師、診療放射線技師
腫瘍放射線医学特論	根治療法および緩和療法としての放射線療法の適応や、治療計画および線量測定を原理を理解する。放射線治療の急性作用と遅発性作用の療法を把握する。	医師、薬剤師、看護師、診療放射線技師
がん緩和医療学特論	がん緩和医療に用いる薬剤の作用を理解し、緩和療法とはどのようなものであるかを理解する。緩和療法、支持療法における和漢薬についても理解を深める。	医師、薬剤師、看護師、診療放射線技師
がん外科学特論	外科医とともに、手術の適応および禁忌の理解を深め、悪性疾患患者の病期分類、根治療法、緩和医療における手術の役割を熟知する。	医師、薬剤師、看護師、診療放射線技師
臨床腫瘍学特論	治療の一般原則を理解した上で、各種のがん治療および各悪性腫瘍に特有で考慮すべき事項について指導を受ける。	医師、薬剤師、看護師、診療放射線技師
腫瘍病理学特論	がんの確定診断と重症度、進展度を判断する上での病理学的診断の重要性を理解する。各種がん細胞における病理学的特徴についての知識を習得する。	医師、薬剤師、看護師、診療放射線技師
臨床栄養学特論	がん臨床における栄養摂取、代謝などの変化を理解し、がん診療に必須の栄養学を多方面からのアプローチで習得する。	医師、薬剤師、看護師、診療放射線技師、栄養士、歯科医師

（松岡キャンパス学務室資料）

資料 1-5-6 学校図書館司書教諭講習の開催状況

学校図書館の専門的職務に携わる司書教諭を養成するため、文部科学省との委託契約により毎年実施し、平成 16～19 年度で延べ 305 名が単位を取得している。

年度	科目名	受講者数	単位取得者数
平成 16 年度	情報メディアの活用	57	57
	読書と豊かな人間性	62	62
平成 17 年度	学校経営と学校図書館	36	36
	学校図書館メディアの構成	40	40
平成 18 年度	情報メディアの活用	23	23
	読書と豊かな人間性	20	18
平成 19 年度	学校経営と学校図書館	31	31
	学習指導と学校図書館	38	38

（「学校図書館司書教諭講習受講状況」より）

資料 1-5-7 免許法認定講座の実施

教員のキャリアアップを目的として、教員免許課程の修了を要件としない教員免許状の取得方法として設けられている免許法認定公開講座を、福井大学では岐阜大学と連携して開設するなど、積極的に実施している。



年度	免許状の種類	講座名	学部等	担当教員
16	専修免許状	実践し省察するコミュニティ (岐阜大学連携)	発達科学講座	寺岡 英男
16	専修免許状	学校づくりのための教育実践研究 (岐阜大学連携)	発達科学講座	寺岡 英男
17	専修免許状	学校づくりのための教育実践研究	附属教育実践総合センター	森 透
19	専修免許状	カリキュラムデザインの実践事例研究	発達科学講座	寺岡 英男
19	専修免許状	実践事例研究とその理論	発達科学講座	寺岡 英男
19	専修免許状	学習コミュニティマネジメント実践事例研究	生涯学習講座	柳澤 昌一
19	専修免許状	教授学特論	発達科学講座	寺岡 英男
19	専修免許状	社会教育特論	生涯学習講座	柳澤 昌一
19	専修免許状	教育実践研究	生涯学習講座	柳澤 昌一
19	専修免許状	教育実践研究	発達科学講座	寺岡 英男

(事務局資料)

資料 1-5-8 高度技術者研修の実施

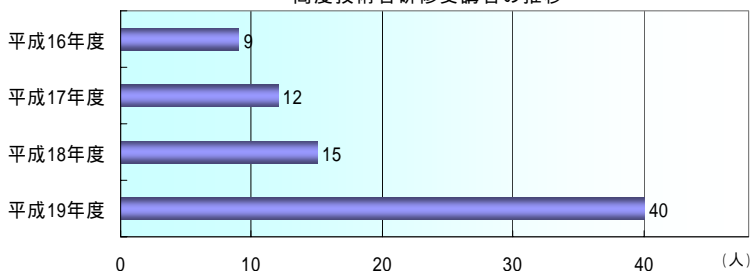


民間機関等の技術者及び研究者を対象に、高度な専門的技術を習得させるとともに、創造性及び先見性に富む人材の育成に寄与することを目的として、毎年実施している。

高度技術者研修実施一覧(平成16~19年度)

年度	研修名	学科等	担当教員
16	コンピュータ・ネットワークとネットワークセキュリティの最新技術	工学部 知能システム工学専攻	小倉 久和
17	将来のコビキタス社会に向けた高度情報通信技術	工学部 情報・メディア工学科	高橋 謙三
18	最先端工作機械による高度加工技術	工学研究科 機械工学専攻	白石 光信
19	業務発注者側の立場にある技術者のための建築物耐震診断・耐震改修計画技術	工学研究科 建築建設工学専攻	小林 克己

高度技術者研修受講者の推移



(事務局資料)

計画 1-6「講義や実習，研修などに積極的に地域社会で活躍する専門家を招聘し，幅広い大学教育を実施する。」に係る状況

外部専門家による講義の開講

現職教員・企業経営者・NPO活動家による講義を多数開講し，外部の専門家によるMOT（Management of Technology）講義をはじめとする大学教育を積極的に実施した【資料 1-6-1～4】。

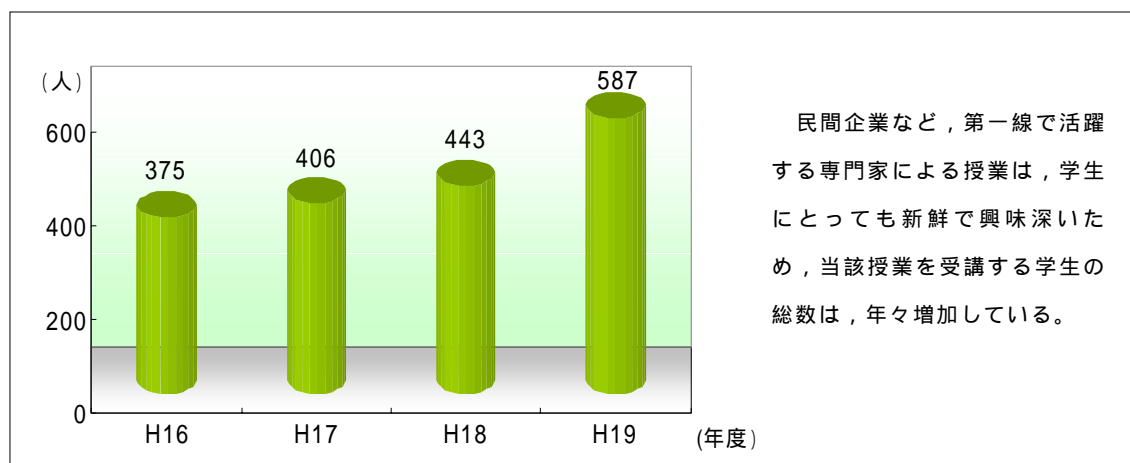
資料 1-6-1 外部の専門家を講師として招聘した主な授業科目の一覧

授業名	単位数	対象	講師
学校教育相談研究 (ライフパートナー)	4	教育地域科学部 学校教育課程	福井市教育委員会指導主事，チャレンジ教室室長
行政・企業等実地研修	2	教育地域科学部 地域社会課程 行政社会コース	ふくい生活と婦人問題研究会長， 越前市議会議員
地域社会情報演習	2	教育地域科学部 地域社会課程 行政社会コース	市民オンブズマン福井幹事，福井テレビ記者
ベンチャービジネス概論	2	工学部 全学科共通	(株)いやさか代表取締役
知的財産権の基礎知識	2	工学部 全学科共通	平和国際特許事務所高島オフィス代表
フロントランナー	2	工学部 全学科共通	先端企業の中堅技術者 11名
技術経営のすすめ(技術経営カリキュラム)	2	工学研究科 博士前期課程共通	清川メッキ工業(株)専務取締役
ベンチャービジネス実践論 (技術経営カリキュラム)	2	工学研究科 博士前期課程共通	ビジネスサポート・ラボラトリー代表

その他，連携講座・寄附講座を通して関連企業の技術者が多数講義を受け持っている。

(「外部専門家による授業一覧」より)

資料 1-6-2 外部専門家が行う授業を受講した学生数の推移



(事務局資料)

資料 1-6-3 MOT 講義「技術経営のすすめ」受講学生の感想

社会の様々なところで活躍されている方の授業が聞けたのは良かった。経営についても総合的に勉強できて良かったと思う。

工学分野で研究だけをしていると、どうしても視野が狭くなる傾向があるが、この授業を受講する事によって、色々学べたので良かったと思う。

私の研究室では、実際に企業の方と接していても技術面の話が多く、経営といった話は皆無なので、この授業は新鮮で興味深かった。

全体的に専門科目と違い新鮮で興味ある話が多くあった。特に、日本政策投資銀行の経営戦略の授業は、今までに考えたこともない角度からの視点だったので、興味深かった。

経営のことを今までは一つも考えたことがなかったので、新鮮だった。また、考え方も少し変わった気がする。卒業は絶対研究職に就きたいと思っていたが、弁理士も興味深いと思った。

企業の人や弁護士など、様々な分野の人達から自分には全く知識がない経営について、とても勉強になる話がたくさん聞いて面白かった。集中講義なので、1日の授業時間が長く疲れるが、この授業は取って良かったと思う。このような外部から人を呼んで話を聞くスタイルの授業を増やして欲しいと思った。

履修者 41 名中、34 名がアンケートに回答しており、結果は 34 名全員が受講して良かったと回答している。毎回、様々な分野の講師を招き、講義内容に変化があったことが好評だったようである。経営面での講義は新鮮で、ディスカッション形式でグループ討論するなど他の講義にはないスタイルが面白かった、という回答が多く見られた。

(「平成 19 年度 MOT 講義受講者アンケート結果」より)

資料 1-6-4 平成 19 年度講義「フロントランナー」受講学生の感想

この授業では、現在実際に企業等で活躍されている方々の話を聞くことができ、僕個人としても、非常に興味深かった。また、これから自分達が働く場所というのが、この授業を受けることによってイメージが湧いてきた。

このフロントランナーの講義を受講させていただき、たくさんの企業から普段は聞くことの出来ない貴重な話を聞くことができました。この講義で教えていただいたことを就職活動、そしてその後の人生に活かしていければいいなと思います。

フロントランナーの授業を受けて、自分の中で何かが変わった。企業の方々の中には働くことに熱い思いを持っていらっしゃる方がいて、そういった方たちの話を聞いていると、自分の中で少しずつ未来の自分を想像できるようになった。そう遠くない未来に、自分は社会に出て行く。そうなった時、フロントランナーの授業に来てくださった方々のように、自分の勤めている会社に誇りを持てるようになりたい。

今回の講義を受けて印象に残ったことは、どの企業の方々も自分に自信を持っているということです。それはまた、自分がこの分野の先端を歩んでいる、これからも歩み続けてゆくという強い意志の現れのようにも感じました。

フロントランナーの授業は、共通教育や機械工学科の専門教育の中では聞くことの出来ない話ばかりでした。企業の方のお話を聞いて本当にタメになりました。新しい発見もあったし、疑問を持ったりもしました。講義を重ねる毎に、自分の就職への意識も高まったと思います。我々の知らない技術や商品をプレゼンテーションする時に、どの企業の方も、とてもいい顔をして時間を忘れてしまうぐらい楽しそうに自分の経験を話されていました。

(「平成 19 年度フロントランナー」レポートより)



地域の技術者等の支援による事業化の推進

大学院GPにも採択されている「創業型実践大学院工学教育」において、豊富な経験と高い技術力を有する地域の技術者・研究者を「匠」として受け入れ、事業化に繋げる取組を推進している【資料1-6-5~8】。




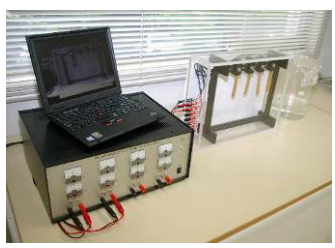


資料1-6-5 「地域匠人材コンソーシアム」の構築について

豊富な経験を有する地域の技術者等による「匠」の支援を受け、大学の持つ特許やノウハウをもとに「もの」を試作・製品化し、それらを流通企業のノウハウを導入してビジネスプランを構築し、実市場にリリースしている。学生がものづくりを行い「試作・試販売」に繋げるこれらの取組は、全国でも例がなく、各方面からの注目を集めている。



(産学官連携本部資料より)

資料1-6-6 「匠」の支援による事業試作品の開発

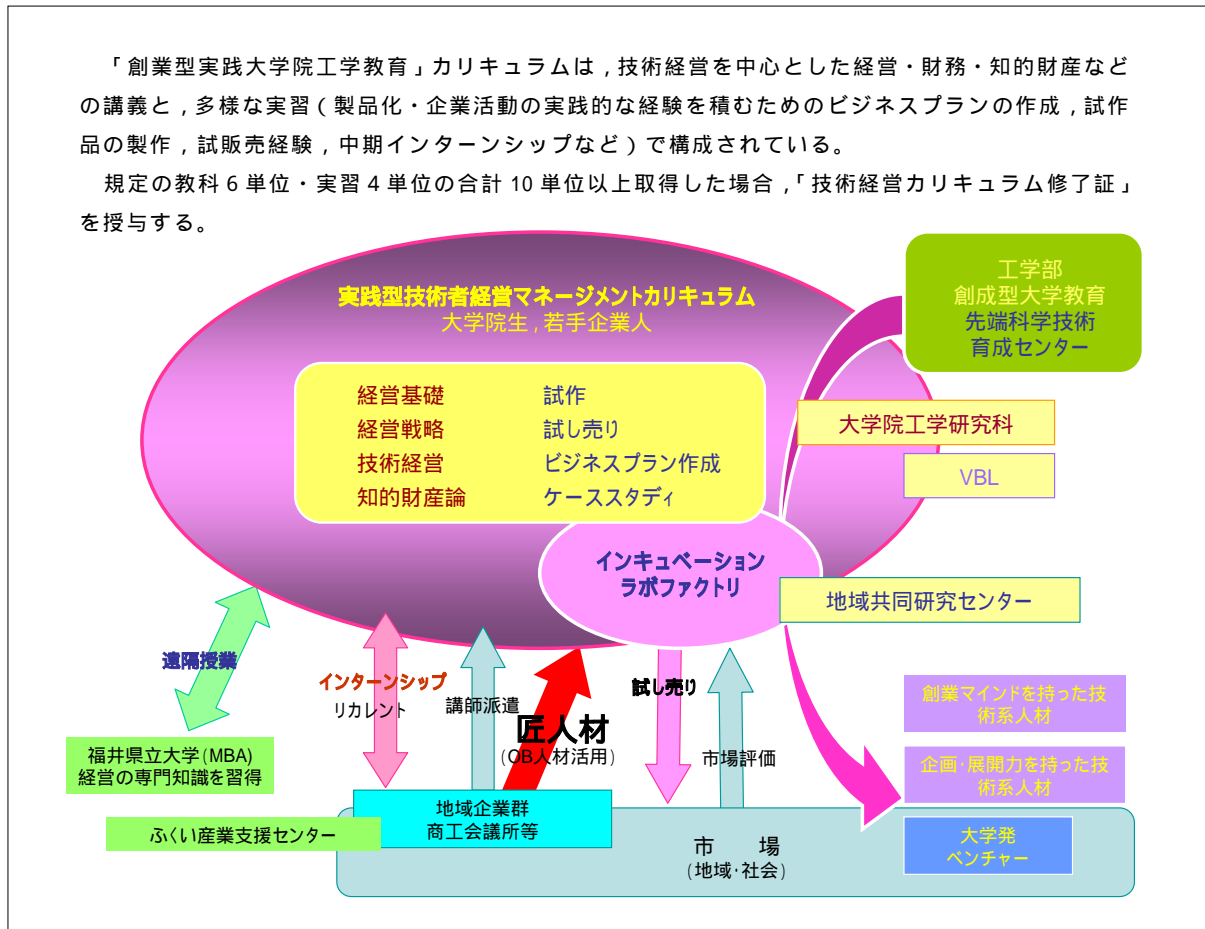
 <p>オンライン摩耗センサとその計測システム 軸受やクラッチ・ブレーキライニングなどのしゅう動部材の摩耗程度を分解せずリアルタイムで検出できるセンサ</p>	 <p>近視者でも裸眼で顔が見える電子全顔鏡 CCDカメラ・液晶ディスプレイ・ハーフミラーを組み合わせた、近距離で遠方からの顔全体の映像を見ることができ電子鏡</p>	 <p>色相判別装置の試作開発 物質の色を迅速かつ精度よく測定できる安価な色相判別装置</p>
 <p>化学・高分子系アクチュエータ 電気モータ、空圧機器等の方式に代わる、効率的で超小型・軽量の高性能な高分子系アクチュエータ</p>	 <p>環境教育用風力発電教材 子供独自の発想を盛り込める風車教材と環境教育用のインターフェイスを備えた設置位置探査ソフト</p>	 <p>非水系電解用三電極化学測定セル 大規模な電池作製設備のない場所においても利用できる三電極式の電池試験セルとそれをを用いた評価システム</p>

(産学官連携本部資料より)

社会連携

社会との連携、国際交流等「計画1-6」

資料1-6-7 創業型実践大学院工学教育による人材育成



(産学官連携本部資料)

資料1-6-8 「技術経営カリキュラム修了証」の授与

平成20年2月，技術経営カリキュラム修了認定式を開催し，第一期生として博士前期課程2年3名，1年19名（うち女性2名）の計22名が，福田学長から認定証の授与を受けた。

本カリキュラムは，産学官連携本部のILF施設の整備，地域の匠との協力体制の組織化，協力会の会員企業からの講師派遣などの基盤整備が結実したものであり，MOT副専攻の資格を取得した学生への企業側の期待も高い。



(産学官連携本部資料)

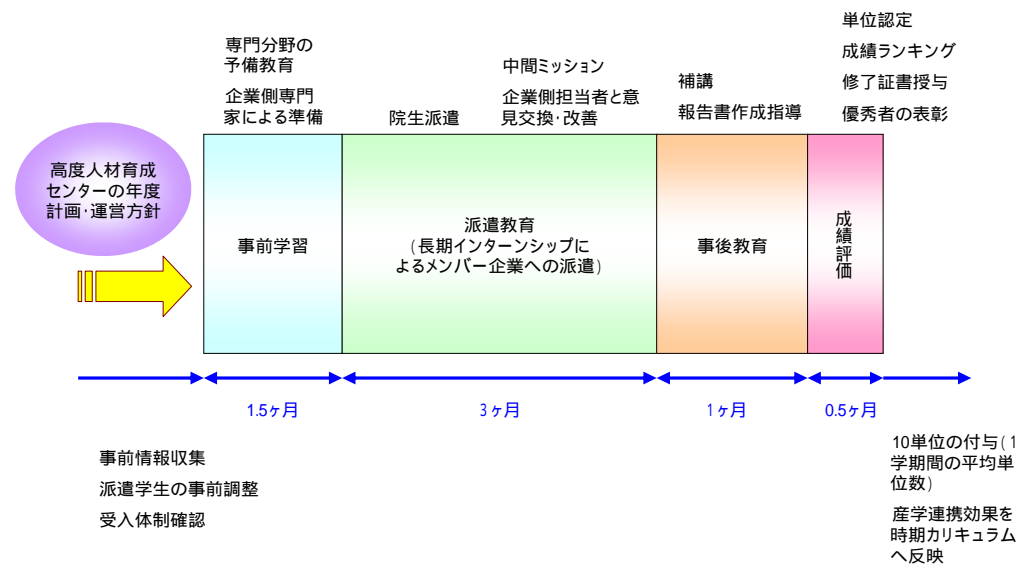
企業の専門家によるインターンシップ事前教育の実施

平成 18 年度「派遣型高度人材育成協同プラン」に採択された「地域産業との連携による派遣型高度人材育成」において、事前学習期間中に企業の専門家を講師として受入れている【資料 1-6-9～10】。

資料 1-6-9 「地域産業との連携による派遣型高度人材育成」における外部有識者の招聘について

大学院学生を企業へ長期派遣することによって、産業界の取組を理解し自主的に問題を解決できる人材育成を目指した「地域産業との連携による派遣型高度人材育成」が、平成 18 年度「派遣型高度人材育成協同プラン」に採択された。

この中で、インターンシップに入る前の 1.5 ヶ月間を派遣に備えた事前教育期間と位置づけ、受入企業の専門家を講師として依頼し、大学だけでは付与できない高度専門知識や事業知識について学習している。



( 本学 H P 「特色ある教育研究活動等」より )

資料 1-6-10 受講学生の感想

この制度は、学外の方々と触れ合える貴重な機会ですので、これからもより多くの学生に参加して欲しいと思います。

職場で働く者には、ホウ・レン・ソウ（報告・連絡・相談）が大事であるという話があり、上司の人との情報の共有をきちんとしておく重要性を感じた。その際、円滑に仕事を進めるには、考えすぎてもいけない、考えなさすぎてもいけない、難しいがバランスが大事であるということを感じた。

自分で考え、目標を立て、結果を求めるのに必要なものは何かを考える習慣を身につけることが出来た。

最終的な目標を意識して、必要な知識だけを選んで正確に得ていくことが大事だということを知った。

進捗状況の発表を行い、プレゼンテーションの進め方の注意点について多くを学んだ。



(「平成 18 年度派遣型高度人材育成協同プラン実施報告書」より)

「臨床教員制度」による医療人材育成の推進

医学部では、臨床講義・実習の更なる充実を図るため「臨床教員制度」を導入し、大学以外の医療機関等の優れた人材が医療現場での豊かな経験を踏まえ、医療人材育成に参加できる体制を整備している【資料 1-6-11～12】。

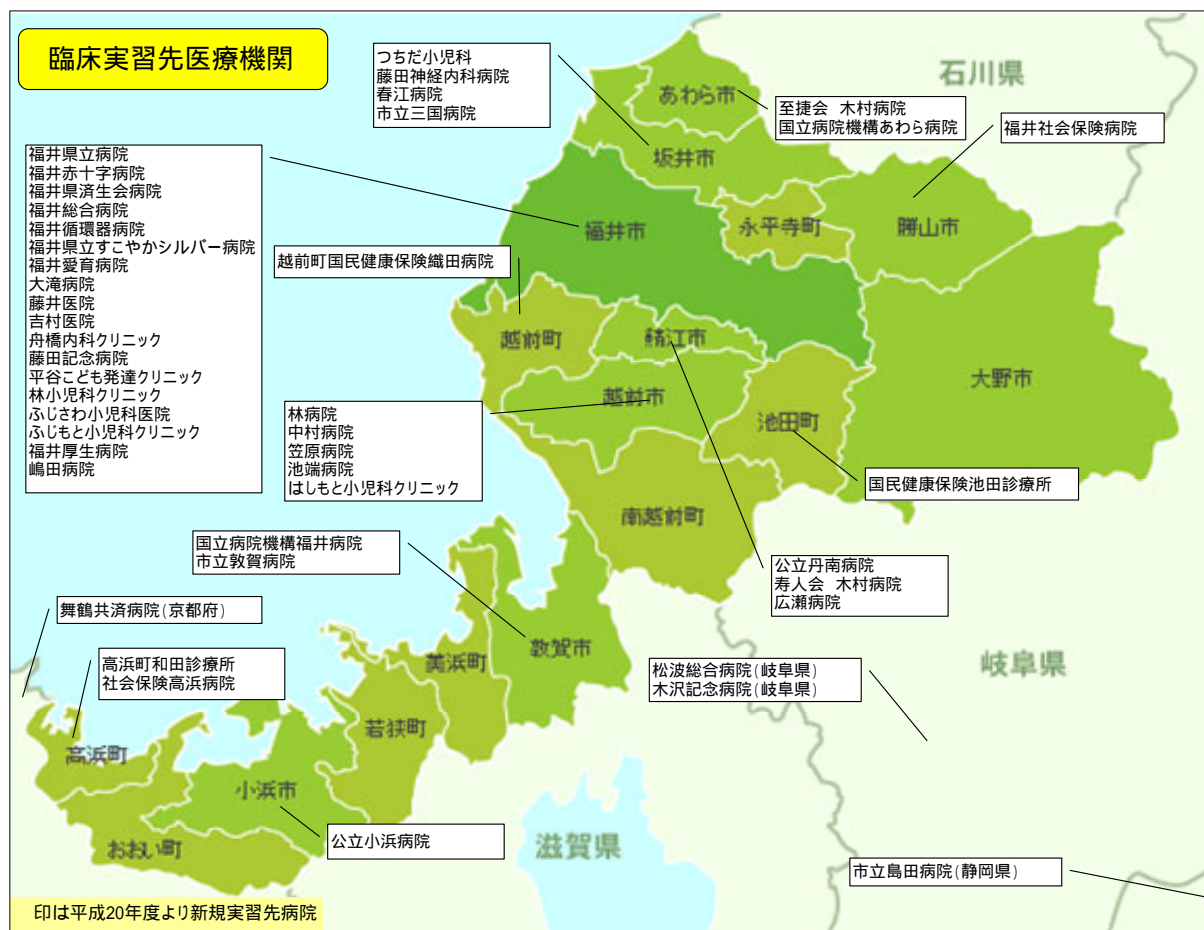
資料 1-6-11 臨床教員制度による臨床教授等付与状況

学科	発令	臨床教授	臨床准教授	臨床講師	合計
医学科	平成 15 年	39(2)	9(3)	4	52(5)
	平成 16 年	37	12(1)	2	51(1)
	平成 17 年	31	12	1(1)	44(1)
	平成 18 年	40(2)	15(2)	2(1)	57(5)
	平成 19 年	35	14	5(2)	54(2)
看護学科	平成 16 年	3	1	16	20
	平成 17 年	3	1	36(28)	40(28)
	平成 18 年	3	1	38(8)	42(8)
	平成 19 年	4(2)	2(1)	40(13)	46(16)

医学科は 7 月 1 日現在，看護学科は 8 月 1 日現在。（ ）は新規者で内数

(事務局資料)

資料 1-6-12 臨床実習先医療機関



(事務局資料)

計画 1-7「地域住民に対する図書の貸出しや日曜日・休日開館を実施する等、附属図書館の地域への開放を図る。」に係る状況

公立図書館との協力体制の整備

平成 19 年度に県立図書館と協定を締結し、県民が近隣の公立図書館から本学所蔵の図書を検索・借出できる体制を整備した【資料 1-7-1～3】。

資料 1-7-1 県立図書館との相互協力協定の締結について

福井県立図書館との相互協力協定の締結により、本学と県内 16 の公共図書館の蔵書を合わせた 460 万冊の一括検索や、県内各市町立図書館を介した相互借出が可能となった。

### 蔵書共通に

**県立図書館**



相互協力協定を結び、握手を交わす中川英之・福井大付属図書館長（写真左）と桂屋修・県立図書館長（写真右）と福井市下馬町の県立図書館で

**福井大付属図書館**

福井大付属図書館は、月（日）があるこれまで「総合図書館（福井市）でも福井市の住・勤務・文芸・自・民・図・書・は・貸・し・出・し・た・。今後は県立図書館（福井市）と協定を締結し、運用を図り、県立大と県立図書館の協定（府立大を含む）は全国では 15 例目といふ。今後、各市町や他大学との協定も図りたいと目指す。

**協定締結 県民誰でも利用可能**

井市下馬町）か、同図書館分館の若狭図書館（若狭市）なら（小浜市南川町）で申し込めば、県内在住者なら誰でも利用が可能になる。

蔵書数は、福井大付属図書館が 60 万冊、県立図書館が 96 万冊、県内 16 の公共図書館（蔵書数計 80.4 万冊）とともに蔵書を検索し、相互に借り出すことができる。今年度の福井大付属図書館と県立図書館の協力協定で、全 460 万冊が検索の対象となる（同大付属図書館の蔵書は借り出す際の窓口は、県立図書館の若狭図書館センター）。

また、福井大は月 28 日から、学術誌に載った論文の全文を無料で検索公開する「福井大学学術情報ポータル（JIT）」も開始。同大ホームページから検索が可能。

（朝日新聞 H19.10.5）

福井県立図書館との相互協力協定調印式



握手を交わす中川附属図書館長と桂屋県立図書館長

資料 1-7-2 図書館間相互貸借システムについて



（本学附属図書館ホームページより）

資料 1-7-3 県内公共図書館相互貸借状況（平成 19 年度）

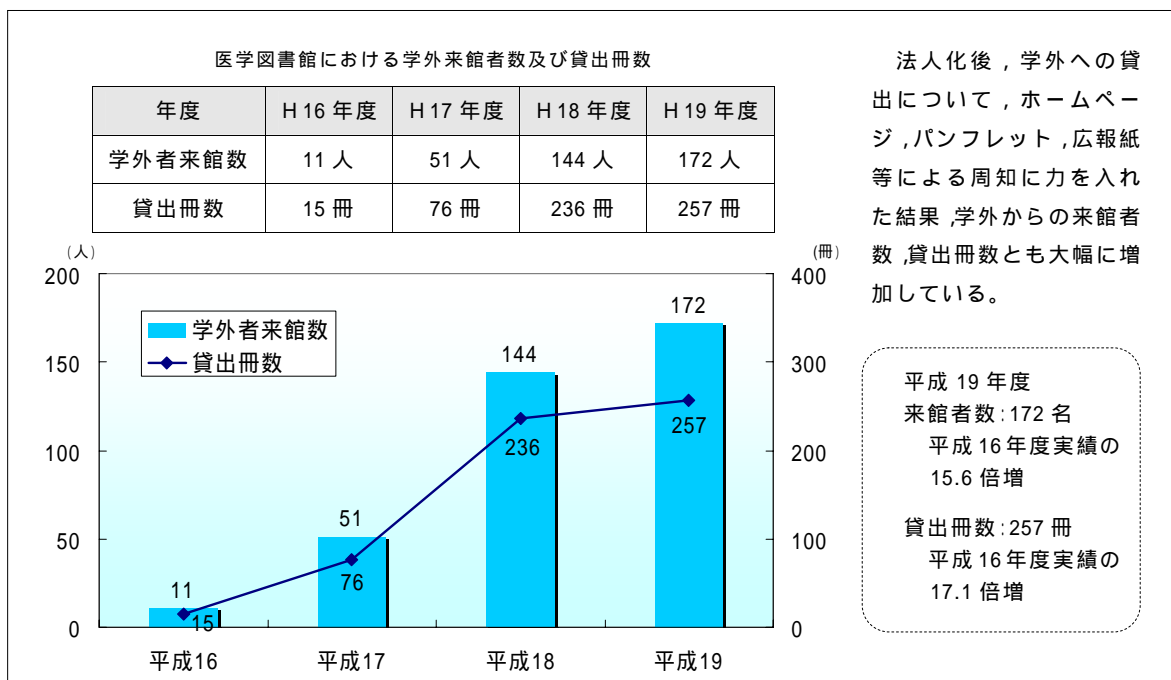
種別	館区分	館種	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	
借受	総合図書館	県立図書館	6	3	10	6	13	10	48	
		市町立図書館	0	0	1	5	2	4	12	
		小計	6	3	11	11	15	14	60	
	医学図書館	県立図書館	4	8	4	10	2	1	29	
		市町立図書館	0	0	0	0	2	0	2	
		小計	4	8	4	10	4	1	31	
合計			10	11	15	21	19	15	91	
貸出	総合図書館	県立図書館	9	7	5	1	2	2	26	
		若狭学習センター	8	3	0	1	5	1	18	
		市町立図書館	0	6	9	12	16	4	47	
		小計	17	16	14	14	23	7	91	
	医学図書館	県立図書館	4	1	2	3	1	4	15	
		若狭学習センター	3	0	0	1	0	0	4	
		市町立図書館	0	0	6	3	0	5	14	
		小計	7	1	8	7	1	9	33	
	合計			24	17	22	21	24	16	124

（「平成 19 年度県内公共図書館相互貸借統計」より）

日祝日開館・24 時間開館の実施

松岡キャンパス医学図書館では、平成 8 年 4 月から日祝日開館及び入退館システムによる 24 時間開館を実施している。また、文京キャンパス総合図書館では、平成 19 年度に日祝日開館を試行し、平成 20 年 4 月から日曜開館を実施することとした【資料 1-7-4 ~6】。

資料 1-7-4 医学図書館における日祝日開館について



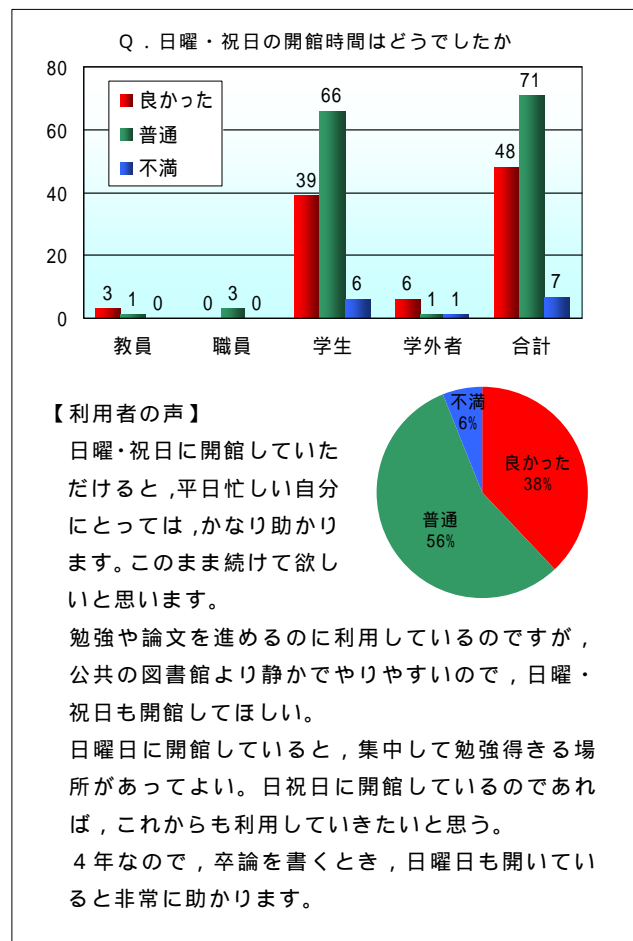
（事務局資料）

資料 1-7-5 休日の入館者数(平成 19 年度・文京)

開館日	学生 教職員	学外者	合計
9月2日(日)	56	2	58
9月9日(日)	56	0	56
9月16日(日)	56	3	59
9月17日(祝)	57	0	57
9月23日(日)	62	1	63
9月24日(祝)	66	3	69
9月30日(日)	25	0	25
9月計	378	9	387
10月7日(日)	36	1	37
10月8日(祝)	50	2	52
10月14日(日)	30	0	30
10月21日(日)	59	5	64
10月28日(日)	56	7	63
10月計	231	15	246
総合計	609	24	633
			53人/日

(附属図書館資料)

資料 1-7-6 日曜・祝日開館に関するアンケート集計結果



附属図書館資産の公表の推進

各種展示コーナーの充実、学術文献データベースの整備による論文等の公表、館蔵の文学資料の電子化によるホームページでの公開等、附属図書館が有する資産を積極的に公表した【資料 1-7-7~10】。

資料 1-7-7 附属図書館所蔵資料の公開例 : 図書館展示コーナー「福井震災ってなに？」のお知らせ

### 福井震災ってなに？の巻

「郷土資料室に大判の横文字の図書？しかも、GHQって書いてある！何だ!？」っていうのが始まりです。福井震災ってあったんだ~と言う方、ちょっとのぞいてくださいね。

米軍空中写真

昭和22年(1947)10月8日撮影(震災前)

大和ビル

(よみがえる福井震災より)

現在の福井市足羽川の桜並木

[福井市提供] 福井市のHP「ようこそ福井市へ」より

(附属図書館ホームページより)

資料 1-7-8 附属図書館所蔵資料の公開例 : 図書館展示コーナー「墨塗り教科書展示会」のお知らせ

**墨ぬり教科書展示会のお知らせ**

墨塗り【前】	墨塗り【後】	江戸時代の教科書
		

総合図書館 1階ロビーでは、本日より「墨ぬり教科書展示会」を行います。  
 墨ぬり教科書を中心に、江戸時代から戦後までの教科書をいろいろ展示しております。  
 墨ぬり教科書は、実際に手にとってご覧いただけますので、是非お運びください。  
 皆様のご来館をお待ちしております。

**<ご遠方の皆様へ>**  
**電子展示も行っておりますので、ご覧ください。**  
 『墨ぬり教科書ってなに?の巻』 <http://poem06.lib.fukui-u.ac.jp/joho/info/blacktext/>

墨塗り教科書(すみぬりきょうかしょ)とは、教科書の記述に墨を塗らせて抹消したもの、あるいは抹消させる行為を通じて、児童・生徒に対し、それまで行われた教育が誤りだったことを悟らせることを指す。  
 日本における墨塗り教科書は、敗戦直後に、戦意を鼓舞する内容を抹消させたものがある。

フリー百科事典『ウィキペディア (Wikipedia)』より

( 本学附属図書館ホームページより )

資料 1-7-9 附属図書館における展示会・講演会等の開催

開催年度	名称	備考
平成 14～19 年度	教科書展示会	
平成 17～18 年度	橘曙覧の短冊と山川登美子の扇面	電子提示にてHPでも掲載
平成 17～18 年度	福井大学オープンキャンパス・一日遊学企画 オリジナルのしおりを作ろう	
平成 18 年度	World Cup を観戦してドイツ旅行をしたつもりになろう! の巻	電子提示にてHPでも掲載
平成 18 年度	黒塗り教科書ってなに?の巻	電子提示にてHPでも掲載
平成 18 年度	福井大学の「もしかしてお宝?」の巻	電子提示にてHPでも掲載
平成 19 年度	福井震災ってなに?の巻	電子提示にてHPでも掲載
平成 19 年度	おらが福井の自慢【眼鏡産業】+ おらが福井大学の取り組みの巻	電子提示にてHPでも掲載

( 附属図書館資料より )



資料 1-7-10 「福井大学学術機関リポジトリ」の構築

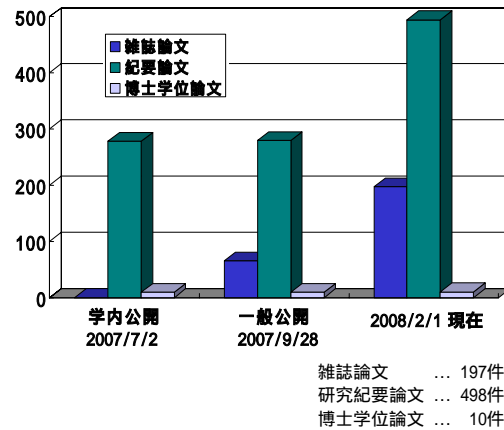
本学の様々な学術成果物（学術論文等）を全世界に向けて発信するシステム「福井大学学術機関リポジトリ」の一般公開を平成 19 年 9 月から開始した。

当システムは検索機能も有しており、従来は学術雑誌や学会誌等でしか閲覧できなかった論文の全文が、無料で手軽に閲覧できるようになった。



「福井大学学術情報リポジトリ」トップページ

コンテンツ登録の推移



(事務局資料)

総合図書館の改修による更なる地域開放の推進

耐震性が低く老朽化が著しい総合図書館については、平成 20 年度中に改修工事を実施することとし、企業説明会・郷土資料展示会等の提供や、現職教員等へのリカレント教育の推進など、地域に開かれた“まちかどの図書館”として、更なる地域連携活動の促進を目指している。【資料 1-7-11～13】

資料 1-7-11 総合図書館の現状

教育・研究の活性化状況

- ・ 5 年間で利用者数は 1.2 倍・貸出図書数 1.5 倍の伸び
- ・ 地域学校の教諭や一般市民への検定教科書の展示会の開催
- ・ 図書の貸出等による地域貢献活動
- ・ 情報リテラシープログラム等の活動を積極的に実施
- ・ 事業の必要性・緊急性
- ・ 耐震性の確保が急務
- ・ 現有施設は、建築後 40 年以上を経過し経年劣化による老朽化が著しく、耐震性が低く危険性が高い状況にあるため耐震補強及び法令に不適合な部分の改築整備を行う。

施設の現状

建築年：昭和 41 年(経年 41 年)  
 改修歴：なし  
 Is 値：0.28 改修後 0.72  
 緊急度ランク：1 改修後 7

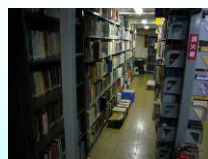
総合図書館の現状



図書館玄関付近  
外壁コンクリートは  
黒ずんでいる



ベランダコンクリート  
手摺りの劣化状況



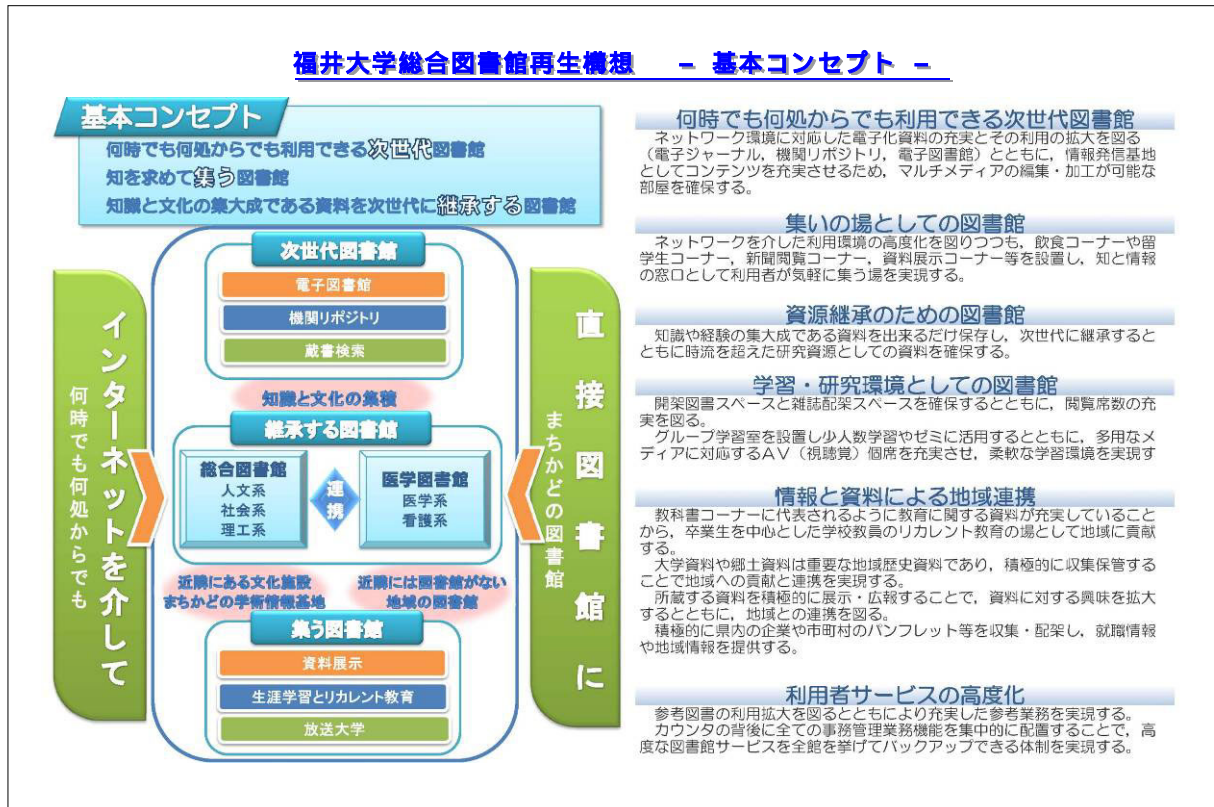
狭隘でスペース不足の  
積層書庫(建築基準法  
不適合)



経年 35 年の空調機部品  
供給に支障があり故障  
も多い

(事務局資料)

資料 1-7-12 総合図書館再生構想基本コンセプト



（「平成 20 年度施設費要求（重点事項）資料」より）

資料 1-7-13 総合図書館の具体的な整備目標

### 福井大学総合図書館再生構想 - 具体的な整備目標 -

	知の継承	学習・研究支援	地域連携
<p><b>【3階】</b></p> <p>特殊資料室 貴重書室 大学資料室</p> <p>書庫</p> <p>第二閲覧室 視聴覚室 グループ学習室</p>	<p>知識と経験の集大成である資料を出来るだけ保存し次世代に継承するとともに、時流を超えた研究資源を確保し、更に郷土資料を収集・保管することで地域歴史資料を介した地域貢献を図る。</p>	<p>開架図書を中心に学習・研究の場を提供するとともに、多様化する情報ソースに対応するマルチメディア機能を有する空間を提供する。 また、2つのグループ学習室を設置し、少人数学習やゼミに活用するなど柔軟な学習環境を実現する。</p>	<p>教科書コーナーを活用し、卒業生を巻き込む現職教員のリカレント教育の場とする。また、県内企業や市町村のパンフレット等を収集・配架し、就職情報や地域情報を提供する。ことで、地域との連携を図る。</p>
<p><b>【2階】</b></p> <p>郷土資料室</p> <p>郷土資料室</p> <p>第一閲覧室 マルチメディアコーナー 参考図書室</p>	<p>原則として全て集密書架とし、限られたスペースの中で効率的な収納を図る。</p>	<p>教科書コーナー 研修・セミナー室</p>	<p>地域連携室</p>
<p><b>【1階】</b></p> <p>メディアアコン計 画を軸とした新しい図書館機能</p> <p>→地域連携とアメニティスペース</p>	<p><b>アメニティー</b></p> <p>新聞・雑誌コーナーやラウンジ等、自由な敷設の中で新しいアイデアを創出することのできるゆとりスペースを確保するとともに、地域に開かれた図書館を実現する。</p>	<p><b>事務管理</b></p> <p>カウンタの背後に全ての事務管理業務機能を集中的に配置することで、高度な図書館サービスを全館を挙げてバックアップできる体制を実現する。</p>	<p><b>知を求めて集う図書館</b></p> <p><b>マルチメディアコーナー</b> 単にインターネットに接続できるだけでなく、時代に対応したDVDやCD等各種のメディアを利用することができる。 多様な画像の編集、プレゼンテーション資料の作成等情報リテラシーの実践を行う。</p> <p><b>情報検索コーナー</b> 利用講習会では、無線LANで接続されるノートパソコンを配架し、実習を行うことで効果的なものとする。</p> <p><b>知識と文化の集大成である資料を次世代に継承する図書館</b></p> <p>原則として全て集密書架とし、限られたスペースの中で効率的な収納を図る。</p> <p><b>知を求めて集う図書館</b></p> <p><b>ラウンジ</b> また、学習やクラブ活動の成果発表の場として活用するほか、企業説明会、新製品発表会等地域との連携の場としても利用する。</p> <p><b>飲食コーナー</b> 学習に疲れた心身を癒すと共に、利用者間のコミュニケーションの場ともなるもので、図書館唯一の飲食の場でもある。</p> <p><b>展示</b> ホールやラウンジでは、目的や規模、内容に応じた所蔵資料の展示や他の図書館が企画する巡回展示会にも対応する。 また、ここでは複数の展示ケースを組み合わせることで、規模の大小にも柔軟に対応する。</p>

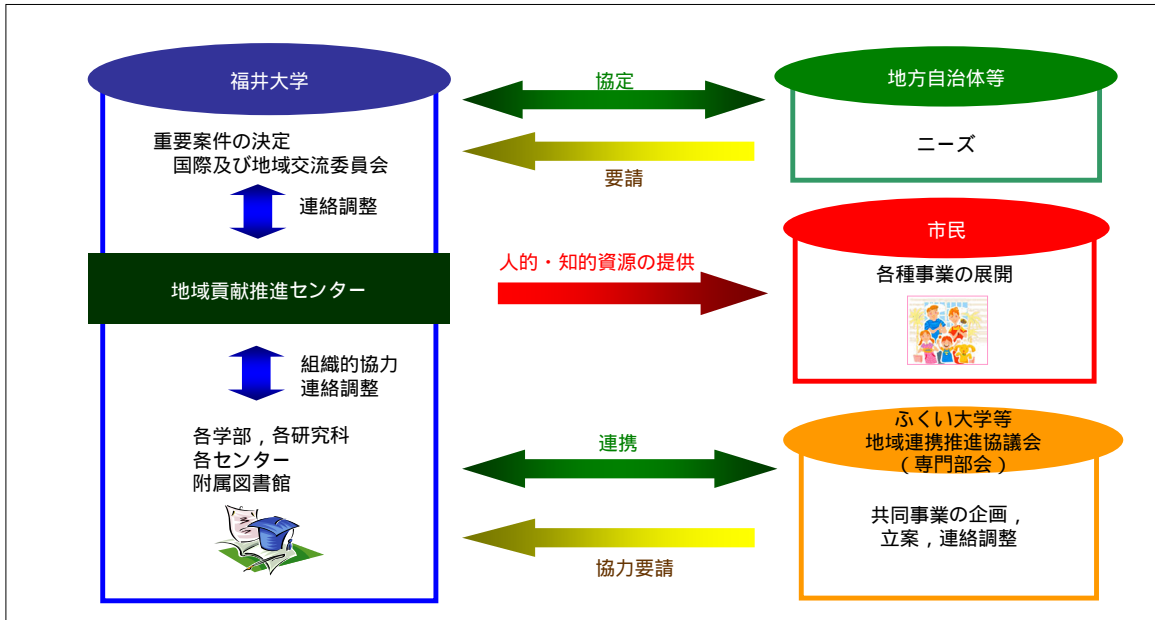
（「平成 20 年度施設費要求（重点事項）資料」より）

計画 1-8 「地方公共団体の事業ニーズを把握し提案を行う。」に係る状況

地域貢献推進センターにおける取組

平成 18 年度の「地域貢献推進センター」の設置により、地域のニーズを把握して大学が持つ様々な資源を地域と結びつける体制を整備し【資料 1-8-1】、地方自治体等の要望に応じた連携事業を推進している【資料 1-8-2】。

資料 1-8-1 地域貢献推進センター体制図



(「地域貢献推進センター体制図」より)

資料 1-8-2 地域貢献推進センターによる地方公共団体との連携事業について

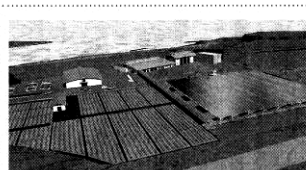
平成 18 年度に従前の「地域貢献推進室」を「地域貢献推進センター」に発展させ、当センターが窓口となり、事業計画の策定、地方公共団体との連絡調整窓口、地域貢献事業に関する情報の発信・広報等を通じて地域貢献に努めている。

また、地方公共団体のニーズに合致した教育研究を行っている教員を紹介し、美浜温泉施設調査、各種イベント等での医師派遣、福井豪雨に関する調査研究、原子力関連の共同研究等を推進した。



H16.7.18 福井豪雨による甚大な被害

美浜温泉施設 福井大が基本計画



美浜町温泉施設のイメージ図

町長「町民の声聞く」

美浜町が計画する温泉を利用した産業活性化拠点施設の建設について町と共同研究を進めてきた福井大学の基本計画が、十四日、町議会議員会を報された。温泉施設をはじめ、特産品の展示販売や農産物の加工、体験農園の四施設を備えた複合的な施設構築が提案されたが、利用者の需要予測から、年間千円程度の赤字が見込まれるとの試算が示された。

町長「町民の声聞く」

同町大の町有地に建設を予定する施設の総面積は二千六百七十七平方メートル。温泉施設は千三百三十平方メートルを占め、一階には内湯と露天風呂のほか家族向けの浴室を設置。二階の和室を多目的室から久々千湯を一望できる温泉とする。その他の施設規模は、特産品の展示販売などを目的とした「五五五平方メートル」農産物加工研修が行える施設（二百十二平方メートル）、特産品の加工や生産を行う体験農園（八十二平方メートル）など。からの説明後、町民の駐留は約三十人を確保し、上部には太陽光発電設備を設置する。必要者数は町民と観光客の利用で、年間千四百五十人を見込まれる。町長「町民の声聞く」

町民の意見は幅広く取り入れながら計画を練り直したいと話した。

(福井新聞 H18.2.15)

大学連携リーグにおける事業ニーズに応じた取組の実施

福井県と県内8大学等で構成する「大学連携リーグ」【P10 資料1-3-3】において、県や小中高等学校の要望に応じたテーマを提案し、巡回講義・連携授業・連携研究推進事業を実施している【資料1-8-3～4】。

資料1-8-3 「大学連携リーグ」における連携授業（本学教員分抜粋）

学校名	テーマ	所属	氏名
小浜市西津小学校 6年	酸性とアルカリ性を調べる ～マイクロスケール実験～	福井大学教育地域科学部	浅原 雅浩
勝山市北郷小学校 3, 4年	ビックリフラワーをつくらう	福井大学教育地域科学部	前田 樹夫
勝山市北郷小学校 5, 6年	ビックリフラワーをつくらう ～植物の一生をビンの中で観察する～	福井大学教育地域科学部	前田 樹夫
勝山市北郷小学校 1, 2年	ビックリフラワーをつくらう	福井大学教育地域科学部	前田 樹夫
小浜市田島小学校 1, 2年	ビックリフラワーをつくらう	福井大学教育地域科学部	前田 樹夫
高志高等学校 2年	哺乳動物の2糖類消化酵素 mRNA の塩基配列 決定と公共データベース(DDBJ)への登録	福井大学総合実験研究支 援センター	松川 茂



(事務局資料)

資料1-8-4 「大学連携リーグ」における連携研究推進事業

分野	研究課題	所属	氏名
地域産業	エコフレンドリーな繊維加工技術を目指した遺伝子改変による高機能酵素の創成	福井大学工学研究科 福井工業高等専門学校	末 信一郎 高山 勝巳
地域産業	地域資産を生かした観光政策の総合研究 ～福井県の観光と地域の持続可能な発展を目指して～	福井大学教育地域科学部 福井県立大学 福井県立大学 関西学院大学	木村 亮 山崎 茂雄 井上 武史 橋本 信之
地域産業	福井県企業のモノづくり(製造業)の特質の解明と産業活性化策 ～技術経営視点からの産業分析と提言～	福井大学教育地域科学部 福井県立大学 福井県立大学 福井県立大学 福井県立大学 関西大学 名古屋工業大学	井上 博行 西崎 雅仁 竹内 貞雄 徳前 元信 木野龍太郎 榊原雄一郎 川村 大伸
医療・福祉	高齢者の認知機能に関する多面的研究 ～認知症及びうつ病の早期介入に向けての医学・心理・社会的アプローチ～	福井大学医学部 福井大学医学部 福井大学医学部 福井県立大学 仁愛大学	高橋 哲也 和田 有司 小坂 浩隆 大森 晶夫 水上喜美子
医療・福祉	脳・脊髄疾患後の痙攣麻痺を有する患者における筋弛緩剤の効果に関する検討及び歩行者補助器具の充実	福井大学医学部 福井大学医学部 福井大学医学部 福井大学教育地域科学部 福井医療短期大学 公立小浜病院 公立丹南病院	細田 哲也 久保田紀彦 有馬 英孝 吉澤 正尹 小林 康孝 廣瀬 敏士 吉田 一彦
医療・福祉	在宅高齢者の住環境とQOL, ADLに関する調査 ～福井在住の介護保険未認定者を中心として～	福井大学工学研究科 福井医療短期大学 福井医療短期大学	櫻井 康宏 堀 敦志 齊藤 等
安全・安心	鯖江活断層活動史の解明と地震防災	福井大学教育地域科学部 福井大学工学研究科 福井工業高等専門学校	山本 博文 小嶋 啓介 岡本 拓夫

(事務局資料)

分娩医療を休止した自治体への支援体制の整備

全国的に産婦人科の医師不足が進む中、地方公共団体との協議により、分娩医療を休止した勝山市の福井社会保険病院の分娩を本学附属病院で引受ける体制を構築した【資料 1-8-5】。また、これに伴う支援を実施するため、勝山市等が総務省へ積極的に働きかけを行った結果、地方自治体からの寄付行為を可能とする法律改正が実現した【資料 1-8-6】。

資料 1-8-5 奥越地区における分娩患者の受入について

全国的に産婦人科の医師不足が大きな話題となっており、奥越地区でも唯一の産婦人科を持つ福井社会保険病院において、平成 19 年 4 月から分娩が休止された。この対策のため、本学附属病院において分娩の受入体制を整え、奥越地区の患者の不便・不安を解消することに努めた。

医学部附属病院と福井社会保険病院との産婦人科診療連携

**福井大付属病院 産婦人科医の不足カバ―**

全国的に産婦人科の医師不足が進む中、奥越地区でも唯一の産婦人科を持つ福井社会保険病院において、平成 19 年 4 月から分娩が休止された。この対策のため、本学附属病院において分娩の受入体制を整え、奥越地区の患者の不便・不安を解消することに努めた。

奥越地区で唯一の産婦人科を持つ福井社会保険病院は、平成 18 年度以降、分娩を休止した。このため、奥越地区の産婦人科医は、福井社会保険病院に所属している。福井社会保険病院は、産婦人科医の不足を解消するため、本学附属病院と連携し、分娩の受入体制を整えた。

奥越地区で唯一の産婦人科を持つ福井社会保険病院は、平成 18 年度以降、分娩を休止した。このため、奥越地区の産婦人科医は、福井社会保険病院に所属している。福井社会保険病院は、産婦人科医の不足を解消するため、本学附属病院と連携し、分娩の受入体制を整えた。

(福井新聞 H19.3.28)

資料 1-8-6 地方自治体からの寄附金の受入

附属病院と福井社会保険病院との医療連携支援にかかる寄附目録贈呈式

総務省への嘆願が実り、法律改正へ！！ 地方自治体から国立大学への寄附が可能に！！

勝山市にある福井社会保険病院では、産婦人科医の確保が困難となり、平成 19 年 3 月をもって分娩を中止すると発表したことに伴い、平成 19 年 4 月から、定期健診は福井社会保険病院婦人科で行い、分娩は本院産科婦人科がサポートするという医療連携を開始した。

これに対して、勝山市と大野市から医療機器の整備にかかる費用の支援を目的として、寄附の申し出があり、目録贈呈式が行われた。

地方自治体から国立大学に対する寄附行為については、地方財政再建促進特別措置法施行令等により対象が限定されていたが、本学医学部附属病院からの近隣の勝山市・大野市への医療支援（分娩医療）を受け、両市が総務省に働きかけた結果、同施行令が改正され、住民に対する特別な医療提供に要する費用負担として地方公共団体から国立大学への寄附が可能となり、改正後、全国で初めて両市から附属病院に対し医療設備整備のためにそれぞれ 250 万円の寄附があった。

(事務局資料)

社会連携  
社会との連携、国際交流等「計画 1-8」

医師確保対策への取組

福井県からの要請を受け、地元で働く医師の確保に繋げるため、医学部医学科の推薦入試において卒業後県内で医師となることを条件とした「地域枠」を平成 19 年度から新設した【資料 1-8-7】。また、「緊急医師確保対策」による福井県からの医学部入学定員増の要望を受け、平成 21 年度から医学部の入学定員を 5 名増やす方向で準備を進めている【資料 1-8-8】。

資料 1-8-7 医学部医学科における「地域枠」の新設について

近年、福井県においても、都市部への医師の集中による地域的偏在や特定診療科の医師不足に伴い、山間部等僻地における医師の充足率の低下が深刻化している。

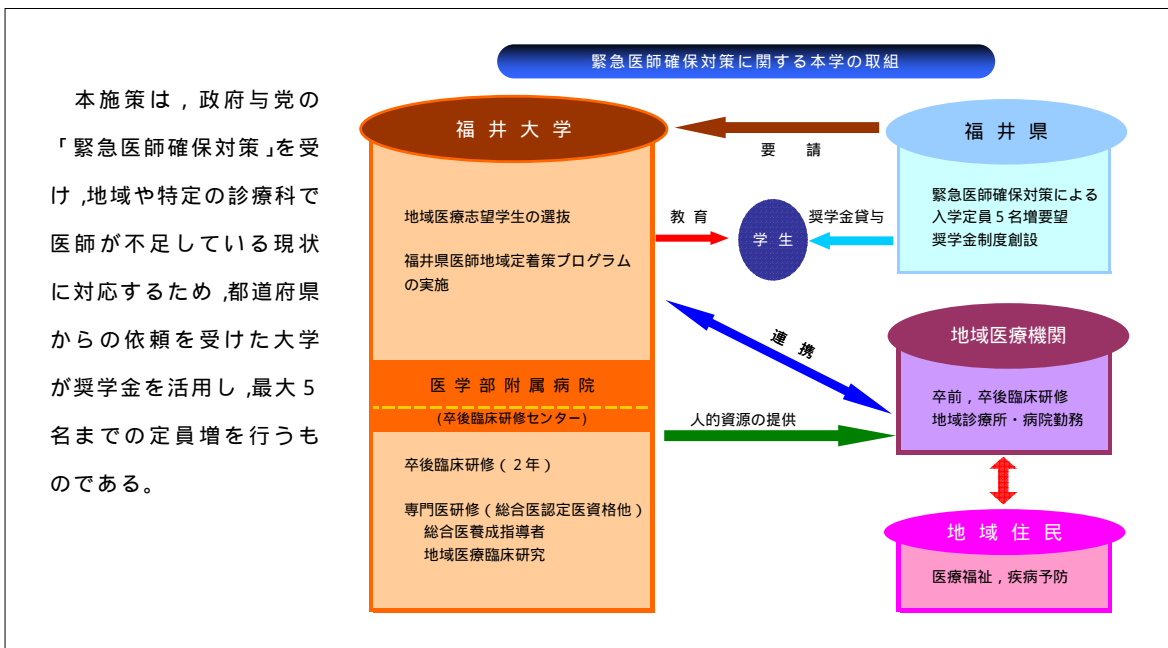
このような状況に鑑み、福井県からの要請を受け、地元に残り将来僻地診療を担いたいという強い使命感と倫理観を持った医師を養成するため、平成 20 年度から推薦入学に「地域枠」を導入した。

「地域枠」による推薦要件等

募集人員	推薦要件
地域枠 5 人以内 (20 人中)	高等学校又は中等教育学校における学習成績概評が A に属する生徒のうち、人物、学力ともに優秀で、かつ健康であると学校長が責任をもって推薦できる者 本学志願の動機が明確であり、将来医師及び医学研究者として地域医療や医学の進展に貢献する意欲が旺盛な者 スポーツ・文化活動やボランティア活動を通して、充実した高等学校又は中等教育学校生活を送っている者 高等学校又は中等教育学校において、物理、化学、生物（理数科にあっては、理数物理、理数化学、理数生物）のうち 2 科目以上履修した（見込みを含む）者 合格した場合は入学を確約できる者 医師免許を取得し、卒後臨床研修を終えた後、福井県内において医師となる強い意志有する者、又は嶺南医療振興財団の実施する医学生奨学金に応募する者

(平成 20 年度「福井大学医学部医学科推薦入学学生募集要項」より)

資料 1-8-8 緊急医師確保対策に関する本学の取組



(事務局資料)

計画 1-9 「地方自治体との友好協力協定による地域連携を推進する。」に係る状況

友好協力協定に基づく活動の推進

大野市（平成 15 年度）及び三方郡美浜町（平成 16 年度）と締結した相互友好協力協定に基づき，地域連携フォーラム・講演会の開催，活動報告書の発刊等を実施した【資料 1-9-1～5】。平成 19 年度には，相互の活動状況について点検・評価し，次年度活動に向けた分析・検証を行った【資料 1-9-6～8】。

資料 1-9-1 大野市との友好協力協定の締結



（福井大学広報紙「CAMPUS EXPRESS」より）

資料 1-9-2 主な大野市との連携事業一覧（平成 16～19 年度）

No	連携事業・テーマ	内容の概要	本学担当教員		大野市担当部署
			所属	氏名	
1	広報紙とインターネットの双方を活用した効果的な情報発信の研究	行政情報発信における広報紙とインターネットの新しい活用方法が模索できないものかと考えます。	総合情報処理センター	田中 光也	情報広報課
2	行政評価導入の検討	行政評価制度の導入に向けて，共同研究を行い，信頼度の高い制度のあり方を明らかにします。	教育地域科学部 教育地域科学部 教育地域科学部	岡崎 英一 木村 亮 手塚広一郎	秘書政策課
3	寝たきり予防のための健康教室	高齢化率 24%を占め，多くの高齢者が農業・林業の担い手であるという大野市の実情に鑑み，要介護危険度のチェックや筋力を保持増進するなど，地域に根ざした取組を行います。	教育地域科学部	戒 利光	保健衛生課
4	商店街活性化対策検討会議	中心市街地活性化法に基づく基本計画，TMOの必要性も含めて，商店街活性化に関する方策を検討します。	教育地域科学部	岡崎 英一	商工観光課
5	学生ボランティア派遣	教職を希望する学生などを中心として，学校へボランティアとして定期的に派遣し，大野の教育力向上の一助になると考えています。	教育地域科学部 教育地域科学部	松木 健一 森 透	学校教育課

No	連携事業・テーマ	内容の概要	本学担当教員		大野市 担当部署
			所属	氏名	
6	大野市の市民活動への学生参加に対する単位授与制度	福井大学で行う学生対象の授業について、大野市をフィールドとして行うことで、大野市のまちづくり活動に若い学生の考えや行動力を取り入れることを狙います。	教育地域科学部 教育地域科学部 教育地域科学部 教育地域科学部	宇野 文男 柳澤 昌一 岡田 裕成 大森 悟	社会教育課
7	福祉コミュニティ調査事業	地域の福祉コミュニティの現状を地図に表す福祉マップづくりに取り組むことにより、住民たちの福祉に関する支え合いの関係や行動を整理し、対応策を考えるべき諸課題を示します。	教育地域科学部 教育地域科学部	高田 洋子 山口 光代	NPO スローな福祉の会 福祉課
8	雪と共生するまちづくり	従来型の除雪対策以外に、住民、行政、企業が連携することにより実施可能な克雪、利雪の対策について、モデル地区を選定します。また、双方のスタッフによる雪対策に関する情報・意見交換会を実施し、双方が連携して取り組める事項を模索します。	工学研究科 工学研究科 工学研究科 工学研究科 教育地域科学部	福原 輝幸 永井 二郎 川本 義海 野嶋 慎二 門井 直哉	秘書政策課
9	大野市地下水保全管理計画の策定について	湧水の豊かな大野独自の地下水環境を保全していくことを目的に、地下水を利用しながら管理を行う大野市地下水保全管理計画を策定します。	工学研究科	福原 輝幸	生活環境課
10	住民参画のまちづくり	中心市街地において大野固有の歴史や文化を活かしながら、ゆとりとうるおいのある住宅地の形成のために、住民と協働して計画をし、環境整備を行います。	工学研究科	野嶋 慎二	都市整備課
11	総合型地域スポーツクラブ「みんスポクラブ」の育成・支援	「みんスポクラブ」の運営が軌道にのり、健全な状態で活動できるよう、また大野市内での周知により、多くの市民がスポーツに対する興味・関心を高めることが出来るよう、検討を行います。	教育地域科学部	三上 肇	スポーツ課
12	公開講座実施・講師等派遣	福井大学公開講座の大野市内での実施、大野市主催の各種講座への教員の派遣、大野市をフィールドとした各種調査・研究等の諸活動を通して、福井大学の知的・人的資源を大野市の活性化に役立てるとともに、福井大学の個性化につなげます。	医学部	田邊美智子 他多数	社会教育課
13	歴史的建造物の実態把握と保存活用計画の検討	大野市全域の歴史的建造物を文献調査・悉皆調査によって抽出し、実態把握を行います。その上で将来に必要な建造物について資料収集・実態把握を行い、これらの建造物を保存活用するための方策を検討します。	工学研究科	高嶋 猛	文化振興室
14	福祉防災コミュニティ活動促進事業	消防機関が地域と一体になって、安全で災害に強いコミュニティづくりに取り組みます。また、学術的見地から分析・検討して実現に向けて助言などを得ます。	工学研究科 工学研究科 工学研究科	櫻井 康宏 野嶋 慎二 葉袋美奈子	消防署 総務課
15	森づくりの実践活動と森林機能の体感事業	森林機能の調査や確認を兼ねて、市民(森の恩恵を受けている全ての人対象)からボランティアを募集して、実施可能な森づくり活動を試験的に実践していきます。	工学研究科	葉袋美奈子	林野耕地課

(「大野市との連携事業一覧」より)



資料 1-9-3 美浜町との相互友好協定の締結



### 美浜町との相互友好協力協定

福井大学は、7月23日(金)に、大野市に次いで美浜町と相互友好協力協定を締結しました。美浜町は、福井県の西南部に位置し、東は敦賀市、南は滋賀県に接し、北は若狭湾に面する総面積153平方キロメートル、人口約11,500人の風光明媚な町で、関西電力の原子力発電所や原子力安全システム研究所も設置されており、本年本学に新設された大学院工学研究科「原子力・エネルギー安全工学専攻」とも密接な関係があります。

美浜町との協定締結は、昨年7月に美浜町から申し出があったもので、その後検討を重ね、今回調印の運びとなったものです。

調印式は、本学関係者及び美浜町議会議員並びに美浜町職員立ち会いのもと、美浜町役場において行われ、児嶋学長と山口美浜町長が協定書に署名、押印し協定書を取り交わしました。調印式終了後、共同記者会見が開かれ、特に山口町長からは福井大学に対する熱い期待が述べられました。

なお、協定締結後の最初の連携事業として、美浜町の温泉を利用した産業振興や、町民の福祉向上のための拠点施設についてのプランニングを目的とした共同研究の実施が決定していますが、町民の生涯学習や街づくりの支援等についても、その都度協議をしながら進めていくこととしています。

(福井大学広報紙「CAMPUS EXPRESS」Vol.2より)

資料 1-9-4 主な美浜町との連携事業一覧(平成16~19年度)

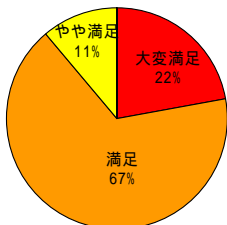
	連携事業テーマ	内容の概要	本学担当教員		美浜町担当部署
			所属	氏名	
1	豊かな活気あふれるまちづくりを目指した美浜の温浴・産業振興施設の研究	美浜町の温泉を利用して、町の産業振興・福祉向上を図る拠点施設の計画を策定する。また、太陽熱等自然エネルギーに配慮し、療養的温浴・産業振興施設を共同研究し、計画案を作成する。	工学研究科 工学研究科 教育地域科学部 工学研究科 医学部 医学部	高嶋 猛 杉本 英彦 岡崎 英一 末 信一朗 米澤 弘恵 長谷川 智子	商工観光課
2	美しい水を守る審議会	美しい水を守る条例の制定、水道水源を保護するとともに現在及び将来にわたって町民の生命及び健康を守ることを目的とする。	教育地域科学部	服部 勇	住民生活課
3	「福井大学講演会」の開催	『原子力とともに生きるまちづくり』講演会(原子力の安全と地域防災力・安全、信頼そして安心が生み出す地域づくり)を開催する。	工学研究科 工学研究科	福井 卓雄 川本 義海	企画課
4	美浜・五木ひろしまラソン大会への貢献	美浜・五木ひろしまラソン大会へ医師を派遣する。	医学部附属病院		教育委員会
5	景観づくり検討委員会	景観行政への助言・協力をを行う。	工学研究科	菊池 吉信	建築管理課
6	美浜町地域生活交通活性化協議会	美浜町における生活交通の維持及び活性化について協議する。	工学研究科	川本 義海	企画課
7	名勝三方五湖保存管理検討委員会(若狭町と合同)	三方五湖は名勝地及びラムサール条約の登録湿地に指定されており、将来に向けてどのように伝達するのが一番望ましいかなど、観光資源としても国内外に向けて胸を張れるような保存管理の考え方を取り上げていく。	教育地域科学部	服部 勇	教育委員会 (文化財保護・町誌編纂室)
8	『水環境の保全と三方五湖』講演会	『水環境の現状と課題』『三方五湖のなりたち』について講演会を行う。	工学研究科 教育地域科学部	永長 幸雄 山本 博文	住民生活課
9	美浜中学校設計プロポーザル審査委員会	美浜中学校建設事業に伴う設計プロポーザルについて審議する。	工学研究科	松下 聡	教育委員会
10	美浜町環境基本計画策定委員会	『美浜町環境基本計画』を策定する。	教育地域科学部	服部 勇	住民生活課

(「三方郡美浜町との連携事業一覧」より)

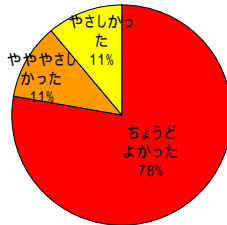
資料 1-9-5 地方公共団体との連携事業に関するアンケート

事業名 医学部看護学科主催「女性のための健康増進講座」  
 開催場所 大野市保健センター機能訓練室  
 開催日 2007/8/24(金)・8/31(金)  
 受講者数 32名

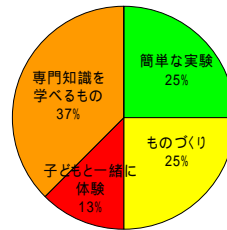
あなたは、この講座にどの程度満足されましたか？



この講座の内容はいかがでしたか？

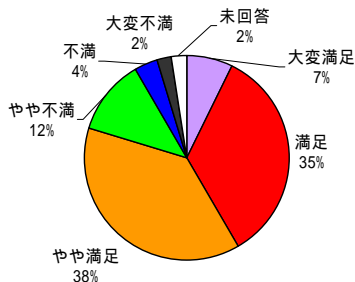


今後どのような公開講座に参加したいですか？

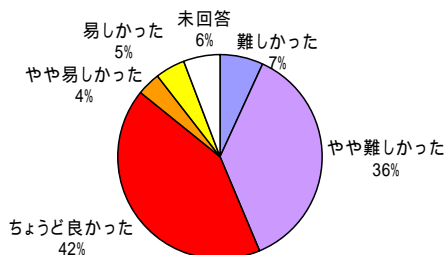


事業名 講演会「水環境の保全と三方五湖」  
 開催日 2006/3/18(土) 10:00~12:00  
 開催場所 美浜町保健福祉センター「はあとびあ」  
 参加者数 130名

あなたは、この講座にどの程度満足されましたか？



この講座の内容はいかがでしたか？



参加者の声

「三方五湖のなりたち」の講演、非常に興味深く聞いて勉強になりました。地学分野が大変分かりやすく面白かった。大変興味深く聞くことができた。ありがとうございました。今後も地域と連携して一般県民を対象とした講演を開催してほしい。

(地域貢献推進センター資料「大野市及び美浜町との連携事業アンケート集計結果」より)

資料 1-9-6 地方公共団体との連携事業に対する評価について

平成 19 年度から、相互友好協力協定に係る連携事業については、活動内容に関する進捗状況報告書に基づき地域貢献推進センター会議で取組内容を評価することとし、連携の状況や課題・予算化の状況・共同研究等の実施状況等を調査して、今後の連携を推進するか否かを決定する体制を構築した。

地方公共団体との相互友好協力協定に係る連携事業評価基準

実施状況に関する評価項目

1. 共同研究・受託研究の実施
2. 地域の課題に関する連携事業の実施
3. 自治体の事業への学生の参加
4. 講演会の実施
5. 公開講座の実施
6. 審議会等への参画

協力状況に関する評価項目

1. 講演会・公開講座への参加
2. 会場の提供
3. 予算化



スノーパートナーシップ(大野市)

ふるさと再発見(美浜町)

(地域貢献推進センター資料より)

## 資料 1-9-7 大野市による連携事業評価結果

## 福井大学 - 大野市 連携事業評価

評価者：大野市

## 総括

平成 15 年 4 月に相互友好協力協定を締結し、15 件の連携事業を立ち上げ、現在は 5 件の事業を福井大学の協力を得て実施している。

特に平成 15 年度から始まった旧武家屋敷「田村家」についての建築的調査は、「歴史的建造物の実態把握と保存活用計画の検討」として大野市全域の歴史的建造物についての文献調査・悉皆調査による共同研究に広がり、大きな成果をあげている。

また、「福祉コミュニティ調査」では福祉マップの作成や、地域の課題である雪対策についての事業「雪と共生するまちづくり」では雪あんしんマップの作成など地域住民の生活に即した成果もあがった。

その外、「大野市都市景観審議会長」「大野市都市審議会委員」「男女共同参画推進委員」としての参画、「水のみえるまちづくりシンポジウム」講師、大野市での公開講座の実施等により、大野市にとってより一層の地域活性化が図れた。

(「地方自治体との友好協力協定に係る連携事業評価結果」より)

## 資料 1-9-8 美浜町による連携事業評価結果

## 福井大学 - 美浜町 連携事業評価

評価者：美浜町

## 総括

これまで、個々には美浜町行政の各分野などにおいて福井大学とは繋がりがあったが、今回の協定締結により組織としての連携体制が整い、より一層の地域活性化を図ることができた。

各連携事業において当初の目的が図られたことはもちろん、「美浜町エネルギー環境教育推進委員会」における専門員の指導・助言をいただき、エネルギー環境教育の推進に向けて着実に前進することができた。

「協働のまちづくり検討委員会」「美浜町地域公共交通会議」「美浜町環境基本計画策定委員会」での学識経験者としての指導及び助言のもと基本方針の検討や基本計画を策定することができた。

今後とも美浜町行政の各分野において着実に前進していくため、この連携により適切な支援を頂きながら、お互いの成果につなげていきたい。

(「地方自治体との友好協力協定に係る連携事業評価結果」より)

### 医療活動に関する協定の締結

医学部では、平成 17 年度に旧美山町との間で、花粉症治療研究センターについての協定を締結し、先進的な治療法の研究を進めた【資料 1-9-9】。また、平成 19 年度には附属病院と永平寺町及び嶺北消防組合との間で、災害時医師派遣等に関する協定を締結した【資料 1-9-10】。

資料 1-9-9 旧美山町との協定締結

平成 17 年 5 月 12 日、本学医学部とスギの産地で知られる旧美山町（平成 18 年 2 月福井市に合併）との間で連携協定を締結し、花粉症治療についての研究拠点として「花粉症治療研究センター」を設置して、先進的な花粉症研究を進めている。

大学と地方自治体がアレルギー研究で連携するのは全国初であり、また、近年マイナスイメージが強まるスギ花粉を活用した新しい治療法の研究・開発を推進することにより、スギ産地としてのイメージアップにも貢献した。




調印後握手を交わす有塚美山町長と伊藤医学部長

スギ花粉症治療研究センター

（事務局資料）

資料 1-9-10 永平寺町及び嶺北消防組合との災害時医師派遣に関する協定締結

平成 19 年度、医学部附属病院と永平寺町及び嶺北消防組合との間で、集団的に発生する傷病者の救急医療対策に関する応援協定を相次いで締結した。

（永平寺町 : 平成 19 年 11 月 26 日締結）  
 （嶺北消防組合 : 平成 20 年 02 月 18 日締結）




調印後握手を交わす上田病院長と松本永平寺町長

協定書を取り交わす上田病院長と吉田消防長

集団災害時発生の際には、支援体制の充実・機関の特性に応じた応援が必須条件であり、今回の締結によって消防関係機関との連携が一層強化され、本院の医療スタッフが迅速に災害発生現場へ出動できる体制が整った。

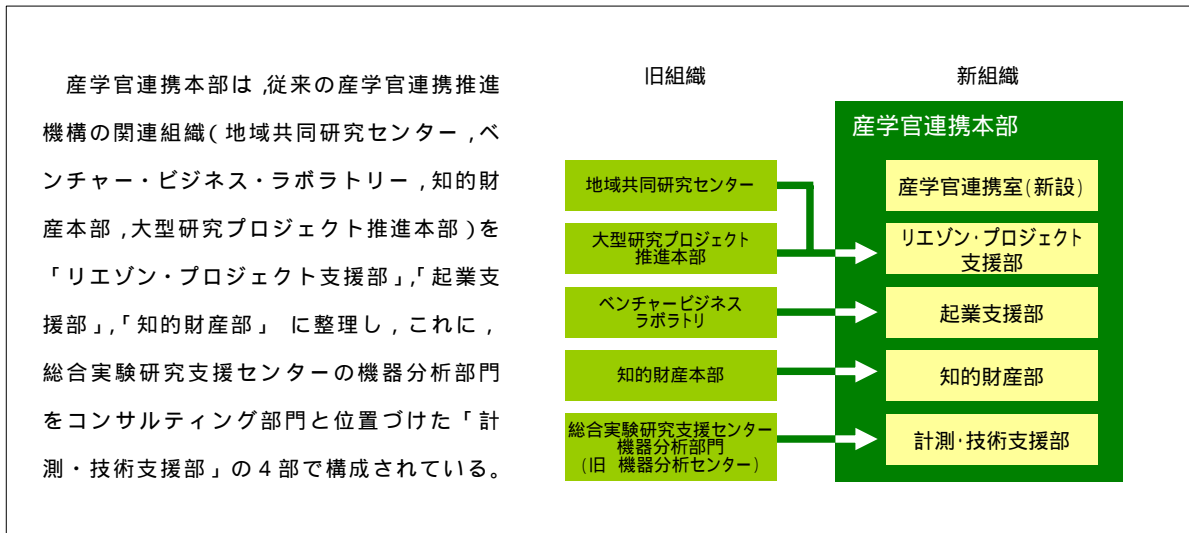
（本学HP「ニュース&トピックス」より）

計画 1-10 **ウエイト** 「知的財産権を総括的に管理・運用する委員会，担当部署等を整備し，特許等の技術移転や民間企業等との共同研究の推進，その効率化を図る。」に係る状況

産学官連携強化のための体制の整備

平成 19 年度に産学官連携本部を設置し，委員会・人員・予算・外部との窓口等の一本化を図り，必要な情報を共有・分析して学内外の多様な要請に即応できる体制を整備した【資料 1-10-1～2，P15 資料 1-3-13】。

資料 1-10-1 産学官連携本部の設置について



（産学官連携本部案内パンフレットより）

資料 1-10-2 「企業代表者との懇談会」における企業からの意見と本学の回答

産学官連携の体制

産学官連携の成果をあげるため今までの懇談会で意見を申しあげてきたことが，きちんと対応されている。具体的には，大学改革により意識が変化し，組織体制が再構築されている。これだけ大学が変わったのかという驚きと同時に，その取り組み姿勢は高く評価する。

産学官連携は，平成 7 年に協力会ができた当時と比べ，隔世の感がある。大変な進歩であり，産業界も今以上にバックアップする責任がある。

欧米では地域が一体となり支援している。福井でも今後の課題であり，福井大学には大きな期待をしている。

本学では，「産学官推進本部」の改組によりワン・ストップ・サービスの組織体制に改め，対応力の向上に努めることとしている。そして，新しいシステム（仕組み）で体制整備し，産学官連携には本気で取り組む覚悟である。



第 7 回企業トップとの懇談会の様子

（「第 7 回トップ懇談会（H19.3.8）における意見・要望等」より）

企業等との共同研究の推進

「産学官連携ポリシー」【資料 1-10-3】の理念に基づき、本部長のリーダーシップの下、各種イベント等の開催、学外専門家の採用等の積極的な取組により、共同研究等の受入件数は年々大幅に増加している。特に、本学とふくい産業支援センターが緊密に連携し、責任企業を決めて事業化まで繋げる体制は、「福井方式」として県内外から高く評価されている【資料 1-10-4～10】。

資料 1-10-3 国立大学福井大学産学官連携ポリシー

（平成 18 年 2 月 13 日策定）

国立大学法人福井大学 産学官連携ポリシー

福井大学は、持続的発展可能な社会を実現するために、教育地域科学、医学、工学およびこれらの融合領域において、最高水準の教育と研究を行なうとともに、これらの成果を広く社会に還元することを目指しています。

特に地域の特徴を明確に把握し、産学官の連携をととして大学と社会が、知的創造サイクルを形成することを目指しています。

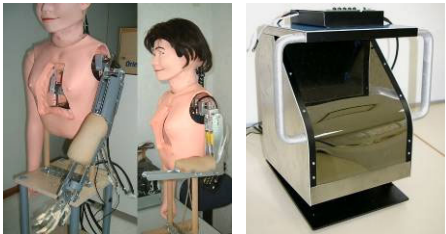
このような産学官連携を円滑に推進するために、本学は、

1. 自由な発想に基づく創造的な研究を重視するとともに、社会的要請を留意して大学が主体的に産学官連携を進めます。
2. 産学官連携を担当する組織を明確にし、共同研究者の紹介、共同研究等の受け入れ、知的財産の移転など、様々な要求に柔軟、かつ迅速に対応します。
3. 産学官連携は高い透明性と公平性をもって取り組み、十分な説明責任を果たします。
4. 福井大学の研究情報を大学の外に向けてわかりやすく発信します。
5. 産学官連携により、教育と研究の環境整備を促進し、社会の発展に貢献する人材を育成します。
6. 地域社会の活動拠点として、地域産業界、地方自治体、市民との連携・交流を一層強化します。
7. 教育および研究に加え、新技術および新産業創出への寄与を、教員の業績として正当に評価します。

福井大学は、地域社会、国と地方公共団体、産業界、そして国際社会と協調して、大学が生み出す『知』と社会が持つ『知と技』を融合し、我が国の国際的役割の向上に邁進します。

（本学HP「研究・産学官連携情報」より）

資料 1-10-4 インキュベーションラボファクトリー（ILF）における活動



本学が持つ研究成果・ノウハウの技術移転を促進するため、独自に試作品を製作し、試し販売を経験してユーザの評価を得るシステムを構築している。地域の企業人材からなる匠人材コンソーシアムを結成し、試作品製造や試し販売の実践時の活動を支援するなど、実践的な経験を積む場を提供している。

（事務局資料）

資料 1-10-5 コーディネータ・客員教授の採用

共同研究推進のために、産学官連携コーディネータ・客員教授等を積極的に採用し、大学のシーズと産業界のニーズを結びつけるための橋渡し役として、大いに活躍していただいた。

	役職	氏名		役職	氏名
1	産学官連携コーディネータ	吉田 芳元	16	客員教授	錦 善則
2	非常勤コーディネータ	齊藤 敏機	17	客員教授	若生 寛志
3	非常勤コーディネータ	箕輪 泰造	18	客員教授	紙本 伸明
4	非常勤コーディネータ	谷 賢	19	客員教授	清川 肇
5	非常勤コーディネータ	奥野 信男	20	客員教授	早副 宏理
6	非常勤コーディネータ	天野 俊紀	21	客員教授	川崎 好昭
7	非常勤コーディネータ	小坂 忠夫	22	客員教授	松本 徹
8	非常勤コーディネータ	巽 信夫	23	客員教授	山本富士夫
9	非常勤コーディネータ	新保 善正	24	客員教授	毛利 一平
10	非常勤コーディネータ	川上 文清	25	客員教授	喜多川久人
11	非常勤コーディネータ	白崎 真二	26	客員教授	尾形 偉幸
12	非常勤コーディネータ	三亀 和雄	27	客員教授	犬塚 隆志
13	非常勤コーディネータ	吉川 博	28	ILFコーディネータ	吉長 重樹
14	客員教授	岡崎 謙琇	29	ILF非常勤コーディネータ	千葉 耕平
15	客員教授	大前 安和	30	ILF非常勤コーディネータ	小川 明彦

(平成19年度「産学官連携本部スタッフ一覧」より)

資料 1-10-6 コーディネータの活動状況

産学官連携の共同研究に係るコーディネート活動

- ・共同研究の成果を知的財産として確立するための助言
- ・特許の発掘，強化，権利化への支援

本学教員の研究シーズに係る広報活動

- ・イノベーションジャパン 2007（東京）への出展
- ・展示会での説明，発表者の支援，企業とのマッチング等
- ・企業ニーズ，競争的資金獲得に係る情報収集活動
- ・シーズ発掘試験の推進，競争的資金獲得の支援

研究会・セミナーの開催

- ・知的財産部が実施する知財セミナーの実施
- ・大学院生対象の「特許情報検索サポーター」の養成

工業会（工学部卒業生同窓会）との連携

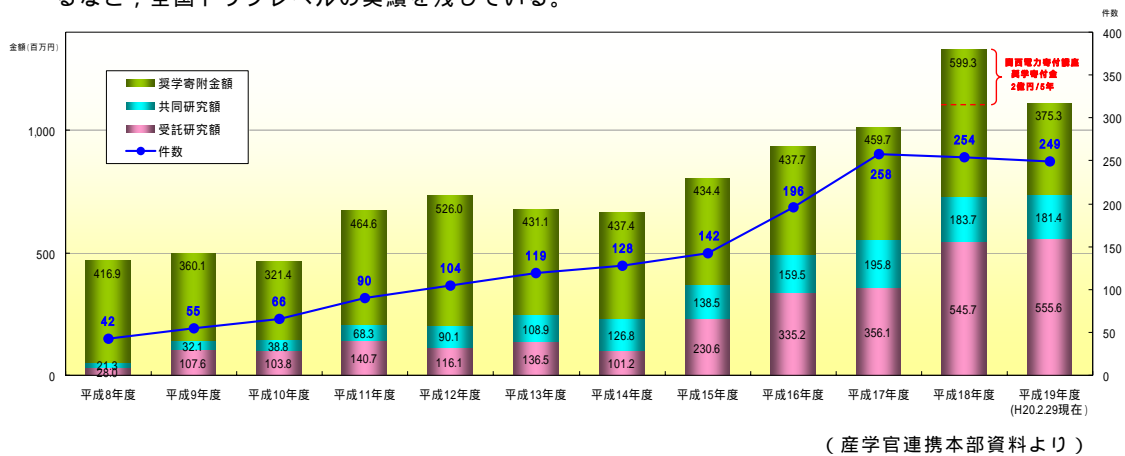
- ・大阪（化学・材料），東京（電気・機械）でのシーズ説明会の実施 など



(事務局資料)

資料 1-10-7 外部資金（奨学寄附金・共同研究・受託研究）受入金額の推移

法人化後、5年間で共同研究件数を1.5倍に引き上げる数値目標を設定し、平成17年度の実施件数は目標の「1.97倍」となり、わずか2年間でスピード達成となった。また、平成16年度の共同研究件数は、全国の約750大学の中で23位、平成17年度は22位、平成18年度は30位にランクされるなど、全国トップレベルの実績を残している。



全国国公立大学 年度別共同研究実施件数一覧

平成16年度			平成17年度			平成18年度		
順位	大学名	件数	順位	大学名	件数	順位	大学名	件数
1	東京大学	742	1	東京大学	850	1	東京大学	906
2	大阪大学	457	2	大阪大学	586	2	京都大学	643
3	東北大学	392	3	京都大学	504	2	大阪大学	643
4	京都大学	378	4	東北大学	479	4	九州大学	567
5	九州大学	329	5	東京工業大学	423	5	東北大学	519
6	東京工業大学	318	6	九州大学	388	6	東京工業大学	368
7	名古屋大学	269	7	北海道大学	347	7	北海道大学	362
8	北海道大学	259	8	名古屋大学	277	8	名古屋大学	337
9	山口大学	216	9	筑波大学	254	9	筑波大学	290
9	広島大学	216	10	東京農工大学	245	10	慶応義塾大学	279
11	岐阜大学	201	11	静岡大学	236	11	静岡大学	259
12	静岡大学	200	12	広島大学	227	12	東京農工大学	254
13	慶応義塾大学	195	13	山口大学	223	13	三重大学	245
14	筑波大学	189	14	三重大学	222	14	千葉大学	244
15	東京農工大学	186	15	岐阜大学	219	15	広島大学	232
15	金沢大学	186	16	名古屋工業大学	213	16	信州大学	231
17	名古屋工業大学	174	17	慶応義塾大学	212	17	岐阜大学	213
18	三重大学	165	18	千葉大学	199	18	名古屋工業大学	205
19	岩手大学	161	19	神戸大学	192	19	岩手大学	203
20	神戸大学	156	20	金沢大学	181	19	山口大学	203
21	千葉大学	151	21	岩手大学	179	19	大阪府立大学	203
22	大阪府立大学	141	22	福井大学	176	22	神戸大学	200
23	福井大学	140	23	群馬大学	172	23	徳島大学	192
24	群馬大学	133	23	大阪府立大学	172	24	金沢大学	190
25	早稲田大学	132	25	信州大学	171	25	岡山大学	186
26	徳島大学	130	26	徳島大学	159	26	電気通信大学	182
27	鳥取大学	129	27	岡山大学	153	27	群馬大学	168
28	横浜国立大学	126	28	横浜国立大学	150	28	茨城大学	161
29	京都工芸繊維大学	125	29	鳥取大学	145	29	鳥取大学	159
30	熊本大学	117	29	九州工業大学	145	30	福井大学	151
			29	熊本大学	145			

(文部科学省資料より)



資料 1-10-8 中小企業との共同研究比率（H16年度）

順位	大学名	件数	契約総数に対する比率
1	岐阜大学	110	65.9
2	三重大学	74	64.3
3	岩手大学	70	61.4
4	群馬大学	68	58.1
5	鳥取大学	64	53.3
6	大阪府立大学	63	50.0
7	早稲田大学	47	43.9
8	北海道大学	80	52.6
9	熊本大学	45	42.1
10	福井大学	42	41.6
11	京都工芸繊維大学	46	41.4
12	金沢大学	69	41.3
13	筑波大学	59	38.8
14	東京農工大学	63	37.3
15	山口大学	65	34.2

H17以降 資料なし

（文部科学省資料より）

資料 1-10-9 共同研究説明会開催に関する新聞記事

### 企業と共同研究 拡大へ

# 生かせ 卒業生ネット

## 都市圏で説明会

### 来月名古屋で100人に招待状

### 自動車分野に期待

共同研究のパートナー企業を呼び込むため、福井大学は卒業生ネットワークを活用し、都市圏で説明会を開催する。この説明会は、卒業生が企業に働きかけ、共同研究の機会を創出する。福井大学は、卒業生が企業に働きかけ、共同研究の機会を創出する。福井大学は、卒業生が企業に働きかけ、共同研究の機会を創出する。

（日刊県民福井 H20.2.18）

資料 1-10-10 本学の外部資金獲得に関する新聞記事

# 産学研究、2年で倍増

## 福井大

### 外部資金獲得へ積極策

### 卓内産学官連携進む

### 大学、高専240件目標上回る

### 「福井方式」高い評価

### 国事業 相次ぎ採択 競争的資金増える

福井大学は、産学官連携を進め、外部資金獲得に積極的である。卓内産学官連携は、産学官連携の先進事例として知られている。大学、高専240件目標上回るという目標も達成されている。国事業の採択も増加しており、競争的資金が増えている。

（日刊県民福井 H18.4.19）

社会連携

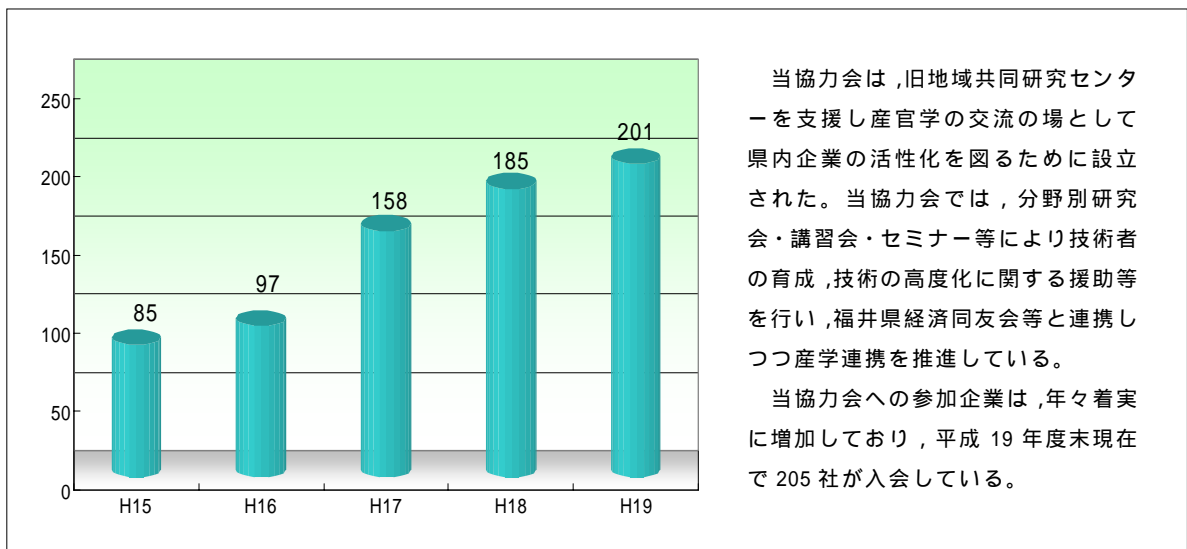
社会との連携、国際交流等「計画1-10」

計画 1-11 **ウエイト** 「地域の産業界等との連携，協力体制を強化し，社会連携を推進する。」に係る状況

産学官連携体制の更なる強化

県内外の企業が参加する地域共同研究センター協力会（平成 19 年 11 月産学官連携本部協力会に名称変更）の設立，地元企業や地方公共団体の長とのトップ懇談会の開催，地元企業や金融機関等との包括的連携協定の締結，大学発ベンチャー企業を支援する組織「未来ネット」の設立等，地域に根ざした産学官連携体制の強化を図っている【資料 1-11-1～10】。

資料 1-11-1 産学官連携本部協力会会員の推移



（産学官連携本部資料「協力会会員数調べ」より）

資料 1-11-2 企業代表者との懇談会の開催

地域共同研究センター及び同協力会主催による「福井大学と協力会企業トップとの懇談会」を毎年開催し，企業代表者と学長・部局長とが直接意見交換を行っている。活発な自由討論や実際に共同研究を実施した企業からの要望など，多くの貴重な意見が出され，産学連携体制の改善に寄与している。

懇談会参加者数

回	開催日	参加人数
第 5 回	H17.03.09	82
第 6 回	H18.03.13	84
第 7 回	H19.03.08	80
第 8 回	H20.03.06	84



第8回企業代表者との懇談会の様子

（事務局資料）

## 資料 1-11-3 企業代表者からの主な意見と本学の回答

## 産学官連携の産業分野

福井の地場産業である、繊維、眼鏡などの技術が集積されており、こうした技術を活かすべきである。繊維は1960年代に炭素繊維が生まれ、それ以降には新しい繊維が生まれていない。

福井は繊維産業で地域経済が潤ってきた。しかるに、今は福井大学に「繊維」の名前を冠した学科がない。繊維の研究部門をまとめ、復活してほしい。

今後、繊維・眼鏡・原子力関係など福井の特色ある分野を強化していく。平成19年には、工学研究科に繊維工業研究センターを設置する予定である。

## 人材育成と就職

福井県内には魅力ある企業が多いにも拘らず、福井に就職する学生が少ない。学生の地元就職に注力してほしい。

学生の定着も必要であるが、「数学」などの基礎学力もつけるべきである。また、企業に就職した人材を大学が育成することも必要である。

地域貢献の最大は人材育成である。地元就職については、学生の意識改革に努める。大学にはリカレント教育制度があり、聴講生として受け入れている。

## 経済界と大学の研究者との交流

経済界の若手経営者と、大学の准教授クラスの研究者との交流の場を設けてはどうか。

若手教員との交流はぜひとも実現をお願いしたい。大学側も積極的に応じたい。

## 大学の海外展開

大学全入の時代を迎え、海外からの学生募集も視野に入れている。また、アジアを中心とした海外拠点を設け、研究の推進や学生の確保も図りたい。

## 産学官連携の体制

産学官連携の成果をあげるため今までの懇談会で意見を申しあげてきたことが、きちんと対応されている。具体的には、大学改革により意識が変化し、組織体制が再構築されている。これだけ大学が変わったのかという驚きと同時に、その取り組み姿勢は高く評価する。

産学官連携は、平成7年に協会のできた当時と比べ、隔世の感がある。大変な進歩であり、産業界も今以上にバックアップする責任がある。

欧米では地域が一体となり支援している。福井でも今後の課題であり、福井大学には大きな期待をしている。

本学では、「産学官推進本部」の改組によりワン・ストップ・サービスの組織体制に改め、対応力の向上に努めることとしている。そして、新しいシステム（仕組み）で体制整備し、産学官連携には本気で取り組む覚悟である。

（「第7回トップ懇談会（H19.3.8）における意見・要望等」より）

資料 1-11-4 県内産業界との技術交流会の開催

本学と県内産業界との技術交流促進・地域の活性化を図るため、「FUNTECフォーラム」を毎年開催し、産学連携による知的財産戦略にスポットを当て、地域の活性化に繋げていくための方策を推進している。



【FUNTECフォーラム - 福井大学と産業界との交流会 -】

H17.01.28	副題：技術経営（MOT）のすすめ	参加人数：168名
H18.01.26	副題：地域・大学・ビジネスインキュベーション	参加人数：183名
H19.01.25	副題：産学官連携における知的財産戦略	参加人数：169名
H19.11.29	副題：原子力・ナノテク・産学官連携	参加人数：156名

（研究推進課資料）

産学官連携ジャーナル イベントレポート「FUNTECフォーラム」報告

『福井県の産業は繊維・眼鏡を中心とするものづくりが基本である。福井大学は福井医科大学と統合し、さらに国立大学法人となった。医工連携によるテーマが多いが、地域の貢献と発展のために本気で取り組んでいる。これを実践する福井大学地域共同研究センターでは、文部科学省の支援を受け、インキュベーションラボファクトリーを中核とする創業型実践大学院工学教育による人材育成プログラムを起こした。このラボファクトリーでのものづくり・ビジネスプラン策定・試販を進める中で、県内外の企業がメンバーである協会の人的協力を得て実践に役立つ人材育成にも尽力している。』

編集長 加藤多恵子

（「産学官連携ジャーナル Vol.2 2 2006」より）

資料 1-11-5 「東京オフィス」の設置

産学官連携の研究推進等を中心に、首都圏における本学の教育研究活動の拠点とすることを目的として、平成 16 年 4 月、東京都江戸川区「コラボ産学官プラザ in TOKYO 内に「福井大学東京オフィス」を設置した。

【主な用途】

- 1) 産学官連携の共同研究に係るコーディネート活動
- 2) 本学教員の研究シーズに係る広報活動
- 3) 企業ニーズ、競争的資金獲得に係る情報収集活動
- 4) 研究会・セミナーの開催
- 5) 入試・就職に係る広報活動
- 6) その他学長が必要と認めた用途



産学官連携組織「コラボ産学官」加入機関等

福井大学、北見工業大学、室蘭工業大学、弘前大学、群馬大学、電気通信大学、信州大学、島根大学、徳島大学、大分大学、長崎大学、みやざき TLO、新潟 TLO、中央大学、同志社大学

（事務局資料）

資料 1-11-6 企業等との包括的連携協定の締結について

本学と企業等が持つ研究成果と技術力を統合し、次世代技術を開発すること等を目的として、企業等との包括的連携協定を推進している。

法人化後、13 機関と協定を締結し、学術研究の振興、研究成果による社会貢献及び研究者・技術者の育成に寄与している。



日本原子力研究開発機構との包括的連携協定の締結

包括的連携協定 締結企業等一覧

協定締結日	協定先企業等名
H 17.02.21	日華化学株式会社
H 17.03.30	福井コンピュータ株式会社
H 17.07.21	中小企業金融公庫福井支店
H 17.08.08	アイテック株式会社
H 17.12.21	株式会社福井銀行
H 17.12.21	財団法人ふくい産業支援センター
H 18.03.02	株式会社北陸銀行
H 18.03.16	福井信用金庫
H 18.06.19	独立行政法人放射線医学総合研究所
H 18.09.22	商工組合中央金庫福井支店
H 18.10.03	独立行政法人日本原子力研究開発機構
H 19.06.01	福井県眼鏡工業組合
H 20.02.20	株式会社マイクロン

(研究推進課資料「包括的連携協定締結企業一覧」より)

資料 1-11-7 福井大学ベンチャービジネス交流会「未来ネット」の設立

平成18年度、大学発ベンチャーを支援する組織「未来ネット」を設立した。会員は起業した教職員の他、企業・金融機関関係者で構成され、「資金調達」「販路開拓・顧客確保」などベンチャー企業が抱える諸課題に対して情報を共有し、黒字化・株式上場に向けた助言を行っている。



「未来ネット」設立総会 (H18.9.25)

本学発ベンチャー企業の本数は、平成19年度末で11社となっており、平成18年度におけるベンチャー企業の増加数は、全国で5位にランクされるなど、起業化に向けての積極的な支援を行っている。

**大学発VB5社増加**

経済産業省がまとめた大学発ベンチャーに関する二〇〇六年度の調査によると、北陸三県の国立大学四校を母体とするベンチャー企業数は三十七社となり、一年前より五社増えた。

福井大が四社増やし、全国増えたベンチャー企業の内訳は、光ファイバーを使った建物の安全管理システムを手がける「オフレ」(福井市)、半導体薄膜製造の「FUNI S-Tech」(同)など福井大の中でも増加数で五位

北陸3県、昨年度末37社  
福井大、全国5位

科学技術大学院大が小型元素分析器を販売する「マイクロエミッション」(石川県美市)の社。

福井大は「月末時点で累計で九社にのぼったが、「経営が軌道に乗った企業はまだ少ない」と指摘。県内企業や金融機関、研究者らで組織する交流会を使い、販路開拓や資金調達の支援に力を入れる。

(日本経済新聞 H19.9.4)

(事務局資料)

資料 1-11-8 福井大学発ベンチャー企業一覧

	ベンチャー企業名 設立年月日	所属	役職	担当者氏名	事業内容
1	有限会社 シーオーツー テクノ H17.12.15	工学研究科	専務取締役	堀 照夫	・超臨界応用技術の活用 ・産学共同研究コーディネート ・繊維関連技術の技術コンサルタント業務
2	有限会社 福井ウルテック H17.12.20	医学部	取締役	藤井 豊	・玩具及び分子模型等教育用教材の製造販売 ・インテリア小物の製造販売
3	有限会社 ファイバーアイ H18.3.24	工学研究科 医学部 工学研究科	取締役社長 取締役 取締役	桜井 哲真 久保田 紀彦 福間 慎治	・医工融合技術商品の開発, 販売 ・光ファイバーセンサー及び耐放射線デバイスの開発, 販売 ・デジタル画像処理システム開発・プログラム制作 他
4	株式会社 苗屋 H18.2.8	教育地域科学部	取締役	前田 樹夫	・野菜苗・種子の生産販売 ・観賞用マイクロフローラの生産販売 ・マイクロフローラ作成キットの販売
5	合同会社 FUNIS - TECH H18.7.24	工学研究科	技術担当社員	山本 高勇	・窒化インジウム系材料の製造, 販売, コンサルタント業務
6	株式会社 ナリサーチ H18.9.7	工学研究科	技術顧問	荻原 隆	・リチウムイオン電池正極材料の製造・販売 ・各種機能性電子材料粉体及び試薬材料の製造販売 ・ナノ粉体製造及び各種化学分析の受託試験
7	株式会社 オプテレ H18.10.19	工学研究科	代表取締役	小林 喬郎	・光ファイバーセンサーシステムの開発, 販売, 保守 ・レーザー及び光技術のコンサルタント業務 他
8	株式会社 身のこなし ラボラトリー H18.10.24	教育地域科学部	取締役	吉澤 正尹	・脳と筋肉のコミュニケーション能力を高め, 動作を改善する事での運動プログラム, 機材, 教材などの開発, 販売, 施設の運営 他
9	株式会社 イマトロニクス H19.2.22	工学研究科	代表取締役	イクバル・フランク イトコム	・パノラマ関連ソフトウェアの制作, 販売 ・情報技術の調査研究の受託
10	ファルマコム 合同会社 H19.7.25	医学部 医学部	代表社員 業務執行社員	村松 郁延 森島 繁	・新薬, モデル実験動物, DNA等の制作・販売 ・実験機器及び実験システムの制作・販売・アフターフォロー 他
11	株式会社 ジャイロテック H19.7.31	遠赤外領域開発 研究センター	取締役副社長	出原 敏孝	・高出力安定化テラヘルツ光源・ジャイロトロンの開発・制作・販売 ・ジャイロトロン周辺機器の制作・販売 ・高出力テラヘルツ応用技術の開発 他
12	株式会社 快適生活 総合研究所 H20.3.6	教育地域科学部	取締役	吉澤 正尹	・バリアフリー用具の開発・製造販売 ・日常生活用具の開発・販売 ・スポーツ用具の開発・製造販売 ・生活用具の快適性の評価システムの開発・販売



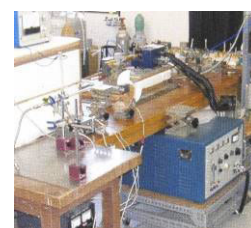
(有)ウルテック  
分子模型



(株)苗屋  
マイクロフローラ



(株)オプテレ  
光ファイバセンサ装置



(株)ジャイロテック  
サブミリ波・遠赤外分光装置

(「福井大学発ベンチャー企業一覧」より)

資料 1-11-9 技術相談による産学官連携の推進について

対応した技術相談 1 件につき 1 ポイントを付与し、また、シーズ発表会、展示会などに参加した教員にもポイントが付与する「産学官連携活動ポイント制」を平成16年度から導入しており、平成20年3月末現在、計628件の相談・指導を実施している。

積算ポイント数に応じた研究費を教員へインセンティブとして還元することにより、技術相談や産学官連携に関わる教員にとって良い刺激となり、また、企業と大学との連携がより強化され、共同研究・受託研究の増加にも大いに貢献した。

年度別技術相談件数一覧

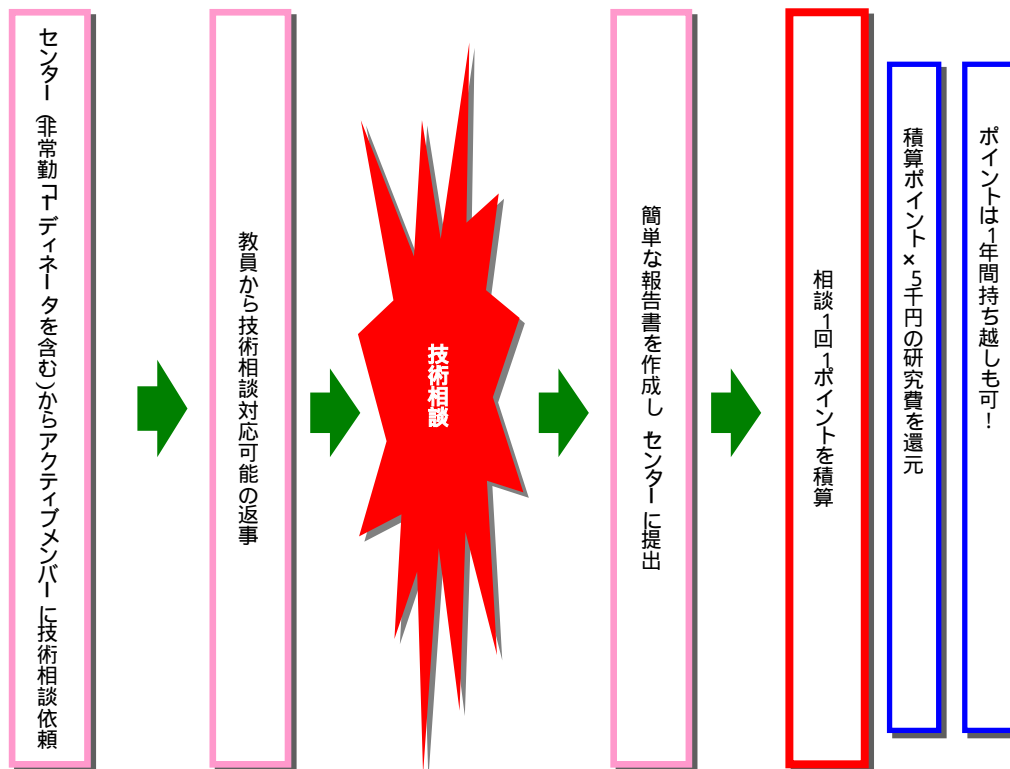
年度	件数
平成 15 年度	105
平成 16 年度	127
平成 17 年度	174
平成 18 年度	163
平成 19 年度	169

(産学官連携本部資料)

(事務局資料)

資料 1-11-10 産学官連携活動ポイント制について

産学官連携活動アクティブメンバー登録と産学官連携活動ポイント制について



注1 還元する研究費は、消耗品、旅費に限ります。飲食費、謝金などの支払いはできません。

注2 アクティブメンバー、ポイント制や報告書の概要は、<http://www.cr-center.fukui-u.ac.jp/html/point.htm>を参照下さい。

注3 1ポイントの価格は年度毎に変動します。次年度に持ち越したポイントは、その年度の換算値で計算します。ご注意下さい。

注4 支払いが1ポイント未満の場合、切り捨てます。

注5 先生方に相談が直接持ち込まれた場合は、センターに連絡を下さい。ポイントに換算します。お得です。

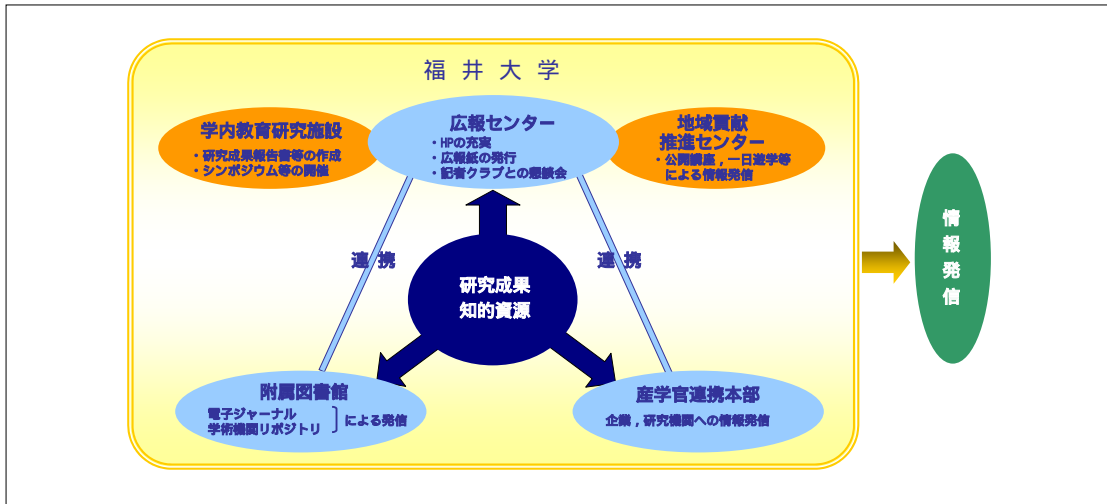
(産学官連携本部HP「産学官連携活動ポイント制のお知らせ」より)

計画 1-12 「マスメディアへの公表システムの構築など，学内研究成果及び知的資源の情報発信体制を整備する。」に係る状況

全学的な情報発信体制の構築

知的資源の社会への還元を本学における法人化後の最重要課題の一つとして捉え，広報センターを中心として各部局が連携しつつ情報を提供する一元的な体制を整備した【資料 1-12-1】。

資料 1-12-1 福井大学における研究活動に関する情報発信体制

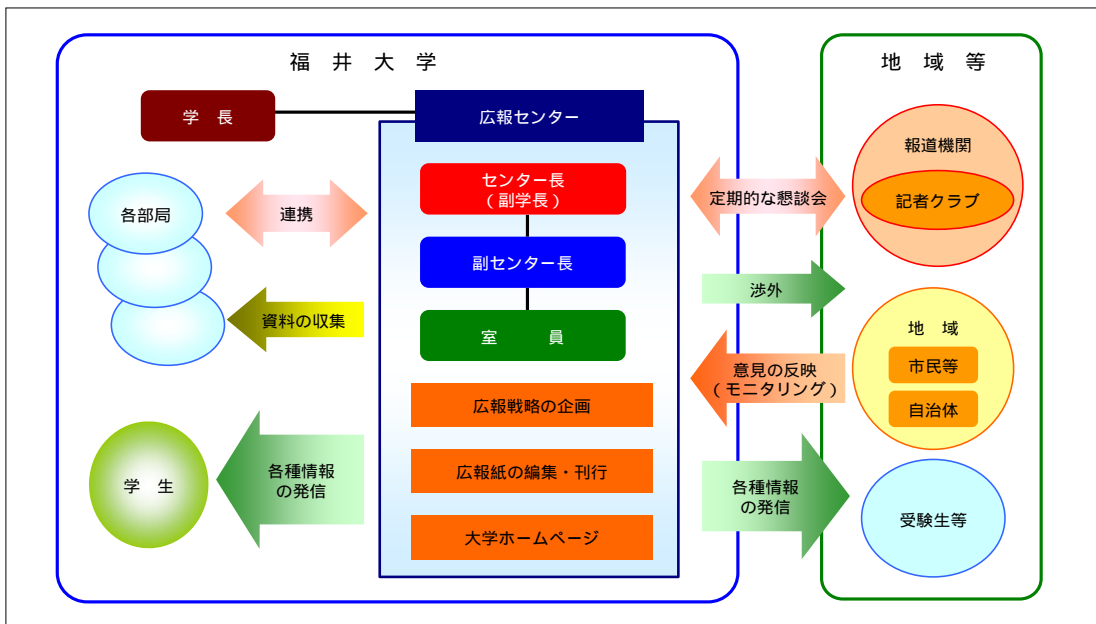


(事務局資料)

広報センターにおける情報発信の取組

平成 16 年度に設置した広報センター【資料 1-12-2】では，広報窓口の一元化を図り，教育記者クラブとの定期懇談会の開催，電子メールでの情報提供等により，研究成果のマスメディアへの効果的な情報発信に努めた【資料 1-12-3】。また，平成 19 年度から新たに広報・地域貢献担当の副学長を置き，広報センター長として更なる全学的な方針の反映と積極的な広報活動の推進を図った。

資料 1-12-2 広報センター概略図



(事務局資料)



資料 1-12-3 マスメディアへの効果的な情報発信に関する取組

記者クラブとの懇談会による情報発信体制の改善

教育記者クラブとの懇談会は、広報センターを大学の体外窓口として認識してもらうための機会となっており、記者クラブからの要望を収集し、広報センターで協議して改善に結びつけている。

開催状況

年度	第 1 回	第 2 回	第 3 回
平成 16 年度	6/23	11/16	3/3
平成 17 年度	7/26	11/21	3/9
平成 18 年度	7/13	11/16	3/20
平成 19 年度	6/8	11/1	3/26



報道機関への情報提供

福井県教育記者クラブ加盟 12 社に加え、日刊工業新聞、日本経済新聞、北國新聞及び科学新聞への情報提供を開始、また、特に優れた研究成果については通常の投げ込み以外に文部科学記者クラブでの共同記者会見を開催する等県外への広報の充実を図った。

記者クラブ懇談会での意見を参考に研究成果の公表システムについて検討し、学術リポジトリや総合データベースを利用した研究成果及び知的財産の公表システムの構築を開始した。



研究室紹介等報道機関の企画への協力に対し、情報の効果的な発信に関するアドバイスを受ける等報道機関との協力体制を構築した。

その他産学官連携関係

産学官連携本部と連携を図り、包括協定締結企業の情報誌に産学官連携情報を掲載、また、広報紙、HP による大型研究プロジェクト等の研究成果の広報に努めた。

広報紙は産学官連携本部協力会を中心とする企業にも配布を開始し、広報紙縦じり込みアンケートを実施、また、本学における企業説明会時に企業のモニタリングを行い、それぞれの意見を広報紙による研究紹介の参考とし、研究情報発信の充実を図った。

研究成果等学部における情報収集のため、学部推薦の広報センター室員に加え、学部支援室等に広報協力員を置き、情報収集の充実を図った。



(事務局資料)

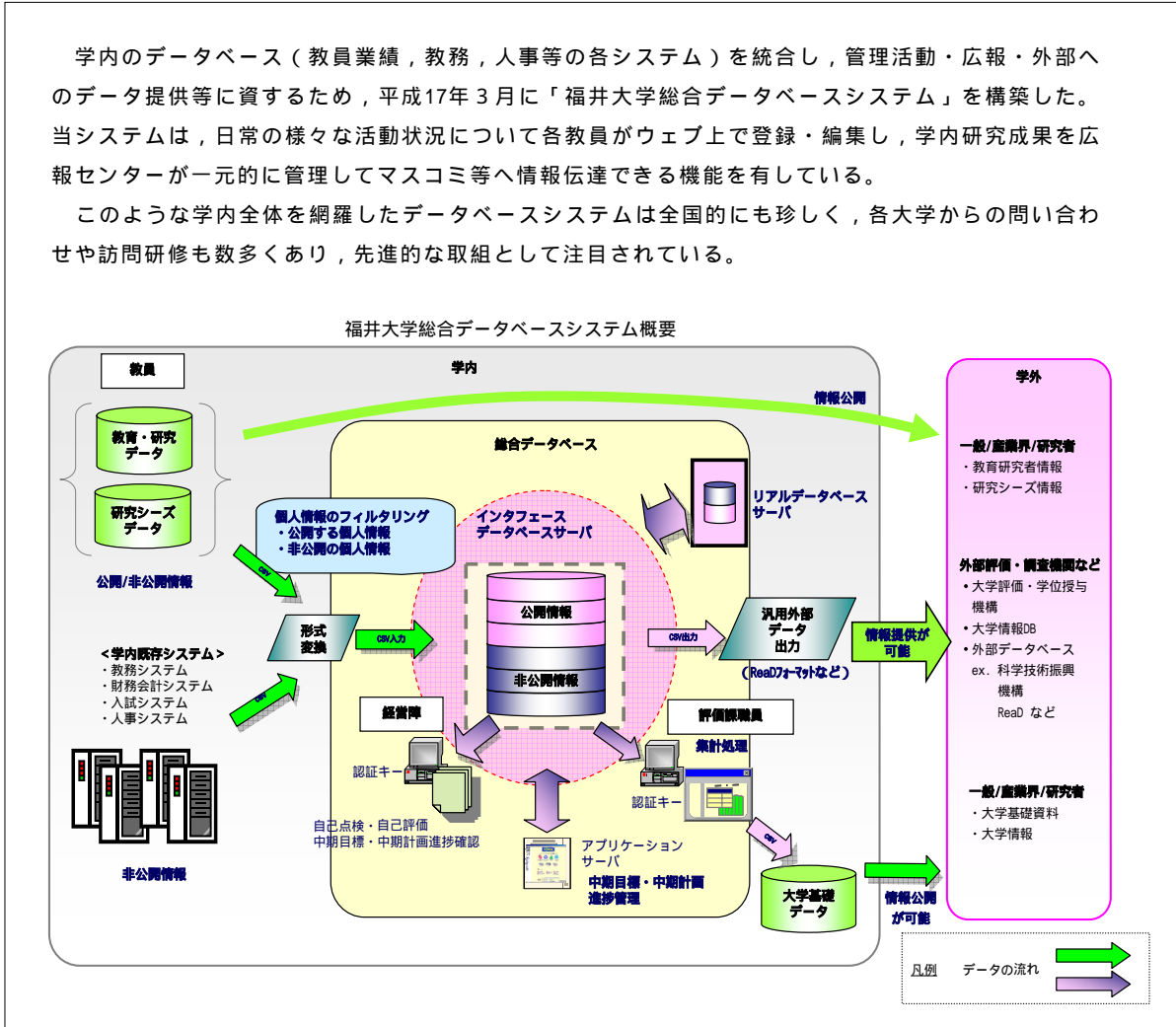
総合データベースシステムを活用した広報体制の整備

平成 17 年度の「福井大学総合データベース」の構築により，ウェブ上で各教員・事務局が入力する学内の研究成果等を一元的に管理することが可能となり，広報センターを通じてマスコミ等へリアルタイムに情報発信できる体制が整備された【資料 1-12-4】。

資料 1-12-4 総合データベースシステムを活用した広報体制の整備

学内のデータベース（教員業績，教務，人事等の各システム）を統合し，管理活動・広報・外部へのデータ提供等に資するため，平成17年3月に「福井大学総合データベースシステム」を構築した。当システムは，日常の様々な活動状況について各教員がウェブ上で登録・編集し，学内研究成果を広報センターが一元的に管理してマスコミ等へ情報伝達できる機能を有している。

このような学内全体を網羅したデータベースシステムは全国的にも珍しく，各大学からの問い合わせや訪問研修も数多くあり，先進的な取組として注目されている。



産業界への情報発信の推進

産学官連携本部【P15 資料 1-3-12~13】では，広報センターとの連携を図りつつ，企業代表者との懇談会【P56 資料 1-11-2】，県内産業界との技術交流会【P58 資料 1-11-4】等により，学内研究成果の情報発信に努めている。

附属図書館における学术论文等の公表

附属図書館では，データベースによる検索システムの整備【資料 1-12-5】，電子ジャーナル【資料 1-12-6】・学術機関リポジトリの構築【P39 資料 1-7-10】等により情報発信体制を整備している。

資料 1-12-5 本学で利用できるデータベース

データベース名	分野
PubMed	<p>米国国立医学図書館(NLM)が作成する文献データベースで、医学および広範囲にわたる関連分野の論文情報を収録しています。この分野では、最も網羅的で信頼性の高いデータベースとなっています。</p> <p>分野：医学(薬学)、看護学、歯学  提供機関：U.S. National Library of Medicine  収録対象：学術雑誌論文、レビュー、モノグラフ(論文集)など  対象誌：約4,300誌(70か国)  範囲：1951年～</p>
医中誌 Web	<p>医学中央雑誌刊行会が作成する文献データベースで、日本国内で刊行される医学、歯学、薬学および関連分野の論文情報を収録しています。この分野の日本語文献に関しては、最も網羅的なデータベースとなっています。</p> <p>分野：医学、歯学、薬学  提供機関：医学中央雑誌刊行会  収録対象：国内で刊行される学術雑誌論文、会議録、講演集など  対象誌：約2,500誌  範囲：1983年～</p>
EBMR (Evidence Based Medicine Reviews)	<p>医療従事者向けにデザインされた、「科学的根拠に基づく医療」の実践を支援するデータベースです。エンドユーザの代わりに、膨大な数のオリジナル文献を収集、解釈、分析し、医学、医療の最新の展開を効率よく臨床に応用するためのツールになります。</p> <p>以下の4つのデータベースを収録しています。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ACP Journal Club</li> <li>・The Cochrane Database of Systematic Reviews: CDSR</li> <li>・Database of Abstracts of Reviews of Effectiveness: DARE</li> <li>・Cochrane Central Register of Controlled Trials: CENTRAL</li> </ul>
UpToDate	<p>医師が医師のために作った臨床支援ツールで、各分野のエキスパート(3,000人)が平易な文章で指針を提供します。</p> <p>毎月300誌を越える雑誌からの確かなデータに基づいたものでかつ臨床に適用できる情報を収集しており、専門家の査読を経た7万ページ以上のオリジナルテキストからなります。年3回全内容の45%が改訂更新されており、図表やX線写真等のグラフィックス、薬剤情報、MEDLINEの抄録など関連情報を多数収録しています。</p>
CINAHL	<p>CINAHL Information Systemが作成している看護系のデータベースです。</p> <p>収録録タイトル数は1982年より約1,200誌以上、その他関連の図書・博士論文・会議録・視聴覚資料・教材ソフト情報なども含みます。</p>
SciFinder Scholar	<p>『SciFinder Scholar』では、従来『Chemical Abstracts』に収録されてきた化学文献情報を中心に、物理、医薬、生命、農学などの関連分野や特許情報など、さらには物質情報も検索できるデータベースです。また、検索結果を分析するAnalyze機能を備えており、その分野の研究動向を知ることができる、優れたデータベースとなっています。</p> <p>分野：化学および化学工学を中心に、物理、医薬、生命、農学など  提供機関：CAS(Chemical Abstracts Service)  収録対象：学術雑誌論文、会議録、特許、学位論文、テクニカル・レポートなど  対象誌：化学分野は約9,000誌(150か国)  範囲：化学文献情報 1840年～</p>
SwetsWise(雑誌論文検索システム)	<p>Swets Information Servicesが提供する外国雑誌15,000タイトル(全分野)を収録しているデータベース検索システムです。</p> <p>分野：全分野  収録雑誌数：約15,000タイトル  データ収録年：2001年1月分</p>
J Dream	<p>科学技術全般の日本語文献情報が検索できます。</p> <p>(書誌データのみで抄録データは表示させません。また、ダウンロード機能は2007年7月からサービス開始予定となっています。)</p>

データベース名	分野
MathSciNet	<p>アメリカ数学会 (American Mathematical Society) の『Mathematical Reviews』誌に相当する、数学関係の学術雑誌、会議録、図書等の書誌情報を収録する文献データベースです。論文名や著者名などの書誌事項から検索できるほか、数学分野の標準的な分類である Mathematics Subject Classification (MSC) 番号から検索することができます。</p> <p>分野：数学 提供機関：American Mathematical Society 収録対象：学術雑誌論文、会議録、図書など 対象誌：約 1,800 誌 範囲：1940 年～</p>
J C R (Journal Citation Reports on the Web)	<p>JCR とは世界の主要学術雑誌を評価するためのツールで、学術界における雑誌の重要度、影響度を測るための有用な指標を提供しています。</p> <p>Science edition (自然科学版) と Social Science edition (社会科学版) がありますが、本学では Science edition のみを購読しています。</p>
雑誌記事索引	<p>国立国会図書館で収集した国内の学術雑誌、専門誌、一般誌、紀要などの記事索引で、国内で発行された雑誌に掲載された論文については、ある程度網羅的に調べることができます。</p> <p>分野：全般 (日本国内の論文) 提供機関：国立国会図書館 範囲：1948～ (1948～74 は人文・社会系のみ)</p>

(附属図書館ホームページより)

資料 1-12-6 福井大学電子ジャーナル一覧

コレクション名	出版社等	タイトル数	分野	備考
Science Direct フリーダム・コレクション	Elsevier	約 1,800	全分野	自宅等(学外)からの利用も可能 (ただし、利用申請書の提出が必要)
Springer-LINK (Kluwer 含む)	Springer (Kluwer)	約 1,150	全分野	
ACS Web Editions	ACS	32	化学分野	
ProQuest-Academic Research Library	ProQuest	約 2,000	人文系中心の 全分野	自宅等(学外)からの利用も可能 (ただし、利用申請書の提出が必要)
ProQuest-Health and Medical Complete	SUNMEDIA	約 500	医学分野	
IEEE CSDL Computer Society	IEEE	26	情報処理分野	会議録約 1,000 タイトルのアクセスも可能
IEEE ASPP All-Society Periodicals Packages	IEEE	約 130	科学技術分野	文京キャンパスのみの利用
ACM Portal	ACM	80	情報処理分野	会議録約 180 タイトルのアクセスも可能
APS Journals	APS	8	物理学分野	
Nature.com	Nature	16	自然科学分野	Nature 本誌、Research 誌、Review 誌のアクセスが可能
Science	AAAS		自然科学分野	松岡キャンパスのみの利用
Transactions of the ASME	ASME International	22	機械工学分野	文京キャンパスのみの利用(冊子とセット購読)
冊子購入等により提供されるもの(電子ジャーナルのみの購読も含む)		27		
フリーの電子ジャーナル	(リンク集)			

(附属図書館ホームページより)